

MieMu

みえむ

2016

三重県総合博物館 年報

Mie Prefectural Museum Annual Report

通
巻

3

号

ごあいさつ

三重県総合博物館MieMu(みえむ)は、開館以降三重の自然と歴史・文化に関する大切な資産を保全・継承していくことはもちろんのこと、次代を担う子どもたちをはじめ、県民のみなさんや利用者の方々の学びと交流の場となり、郷土への愛着や誇りを感じることができるように、人づくり、地域づくりに貢献できる博物館を目指して活動しております。また、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動の理念と位置づけ、県民のみなさんや利用者の方々との協創や、多様な主体との連携による博物館づくりを前進させるべく日々活動しております。

ここに、当館の平成28年度の事業概要を取りまとめた年報を発刊いたします。この年の企画展では、三重の魅力の基となる様々なテーマを重点的にとりあげ展示いたしました。「伊勢志摩」ではサミットにあわせて同地域の魅力の源泉となっている文化財を、「大変動の地」ではこの地にかつて生息した国内最大級の恐竜“トバリユウ”を、「The NINJA」では多くの人びとをひきつけてやまない伊賀流忍者を、「植木等と昭和の時代」では三重出身のスター植木等を取りあげました。また、研究についても、本格的研究論文から多くの方へ届ける普及的著作に至るまで、さまざまな業績を重ねつつあります。おかげさまで、開館3年目となるこの年の8月には入館者数70万人を、12月には入館者数80万人を達成いたしました。

館の運営をさまざまな面から支えていただいているみなさまに深く感謝を申し上げますとともに、三重県総合博物館への一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成30年3月

三重県総合博物館 MieMu(みえむ)

館長 大野 照文

MieMuとは・・・

「三重」の「ミュージアム」を表現しているとともに、“みえむ”という音は“三重の夢”に通じ、三重への愛着や誇りを持ち、未来への夢を持てるような博物館になりたいという思いを表現しています。



目 次

ごあいさつ	1	5.3.1 講座	44
目次	2	5.3.2 フィールドワーク	47
I 博物館の概要	3	5.3.3 学習支援冊子・マップ	48
1 使命と理念	3	5.3.4 人材育成支援活動	48
2 ビジョンと戦略目標・戦術	4	5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業	48
3 沿革	5	5.4.1 学校	48
3.1 MieMuの日（周年事業）	5	5.4.2 大学	50
4 施設概要	6	5.4.3 博物館	51
II 平成28年度の取組概要	7	5.4.4 文化交流ゾーン	54
1 運営管理	7	5.4.5 国県市町など	54
1.1 事業体系	7	5.4.6 その他の諸機関・諸団体	56
1.2 組織体制	7	5.5 他機関・団体への協力（職員の諸団体への 協力活動）	58
1.3 運営状況	8	5.5.1 委員、講師等の依頼	58
1.4 利用者数	8	6 企業との連携	62
1.5 歳入歳出決算	9	6.1 事業の趣旨・目的	62
1.6 三重県総合博物館協議会	10	6.2 パートナー企業数	63
1.7 三重県総合博物館協議会評価部会	11	6.3 連携事業	63
2 調査研究事業	11	7 利用者との協創	64
2.1 研究概要	11	7.1 事業の趣旨	64
2.2 研究成果一覧	12	7.2 三重県総合博物館ミュージアム・パート ナー	64
3 資料収集・保存	17	7.3 ボランティア	69
3.1 収蔵資料一覧概要	17	8 広報	70
3.2 資料収集	17	8.1 新聞・テレビ・ラジオ	70
3.3 歴史的公文書の移管	20	8.2 雑誌	70
3.4 資料保存	21	8.3 ホームページ	70
4 展示	21	8.4 Facebook・Twitter	71
4.1 基本展示	21	9 博物館の評価	71
4.2 企画展示	22	9.1 評価のしくみ	71
4.2.1 企画展	22	9.2 平成27年度の戦略目標と戦術の評価結果	72
4.2.2 交流展	29	9.3 みんなでつくる博物館会議	74
4.2.3 トピック展	33	9.4 アンケート結果概要	74
4.3 こども体験展示室	34	III 資料	
4.4 三重の実物図鑑	35	1 条例・規則	79
4.5 オオサンショウウオ生態展示	36	1.1 三重県総合博物館条例	79
4.6 学習交流スペース展示等	37	1.2 三重県総合博物館条例施行規則	86
4.7 三重を知る1,000冊	37	1.3 三重県総合博物館協議会評価部会 設置要綱	92
4.8 野外展示	37	1.4 観覧料免除要項	93
4.9 移動展示	39	2 事業成果一覧	95
5 交流創造活動事業	40		
5.1 事業の趣旨・目的	40		
5.2 閲覧レファレンス活動事業	40		
5.2.1 レファレンス事業	40		
5.2.2 資料利用（閲覧・特別利用）	40		
5.3 学習支援活動事業	44		

I 博物館の概要

1 使命と理念

1) 使命

1 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす

三重の自然と歴史・文化に関する資産を、次なる100年、200年に向けて保全・継承するための主要な役割を果たし、三重のありようや履歴を明らかにすることで、地域文化の発展と新たな地域創造につなげます。

2 学びと交流を通じて人づくりに貢献する

MieMuでは、三重の未来を担う子どもたちは、世代を越えた交流の場で、楽しみながら、体験的に学びます。こうしたなかで、子どもたちは、三重への理解と愛着を深め、夢や希望あふれる未来を拓くきっかけを得ます。また、県民・利用者みなさんは、学ぶ充実感を得、知的好奇心を育み、一人ひとりの成長につなげます。

3 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

県民・利用者みなさんが、博物館活動の中で、地域に目を向け地域の魅力を再発見し、内外に発信することにより、地域や三重への愛着と誇りを育みます。また、一人ひとりが、各々の関心や生活課題の解決や、新たな地域づくりに取り組むきっかけを提供します。

2) テーマ

三重が持つ多様性の力

MieMuでは、三重の特色である「多様性」と「多様性」に秘められた力について、県民・利用者みなさんとともに探求し、活用、発信するなかで、三重の地域や人に活力をもたらし、「新たな文化を創造する力」、「今をつくり、未来を切り拓く力」を育みます。

・多様性の探求がもたらす力

多様な自然と歴史・文化を探求することで、一人ひとりが三重の魅力を再発見するなかで、三重への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらしします。

・新たな文化を創造する力

多様（＝異なるもの）であることにより、可能性と選択の幅が広がります。また、異なるものどうしが融合・反発・刺激しあうことにより新しいものを生み出すことにつながることから、「新たな文化を創造する力」をもたらしします。

・今をつくり未来を切り拓くちから

三重の「多様性」を、みなさんとともに探求・活用・発信することを通じて、地域の相互理解を深め互いの絆を育むとともに、地域や時代の課題解決につなげていけるような、「今をつくり、未来を切り拓く力」をもたらしします。

《三重の多様性とは》

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くに及ぶ山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育む日本列島の縮図のような自然を有しています。その豊かで多様性に富んだ自然環境のもとで、人びとの多様なくらしや歴史が育まれてきました。また、三重は古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会い場所として、活発な人やモノの交流、異なる文化の接触がおこり、新たな文化、多様な文化を生み出してきました。

3) 活動理念

ともに考え、活動し、成長する博物館

博物館活動の展開にあたっては、調査研究活動、収集保存活動、活用発信活動の3つの活動を「協創」と「連携」の2つの視点で進めます。これにより、すべての博物館活動において、県民・利用者のみなさんが主体的・能動的に活動できる双方向の活動を通して博物館活動を質量ともに発展させ、一人ひとりの成長と地域づくりを支援していくことをめざします。

2 ビジョンと戦略目標・戦術

1) 活動と運営に係る評価のしくみ

長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(平成26年度～平成28年度)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしている。なお、戦略目標とは計画期間中、重点的に目的をもって取り組むことであり、戦術とは戦略目標達成のために、具体的に取り組むこととした。

2) ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。

この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもったことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。

三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者のみなさんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

3) 戦略目標と戦術

戦略目標		戦術	
1	新たな利用者のすそ野が広がり、何度も利用してもらえるために、事業内容を充実させます	1	多様な層を獲得するため、行ってみたくなる企画展を実施します
		2	基本展示を何度も利用してもらうために、展示の更新や解説を実施します
		3	学校利用を促進するために、館内プログラムを充実します
2	博物館の存在が広く伝わるために、開館の利点を活かして積極的な広報を展開します	4	利用者が受動的に目に入るメディアに掲載してもらうため、メディア向け説明会や内覧会をします
		5	利用者が受動的に目に入る広報ツール(ポスター)を活用するために、みりょく発信隊による広報活動を強化します
		6	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得る広報ツールであるホームページを充実させます
		7	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得るツイッターを定期的に更新します
3	「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します	8	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得るフェイスブックを定期的に更新します
		9	活動への参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します
		10	活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します
		11	経営への参画促進のために、みんなでつくる博物館会議をします

戦略目標		戦 術	
4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します	12	収蔵資料を保全するために、収蔵庫と展示室の定期清掃を行います
		13	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、保存・保全環境を改善します
5	地域にある資料の学術的価値づけとその意義を伝えるために、地域づくりに貢献できるような総合的な研究を対象を絞って集中的に取り組みます	14	地域が研究に参画するために、小中学校に調査カードを配布し一緒に調べます
		15	地域の人々が研究に参画するために、研究調査を兼ねた観察会などの事業を実施します
		16	研究成果の意義を伝えるために、発表会や企画展示、シンポジウムを開催します
6	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します	17	事業を日常的に確認し改善するために、定期および臨時の戦略会議の場をもちます
		18	評価制度が有効に働いているかを確認するために、評価士に定性評価していただきます

3 沿革

平成25年 6月	○三重県総合博物館条例公布(平成26年4月19日施行)
平成25年 8月	・愛称決定・発表(MieMu:みえむ) ・三重県立博物館からの移転に着手(～平成26年1月)
平成26年 1月	○三重県総合文化センターとの連絡通路竣工
平成26年 2月	○新県立博物館外構関係工事完了
平成26年 3月	○新県立博物館展示製作・施工完了 ○三重県総合博物館条例施行規則公布(平成26年4月19日施行)
平成26年 4月	○開館(18日:開館記念式典 19日:グランドオープン)
平成26年 6月	○入館者数10万人達成(6/1:開館39日目)
平成26年 8月	○入館者数20万人達成(8/6:開館95日目)
平成26年11月	○入館者数30万人達成(11/16:開館183日目)
平成27年 5月	○入館者数40万人達成(5/17:開館334日目)
平成27年 9月	○入館者数50万人達成(9/22:開館444日目)
平成28年 3月	○入館者数60万人達成(3/20:開館592日目)
平成28年 8月	○入館者数70万人達成(8/13:開館719日目)
平成28年12月	○入館者数80万人達成(12/17:開館826日目)

3.1 MieMuの日(周年事業)

開館日である4月19日を「MieMuの日」と銘打ち、毎年「MieMuの日」前後の日曜日に記念イベントを実施し、利用者の皆さんや地域の方々に日頃の感謝を伝える取組を行っていくこととした。平成27年度については、開館1周年を記念して先着プレゼントやワークショップ等を開催した。

1 実施日時

平成28年4月17日(日) 午前9時から午後7時まで

2 当日の特典

- ・先着100名様にオリジナル缶バッジをプレゼント
- ・「家庭の日」(第3日曜日)のため、全展示の観覧を2割引き

3 イベント

行事名	会場	概要	人数
特別企画「クイズに答えてグッズをゲットしよう！」	企画展示室	企画展の展示室内にあるクイズに挑戦、抽選で豪華賞品があたる。16日(土)も開催。	1,299
オレンジグッズを着て、MieMuに行こう！	エントランスホール	オレンジグッズを身に付けてきた方に缶バッジをプレゼントする。	783
第11回企画展「伊勢志摩」関連ワークショップ「浮世絵ぬりえ」	学習交流スペース	開催中の企画展に関連して、当館所蔵の伊勢志摩に関連する浮世絵を題材にしたぬりえにチャレンジ。	72
三重県バス協会協賛イベント「お絵かきバス&制服体験」	駐車場	MieMuの開館2周年を記念して、MieMuのロゴ入りバスにみんなでお絵かき。	220
手すき和紙体験	実習室	工房 やまの風（就労継続支援B型事業所）のみなさんによる講座	30

※手すき和紙体験は、ミュージアムショップ「MieMu SHOP」協賛で実施した。

4 施設概要

名 称 三重県総合博物館

(愛称：MieMu(みえむ))

種 別 登録博物館(総合)

開 館 日 平成26年4月19日

所 在 地 〒514-0061

津市一身田上津部田3060

電 話 059-228-2283(代)

F A X 059-229-8310

メ ー ル MieMu@pref.mie.jp

ホームページ

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>

ツイッター

https://twitter.com/mie_pref_museum

フェイスブック

<https://www.facebook.com/mie.pref.museum>

【敷 地】

敷地面積 38,884㎡

地域地区 第1種低層住居専用地域、
第2種住居地域

【建 物】

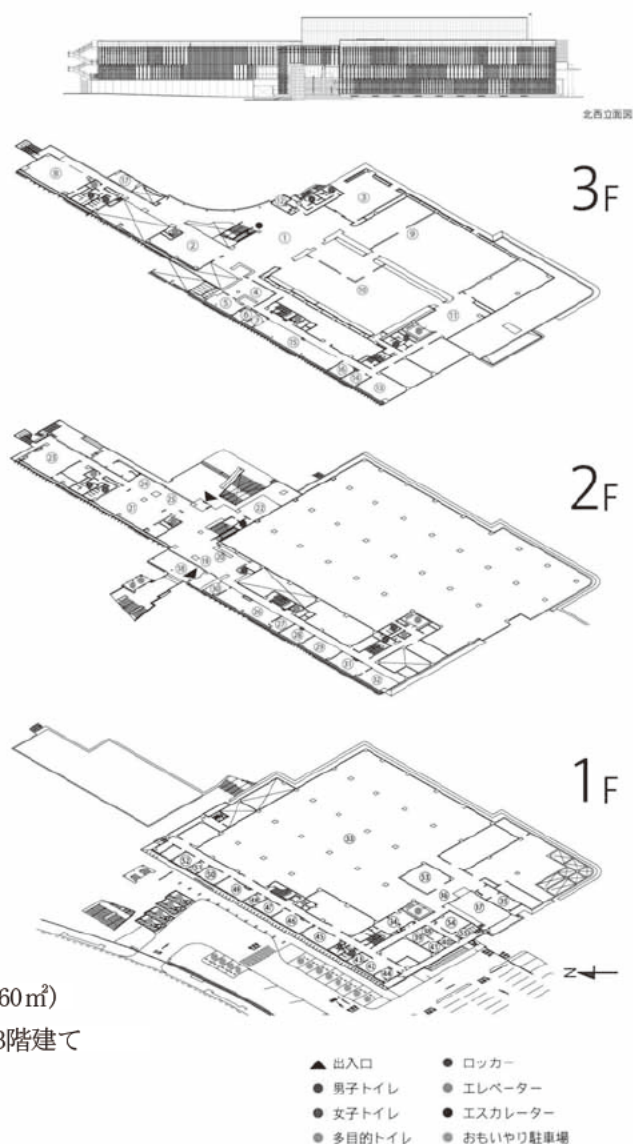
建築面積 6,889㎡

延床面積 11,705㎡

(各階延床積 1階：4,760㎡、
2階：2,125㎡、3階：4,637㎡、屋上階：60㎡)

構 造 SRC造一部RC造、免震構造、3階建て

設計G L 18m



Ⅱ 平成28年度の取組概要

1 運営管理

1.1 事業体系

●総合博物館管理運営費

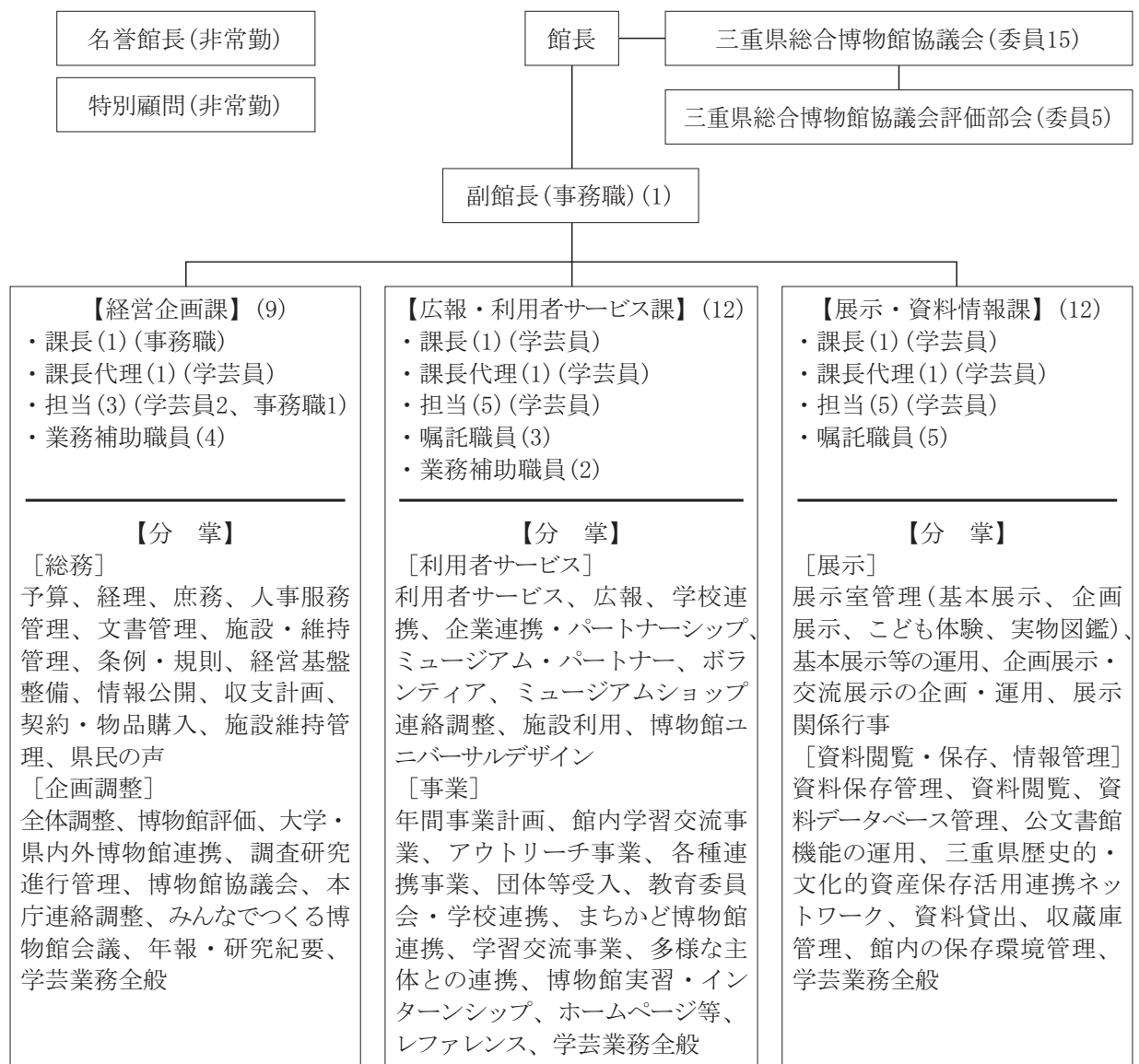
- ・総合博物館管理運営費 施設保守、維持 等

●総合博物館展示等事業費

- ・調査研究費 総合研究、専門研究、共同研究及等の調査研究活動
- ・資料収集管理費 資料収集、資料修復、資料保存環境の管理 等
- ・交流創造活動費 学習交流スペースでのレファレンス活動、ワークショップ 等
- ・展示企画運用費 各種企画展の開催準備 等
- ・アウトリーチ活動費 フィールドワーク等の博物館活動を地域との連携により県内各地で実施
- ・広報宣伝営業推進費 広報宣伝及び企業等への営業活動

1.2 組織体制

1) 組織図・分掌



2) 職員名簿(平成29年3月31日時点)

館 長	大野 照文	名誉館長	野呂 昭彦
副 館 長	松井 一明	特別顧問	布谷 知夫
経営企画課		広報・利用者サービス課	
課 長	小川 知佐子	課 長	天野 秀昭
課長代理	中野 環	課長代理	瀧川 和也
主 査	松本 浩一	主 査	大西 到
主 査	北村 淳一	主 査	大島 康宏
学 芸 員	中村 千恵	主 査	太田 光俊
業務補助職員	加藤 美智子	主 任	田村 香里
業務補助職員	田畑 友莉子	主 任	門口 実代
業務補助職員	玉置 紀子	嘱 託 員	山本 伸一
業務補助職員	吉川 ひとみ	嘱 託 司 書	伊藤 泉子
(業務補助職員 畑井 真由)		嘱託学芸員	稲垣 玲弥
(9月末で退職)		業務補助職員	堀江 真季子
		業務補助職員	打田 美紀
		展示・資料情報課	
		課 長	岸田 早苗
		課長代理	宇河 雅之
		主 幹	杉谷 政樹
		主 幹	藤谷 彰
		主 査	間渕 創
		主 査	中川 良平
		主 任	森田 奈菜
		嘱託学芸員	津村 善博
		嘱託学芸員	水谷 憲二
		嘱 託 員	和田 明子
		嘱 託 員	井上 有希
		嘱 託 員	山本 梨加

【職員体制】 常勤職員21(館長1、副館長1、事務2、学芸員17)、嘱託8、業務補助職員6

1.3 運営状況

- ・開館時間 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア]
休館日を除く全日 9時～19時
[展示エリア]
火～金曜日 9時～17時 土日祝日 9時～19時
- ・休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、別途定める日(くん蒸など)
- ・観覧料等 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア] 無料
[展示エリア] 下表のとおり

		基本展示	企画展示	セット券	年間パスポート
当 日 券	一般	510円	その都度定める	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,640円
	高校生以下	無料	その都度定める (無料を基本)	設定なし	設定なし
	学生(大学、各種専門学校等)	300円	その都度定める (割引を基本)	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,020円
	障がい者及びその付添者	無料	無料	設定なし	設定なし
	学校、児童福祉施設としての利用	無料	無料	設定なし	設定なし
	県民の日の記念事業の日	無料	正規価格	設定なし	—
	家庭の日 (毎月第3日曜日)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	—
	団体割引 (20名以上)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	設定なし
	前 売 券	設定なし	正規価格の2割引	正規価格の2割引	設定なし

1.4 利用者数

平成28年度における当館利用者数は、以下のとおりである。平成28年度の開館日数は190日となっている。

また、詳細な利用者統計に関しては、Ⅲ 資料 2 事業成果一覧 に掲載する。

- 1) 入館者数 240,906人 ※博物館への入館者総数(無料スペースのみの利用者を含む)
- 2) 展示観覧者数 171,547人 ※基本展示及び企画展示の観覧者総数(無料観覧者数を含む)
(うち、基本展示82,595人 企画展示88,952人)
[参考(外数)] 交流展示、トピック展示観覧者数 52,053人
- 3) こども体験展示室利用者数 82,679人
- 4) 資料閲覧室利用者数 入室者数 2,367人 資料閲覧者 1,503人
- 5) 学校による利用者数 238校 9,927人(引率者を除く)
- 6) 各種イベント等参加者数 5.3学習支援活動事業に記載

1.5 歳入歳出決算

●歳入

単位：円

【項目】	【平成28年度決算額】
観覧料収入	33,314,910
企業からの協力(企業パートナーシップ 等)	6,170,000
施設活用による収入(ミュージアムショップ等)	5,699,387
その他事業関連収入(資料利用収入等)	972,339
公的団体等からの外部資金の獲得	2,600,000
外部資金を活用した基金からの繰入	9,000,000
県費	395,603,639
合計	453,360,275

●歳出

単位：円

【項目】	【平成28年度決算額】
事業費(総合博物館展示等事業費)	99,983,225
維持管理費・一般管理費(総合博物館管理運営費)	113,822,555
人件費(職員・嘱託員・業務補助員)	239,554,495
合計	453,360,275

1.6 三重県総合博物館協議会

1) 目的

三重県総合博物館協議会は、三重県総合博物館の経営や、調査研究、資料の収集・保存、展示やワークショップなどの博物館活動、並びに、博物館活動を通じた人材育成や地域づくりについて、委員の方々に専門的立場や利用者の観点から意見・提言をいただき、博物館の事業推進に活かすことを目的として設置した。

2) 設置根拠

博物館法第20条、三重県総合博物館条例第14条

3) 設置年月日 平成26年4月19日(土)

4) 委員 県内の大学、経済界、報道機関、文化・教育機関、博物館関係者等で構成。

阿部和久 中日新聞社三重総局 総局長

大西かおり NPO法人大杉谷自然学校 校長

岡野友彦 皇學館大学文学部 教授 皇學館大学研究開発推進センター長 佐川記念神道博物館館長

小野礼子 鳥羽市立弘道小学校 校長、三重県小中学校校長会 幹事

北村美香 株式会社ノルテム 取締役、滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員

齋藤彰一 株式会社三重銀行 特別顧問
 須田俊明 NHK津放送局 局長
 高井健司 大阪市経済戦略局文化部文化課経営形態担当 課長
 田部眞樹子 NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター 理事長 [副会長]
 中尾正己 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー 代表
 中村忠明 公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長
 西岡慶子 株式会社光機械製作所 代表取締役社長
 福島幸宏 京都府立総合資料館企画総務部企画調整係
 山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役
 山田康彦 三重大学教育学部 教授 [会 長] (敬称略：五十音順)

5) 協議会

①第1回 三重県総合博物館協議会

- 1 日時 平成28年7月20日(水)13時30分～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 大西かおり、小野礼子、北村美香、齋藤彰一、須田俊明、高井健司、田部眞樹子、
中尾正己、中村忠明、福島幸宏、山下治子、山田康彦
- 4 内容

報告事項

(1)平成27年4月から平成28年6月までの三重県総合博物館の活動と運営

- 1) 前回の協議会でご指摘いただいた課題
- 2) 企画展
- 3) 入館者・展示観覧者の概要およびアンケート結果
- 4) 交流創造事業・利用者組織・企業連携
- 5) 歴史的公文書
- 6) 平成27年度内部評価結果

検討・協議事項

- (1) 入館者の確保につながる取組
- (2) 平成29年度の企画展の考え方について

その他

- (1) 文化交流ゾーンの経営形態について

- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は4名

②第2回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 平成28年12月21日(水)13時30分～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 阿部和久、大西かおり、岡野友彦、小野礼子、北村美香、齋藤彰一、須田俊明、高井
健司、田部眞樹子、中尾正己、中村忠明、西岡慶子、福島幸宏、山下治子、山田康彦
- 4 内容

報告事項

(1)平成28年7月から平成28年11月までの三重県総合博物館の活動と運営

- 1) 前回の議事でご指摘いただいた課題の対応状況
- 2) 企画展の開催結果
- 3) 入館者・展示観覧者の概要およびアンケート結果
- 4) 交流創造活動事業・利用者組織・企業連携

- 5) 公文書館機能
- 6) 平成27年度決算
- 7) 平成27年度外部評価結果

協議事項

- (1) 外部評価結果を受けた今後の改善案
- (2) 平成28年度1月以降の入館者の確保につながる取組
- (3) 「平成29年度以降の活動と運営」の考え方

その他

- (1) 文化交流ゾーンの経営形態について

- 5 会議の公開 会議は公開で行い会、傍聴者は4名でした。

1.7 三重県総合博物館協議会評価部会

1) 目的

三重県総合博物館協議会に、三重県総合博物館の活動と運営に対して評価を実施するために設置。

2) 設置根拠 三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱に基づき設置。

3) 設置年月日 平成26年9月5日

4) 委員

亀山裕美子 評価士

北村美香 株式会社ノルテム 取締役、滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員

齋藤彰一 株式会社三重銀行 特別顧問

高井健司 大阪市経済戦略局文化部文化課経営形態担当 課長 [部会長]

中村忠明 公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長

山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役 [副部会長]

(敬称略：五十音順)

5) 評価部会

①第1回三重県総合博物館協議会評価部会

1 日時 平成28年9月9日(金)13時～16時

2 会場 三重県総合博物館会議室

3 出席委員 亀山裕美子、齋藤彰一、高井健司、中村忠明、山下治子

4 内容

審議

1) 内部評価結果の説明

2) 各戦略の評価と今後に向けての改善点

5 会議の公開 会議は非公開で行った。

2 調査研究事業

2.1 研究概要

1) 事業の趣旨・目的

博物館の使命やビジョンを達成するため、調査研究方針に基づき、調査研究を推進し、その調査研究の成果を、展示をはじめとする博物館の活用発信活動で活用することによって、人づくりや地域づくりに貢献する。

2) 事業の概要

他の研究機関との連携のもと、多分野の研究領域による総合研究や共同研究、学芸員がそれぞれの専門

領域の調査研究を行う専門研究、および公文書館機能として歴史的文化的資産の調査研究活動を行った。

(1) 総合研究

「三重の自然と歴史・文化」について、三重県総合博物館の使命を体現する活動として、地域づくりに貢献する課題を総合的にとらえて研究し、博物館の全学芸員と外部関係者とともに実施する。開館から当初3年間は、連携協定を結んでいる三重大学と連携し、志摩市域の先志摩半島地域を対象フィールドとして、地域の自然・歴史文化について総合的な調査研究を実施した。その成果は、企画展示や移動展示、研究報告会、シンポジウムなどで発信し、地域づくりに活用できるように取り組むことを計画している。

- ・平成28年度は、対象の地域でフィールドワークを中心に調査を実施するとともに、平成29年2月18日（土）～3月19日（日）に志摩市歴史民俗資料館で移動展示「先っちょ志摩に生きる」を開催し成果を地域の皆さんに示した。

(2) 共同研究

博物館のキラーコンテンツであるテーマや大学連携によるテーマなどを、外部の研究者とともに1年から数年間の期間で実施する。

過去の実施内容：ミエゾウ化石の研究：三重の名前がついたミエゾウについては、これまでの研究成果に基づき平成26年度に企画展を開催した。

(3) 専門研究

博物館の学芸員が自らの高度な研究能力を維持していくために、専門となる自然や人文、総合分野において実施した。

北村淳一：タナゴ亜科魚類の生態と進化に関する研究

大島康宏：当館ミュージアムフィールドにおける昆虫類のトランセクト調査

間渕 創：リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングに関する研究

間渕 創：文化財等の保存・展示環境に関する研究

間渕 創：文化財等の材質・構造に関する科学的手法による調査・研究

中村千恵：展示観覧者の観覧行動に関する研究

中村千恵：こども体験展示室の運営に関する研究

(4) 歴史的文化的資産の調査研究

公文書館機能のための活動として、歴史的公文書をはじめとする歴史的文化的資産の調査（川越町個人宅の現況確認調査）及び関係データの収集・整備を行った。

3) 研究成果の刊行

- ・三重県総合博物館研究紀要 第3号
- ・三重県総合博物館資料叢書 No. 03（陽明文庫所蔵藤堂高次書状 馬岡家文書 梶田家文書）
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第11回企画展
「伊勢志摩～常世の浪の重浪よする国へ、いざNOW！～」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第12回企画展
「大変動の地～三重の三億年・変動に生きた巨大生物たち～」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第14回企画展「植木等と昭和の時代」
- ・展示解説パンフレット 「くらしの道具～いま・むかし～」
- ・展示解説パンフレット 「すばらしい三重の文化財Ⅱ うけつぐ、まもる、つたえる。」
- ・展示解説パンフレット 「先っちょ志摩に生きる」

2.2 研究成果一覧

1) 発表論文等

Yuichiro Nishioka, Ryohei Nakagawa, Shin Nunami and Satoshi Hirasawa, 2016. Small mammalian remains from the late Holocene deposits on Ishigaki and Yonaguni Islands, Southwestern Japan.

Zoological Studies 55(5) 10.6620/ZS.

瀧川和也. 2017. 近世における高田派一光三尊仏の造像について-新知見の作者と制作の背景に関する小考-. 高田学報. 高田学会, 104:23-36

藤谷彰. 2017. 第10回企画展 国立公文書館共催 明治の日本と三重～近代日本の幕明けと鹿鳴館時代～. 独立行政法人国立公文書館アーカイブズ, 60.

藤谷彰. 2017. 近世中期における津藩知行制の実態-伊勢国給人知行地の配置を中心に-. ふびと. 三重大学歴史研究会, 68:31-44.

間瀬創・佐藤嘉則. 2017. 博物館施設におけるゾーニングへのバイオエアロゾル測定を活用. 保存科学, 56:89-98.

2) 著書・編著等

Kitamura J, Tashiro T, Nagayama S. "Inland Water System Planning: Management for Ecosystem Rehabilitation" Labor Forces and Landscape Management, Shimizu, H, Takatori, C, Kawaguchi, N (Eds.) Pages 415-430, 2016, Springer Singapore

Nagayama S, Tashiro T, Kitamura J. "Inland Water Landscape: Structural and Functional Changes in the Ecosystem" Labor Forces and Landscape Management, Shimizu, H, Takatori, C, Kawaguchi, N (Eds.) Pages 107-120, 2016, Springer Singapore

Murase Y, Kitamura J, Kawaguchi N, Shimizu H, Takatori C. "Case Studies in Flatland Farmland Neighborhood Landscape Complex Units: Asami District" Labor Forces and Landscape Management, Shimizu, H, Takatori, C, Kawaguchi, N (Eds.) Pages 233-261, 2016, Springer Singapore

大野照文 監修. 2016. 第6回「カンブリアの大爆発と多細胞動物の起源」. 生物の進化と多様化の科学 (' 17) 放送用教材. 放送大学

大野照文 監修. 2016. 第7回「顕生代の絶滅事件～オルドビス紀末を例に～」. 生物の進化と多様化の科学 (' 17) 放送用教材. 放送大学

太田光俊. 2016. 顕如発給文書について. 金龍静・木越祐馨 編, 顕如信長も恐れた「本願寺」宗主の実像. 宮帯出版社:270-289

太田光俊・横山輝樹. 2016. 第八章第一節二「藩校崇広堂」, 伊賀市編. 伊賀市史. 伊賀市:696-713

太田光俊. 2017. 第一章五節「専修寺と一身田寺内町の形成」. 三重県編, 三重県史. 三重県:170-182

大野照文. 2017. 第6章カンブリアの大爆発と多細胞動物の起源, 第7章顕生代の絶滅事件～オルドビス紀末を例に～, 二河成男編「生物の進化と多様化の科学」放送大学教材. 財団法人放送大学教育振興会:87-125

北村淳一. 2016. "イチモンジタナゴ: 地域とともに将来につなぐ"淡水魚保全の挑戦. 日本魚類学会自然保護委員会編. 東海大学出版部: 147-160

藤谷彰. 2016. 第四章第一節「伊賀の村落」一・二・三. 伊賀市編, 伊賀市史. 伊賀市:266-296

藤谷彰 編著. 2017. 川越町所蔵 片山家文書目録. 三重県川越町教育委員会, 川越町文化財調査報告2.

藤谷彰. 2017. 第二章第三節「藩政機構の特質」, 第四章第一節「村と町の支配」・第四章第三節「年貢・諸役の徴収」一・三・四. 三重県編, 三重県史. 三重県:276-304, 504-539, 582-587, 595-606,

津村善博. 2017. 第二章「丹生水銀採掘跡の位置と歴史」, 丹生水銀鉱採掘跡分布調査報告. 多気町教育

委員会:3-8

3) 報告・研究ノート等

太田光俊. 2016. 伊勢国軍記物の研究状況—豊宮崎文庫と勢州軍記著者神戸良政との関係の紹介—. ふびと, 67. 三重大学歴史研究会: 65-84,

門口実代. 2016. 岡持, 七輪, 重箱, 膳, ちゃぶ台, 長持. 木村茂光ほか編, 日本生活史辞典. 吉川弘文館: 85, 86, 292, 314, 381, 382, 431, 489

中野環. 三重県総合博物館所蔵 貝類コレクション—ツキガイ科・カゴガイ科—. 三重県総合博物館研究紀要, 3: 13-25.

中村千恵・太田光俊. 2017. 「博物館体験」を見つめるための試論—The NINJA〜忍者ってナンジャ! ? 〜」を題材に—. 三重県総合博物館紀要, 3: 27-37

中村千恵. 2017. 土井くらし館、熊野石蔵美術館、津市水道資料館、松阪市文化財センター、松阪工業高校資料館、四郷郷土資料館. 近代建築利用博物館事典 (続), 國學院大學博物館学研究室: 132-133, 135-138

藤谷彰. 2017. 明治維新期の年中行事と村役人の生活—伊勢国三重郡八王子村を事例に—. 三重県総合博物館研究紀要, 3: 38-49.

4) 普及的著作等

(新聞連載以外)

天野秀昭. 2016. ミュージアムレポート 企業との連携による博物館活動〜ブレンディの森 森づくり活動との連携〜. みえんしす, 12, 三重県総合博物館: 4.

稲垣玲弥. 2016. 博物館のおしごと (教育普及). みえんしす, 11. 三重県総合博物館: 5

稲垣玲弥. 2016. 誌上ワークショップ ドングリ図鑑をつくろう. みえんしす, 13, 三重県総合博物館: 6

稲垣玲弥. 2016. 誌上ワークショップ マツボックリでクリスマスツリーをつくろう. みえんしす, 14, 三重県総合博物館: 5

宇河雅之. 2016. 特集「植木等と昭和の時代」. みえんしす, 14, 三重県総合博物館: 1-3

大島康宏. 2016. 学芸員のカメラから 吸い込まれそうな空. みえんしす, 12, 三重県総合博物館: 6

大島康宏. 2017. ミュージアムフィールドだより 冬の昆虫観察. みえんしす, 15, 三重県総合博物館: 6

大西到. 2017. 交流展示三重のまちかど博物館「想」. みえんしす, 15, 三重県総合博物館: 3

門口実代. 2016. 展示室の舞台裏 地域にくらす方々からのメッセージ. みえんしす, 14, 三重県総合博物館: 4

門口実代. 2016. 博物館展示のいま49 三重県総合博物館 日々、成長する総合博物館をめざして. 歴博, 197: 28-29,

北村淳一. 2017. 移動展示「先っちょ志摩に生きる」. みえんしす, 15, 三重県総合博物館: 2

田村香里. 2017. 特集「きて・みて・さわってカモシカ★パラダイス」. みえんしす, 16, 三重県総合博物館: 1-3

津村善博. 2016. ミュージアムレポート 三重県の石—岩石・鉱物・化石—決まる. みえんしす, 11, 三重県総合博物館: 4.

中川良平. 2016. 第12回企画展「大変動の地三重の三億年変動に生きた巨大生物たち」. みえんしす, 11. 三重県総合博物館: 1-3.

中川良平. 2017. ミュージアムレポート 地球探検隊〜三重の大地から地球の過去を探る〜. みえんしす, 16, 三重県総合博物館: 6

中野環. 2016. 博物館のおしごと 博物館資料の活用 粋な名前がつけられた標本発見! . みえんしす, 13, 三重県総合博物館: 4.

森田奈菜. 2016. 展示室の舞台裏 基本展示室のコケ1 日本で一番、ノッポなコケ. みえんしす, 12, 三重

- 県総合博物館:5
- 森田奈菜. 2016. 展示室の舞台裏 基本展示室のコケ2 カビくさ〜いコケ. みえんしす, 13, 三重県総合博物館:5
- 森田奈菜. 2016. ミュージアムフィールドだより フィールドのきのこ1万年生きる?きのこの話. みえんしす, 14, 三重県総合博物館:6
- 森田奈菜. 2017. 交流展「すばらしい三重の文化財Ⅱ」. みえんしす, 15, 三重県総合博物館:1
- 山本梨加. 2017. 博物館のおしごと MieMuでの資料修復. みえんしす, 16, 三重県総合博物館:5 (新聞掲載)
- 宇河雅之. 2017. 1. 30. 植木等が行く① 父・徹誠の影響. 中日新聞 (広域三重):14
- 宇河雅之. 2017. 1. 31. 植木等が行く② 東京へ. 中日新聞 (広域三重):17
- 宇河雅之. 2017. 2. 1. 植木等が行く③ テレビとともに. 中日新聞 (広域三重):17
- 宇河雅之. 2017. 2. 3. 植木等が行く④ 無責任男の誕生. 中日新聞 (広域三重):19
- 宇河雅之. 2017. 2. 5. 植木等が行く⑤ 円熟の俳優へ. 中日新聞 (広域三重):23
- 宇河雅之. 2017. 2. 7. 植木等が行く⑥ 生き続ける. 中日新聞 (広域三重):19
- 宇河雅之. 2017. 5. 5. サミット開催記念企画展伊勢志摩⑥ 埴製枕 海の有力者が使用か. 中日新聞 (三重総合):11
- 宇河雅之. 2016. 6. 12. 博物館だより「貝細工」. 中日新聞 (広域三重):25
- 太田光俊. 2016. 11. 13. 博物館だより「藤堂高虎書状」. 中日新聞 (広域三重):25
- 太田光俊. 2016. 12. 11. 博物館だより「御師三日市大夫次郎屋敷模型」. 中日新聞 (広域三重):27
- 岸田早苗. 2016. 4. 30. サミット開催記念企画展伊勢志摩① 日本書記 美し国に大神が鎮座. 中日新聞 (三重総合):15
- 岸田早苗. 2016. 5. 2. サミット開催記念企画展伊勢志摩③ 西行法師絵巻 晩年の地 たたずむ姿. 中日新聞 (三重総合):13
- 岸田早苗. 2016. 5. 4. サミット開催記念企画展伊勢志摩⑤ 勢州鮑取ノ図国貞 海女をリアルに. 中日新聞 (三重総合):9
- 岸田早苗. 2016. 5. 9. サミット開催記念企画展伊勢志摩⑨ 伊勢参宮宮川の渡し広重 おかげ参り描く. 中日新聞 (三重総合):17
- 岸田早苗. 2016. 5. 15. 博物館だより「日和山エレベーター」絵葉書. 中日新聞 (広域三重):21
- 岸田早苗. 2016. 8. 14. 博物館だより「耕作図巻」狩野周信. 中日新聞 (広域三重):11
- 岸田早苗. 2017. 1. 15. 博物館だより「伊勢名所二見ヶ浦の図」歌川広重. 中日新聞 (広域三重):25
- 北村淳一. 2016. 5. 10. サミット開催記念企画展伊勢志摩⑩ ガンガゼ 海底に群れる岩隠子. 中日新聞 (三重総合):19
- 北村淳一. 2016. 4. 17. 博物館だより オオサンショウウオの「さんちゃん」. 中日新聞 (広域三重):23
- 杉谷政樹. 2017. 5. 7. サミット開催記念企画展伊勢志摩⑦ 鉄獅嚙文金銅象嵌鍬形 神島の祭祀を語る. 中日新聞21 (三重総合):21
- 杉谷政樹. 2017. 3. 12. 博物館だより「東海道分間絵図」. 中日新聞 (広域三重):25
- 瀧川和也. 2016. 5. 1. サミット開催記念企画展伊勢志摩② 妙見菩薩立像神宮関係の僧 発願か. 中日新聞 (三重総合):25
- 瀧川和也. 2016. 5. 3. サミット開催記念企画展伊勢志摩④ 薬師如来立像 日光・月光立像 円空仏に大きな影響. 中日新聞 (三重総合・三紀広域):21
- 瀧川和也. 2016. 5. 8. サミット開催記念企画展伊勢志摩⑧ 線刻阿弥陀三尊来迎鏡像 絵画としても優れる. 中日新聞 (三重総合):25
- 中川良平. 2016. 7. 3. 博物館だより「プロバクトロサウルス」. 中日新聞 (広域三重):23

中野環. 2017. 2. 12. 博物館だより「今週の三重の貝」. 中日新聞(広域三重):24

森田奈菜. 2016. 10. 9. 博物館だより「セイタカスギゴケ」. 中日新聞(広域三重):21

5) 招待講演・学会発表等

藤谷彰. 2016年9月1日三重県総合博物館における普及活動～資料閲覧利用と展示活動を中心に～. 国立公文書館アーカイブズ研修Ⅰ事例報告②, 大手町サンスカイルーム

藤谷彰. 2016年11月11日三重県総合博物館のアーカイブズ業務～保存整理・資料閲覧利用・展示・地域資料保存活動～. 全国歴史歴史資料保存利用活用機関連絡協議会全国(三重)大会及び研修会大会テーマ研究会, 男女共同参画センター「フレンテみえ」

日高真吾・中村晋也・米村祥央・和田浩・加藤和歳・田井東浩平・間潤創・内田俊秀. 2016年6月25日災害対策調査部会の活動について. 2015年度報告. 文化財保存修復学会第38回大会 特別ポスターセッション, 東海大学湘南キャンパス

間潤創. 2017年1月19日博物館における展示環境の構築・管理について. 2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム, 東京文化財研究所

間潤創. 2016年6月17日三重県総合博物館におけるIPM実施事例. 文化財虫菌害研究所 第38回文化財の虫菌害・保存対策研修会, 国立オリンピック記念青少年総合センター

間潤創. 2016年12月13日三重県における自然災害時の相互協力体制について. 文化財防災ネットワーク推進事業 中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議, 京都国立博物館

間潤創. 2017年2月28日自然災害時における三重県博物館協会の取り組みについて. 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議 平成28年度研修会, 和歌山県立近代美術館

大島康宏. 2016年10月29日地域博物館における昆虫を題材とした普及教育活動の実践例について. コガネムシ研究会, 三重県総合博物館

大島康宏. 2017年2月3日海外視察報告 Lee Kong Chian Natural History Museum シンガポール国立自然史博物館. 自然史レガシー継承・発信事業ワークショップ, 大阪市立自然史博物館

太田光俊. 2017年3月19日本願寺「門跡成」と「門跡」の間. 近世史フォーラム3月例会. 阿倍野市民学習センター

大野照文. 2016年8月25日三葉虫, 貝体新書. 文化庁「地域の核となる美術館・博物館支援事業」「愛媛県美術館・博物館・小中学校共働による人材育成事業」第3回トレーニング ワークショップ, 愛媛県総合科学博物館

大野照文. 2016年9月3日公開シンポジウム パネルディスカッション「子育て・教育が育てる成人の能力」. 国際教育学会(ISE), 京都大学. [パネリスト]

大野照文. 2016年9月7日貝体新書. 文化庁第6回ミュージアム・エデュケーター研修, 於東京都美術館

大野照文. 2016年11月5日集まれクレーアレーサミット in Mie 2016」第3部ディスカッションおよびサミット集約宣言, 三重大学. [コーディネーター]

大野照文. 2016年11月8日2016 University Museum & ICOM-ICOFOM/ASPAC Joint Conference Keynote speech "Survival of Japanese Museums in Making People Feeling Their Self-efficacy", 成功大学(台湾)

大野照文. 2016年12月16日貝体新書. 文化庁ミュージアムマネジメント研修, 東京芸術大学

北村淳一. 2016年3月18日淡水魚タナゴ類のおもしろい生態のすべて～大野にすむミナミアカヒレタビラってイトヨと同じくらいすごい?～. イトヨの里28市民講座「希少魚の保全～小さな宝物が住む美しいふるさとを未来へ～」. 大野市教育委員会. 本願清水イトヨの里(福井県大野市).

佐川 志朗・田和 康太・根岸 淳二郎・萱場 祐一・池谷 幸樹・久米 学・北村 淳一. 2016年9月24日木曽川における絶滅危惧種イタセンパラの生息場所特性. 2016 年度日本魚類学会年会, 岐阜大学

北村淳一. 2016年9月26日 タナゴ亜科魚類の生態とそれらを象徴とした持続可能な流水生態系保全の

理論と実践. 2016 年度日本魚類学会年会シンポジウム企画・発表. 2016 年度日本 魚類学会年会, 岐阜大学

林寿樹・北村淳一・永野惇・手塚あゆみ・小北智之. 2017年3月15日 タビラにおける繁殖寄生と関連した雌産卵形質セットの進化. 日本生態学会第64回全国大会, 早稲田大学

北村淳一・安福大統. 2017年3月11日. 空から見た先志摩～海と陸のなりわい～. 三重県総合博物館・三重大学連携シンポジウム「先志摩の魅力を一緒にしゃべろうや～人と自然、今と昔～」. 三重県総合博物館・三重大学, 磯部生涯学習センター（志摩市）

門口実代. 2016年11月12日. 「お雑煮にみる三重の食文化の多様性」平成28年度文化教養講座「食から見た三重の歴史・文化」朝日町歴史博物館. [発表]

3 資料収集・保存

当館では、前身の三重県立博物館収蔵資料を引継ぎ、三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承するとともに、基本展示室、企画展示等で、三重の自然と歴史・文化に関するさまざまな資料を展示することを目的に資料を収集・保存している。

3.1 資料一覧概要

〈自然分野〉 413, 653点		
地学資料	17, 336点	化石(恐竜化石・ほ乳類化石等)、岩石標本、鉱物標本等
動物資料	275, 267点	ほ乳類、鳥類、昆虫類、魚類、両生類、は虫類、貝類、クモ類、カニ類、異尾類・棘皮類、海岸動物など形態：はく製、仮はく製、骨格標本、乾燥標本、液浸標本、含浸標本など ※飼育標本：特別天然記念物オオサンショウウオ 1匹
植物資料	121, 025点	サク葉標本(原色植物標本、海藻標本、シダ植物標本、裸子・被子植物標本)、植物レプリカ、樹脂標本
理工資料	25点	
〈人文分野〉 149, 384点		
考古資料	514点	古墳出土資料等
美術工芸資料	2, 751点	絵画書跡、版画(浮世絵ほか)、工芸品(陶磁器)、工芸品(武器・武具など)
歴史資料	68, 378点	古文書類、典籍・古記録類、絵図・地図類、貨幣、引札、絵はがきなど
民俗資料	5, 952点	衣食住関連、信仰関連、生業・生産関連、交通・運輸・通信関連、芸能・娯楽関連、社会生活関連、年中行事関連資料など
歴史的公文書	71, 789点	行政文書、絵図地図等、行政刊行物
計563, 037点		平成29年3月現在

3.2 資料収集

1) 資料購入

購入日	資料名・点数
平成28年 5月 9日	・伊勢国安濃郡一色村地籍図ほか19点、三重県土寇経過被害概図1点
平成29年 3月24日	・高田山一身田御略絵図 1 舗
平成29年 3月24日	・伊勢津 田端屋田中治郎左衛門文書 2 箱

2) 資料寄贈

寄贈日	資 料 名	点数	内 容	寄贈者
平成28年 4月 4日	映写機・レコード ほか	1 式	映写機やカメラ、フィルム、蓄音機、ラジオ、レコードなど	個人
平成28年 4月 5日	刀剣	3 振	江戸時代に津藩領三重郡河原田村の庄屋を務めた旧家伝来の刀1振、短刀2 振	個人
平成28年 4月12日	霊柩車	1 台	鈴鹿市秋永で、葬列の際に棺を集落から墓地まで運ぶのに使用された	団体
平成28年 5月19日	足踏脱穀機	1 点	足踏式の脱穀機	個人
平成28年 5月25日	乙部文化に関する資料	1式	明治後半から戦前戦後の津市乙部の花柳界に関する資料	個人
平成28年 5月25日	くらしに関する資料	1式	祝い事の時に用いた着物や記録など	個人
平成28年 6月 1日	哺乳類本剥製標本	1 点	カモシカ	団体
平成28年 6月 1日	シダ植物さく葉標本	1式	三重県内および国内各地で採集されたシダ植物の標本	個人
平成28年 6月17日	家庭用ゲーム機	1 点	家庭用ゲーム機	個人
平成28年 6月17日	くらしに関する資料	1式	洗濯板や炭火アイロン、豆炭行火など	個人
平成28年 7月13日	電化製品	3 点	1979年製NECパソコンPC-8001ほか	個人
平成28年 7月13日	表具	1 点	明治時代のやまと絵師・高山青嶂による蟲図	個人
平成28年 7月14日	日露戦争従軍功労褒賞	5 点	従軍看護師として日露戦争に従軍していた女性に授与された、功労の賞状とメダル類	個人
平成28年 7月14日	写真帖・記録類	10点	大正天皇即位式の写真帖や明治期の家計簿類	個人
平成28年 7月14日	書額	1 点	尾崎弔堂揮毫	個人
平成28年 7月15日	昭和初期～30年代の雑誌	18点	婦人向け雑誌ほか	個人
平成28年 7月15日	くらしに関する資料	6 件	興亜煉炭1 点、たまご懐炉1 点、薬箱3 点、薬袋1式	個人
平成28年 7月15日	戦前の学校教材	11点	京都製画館編集部編纂「歴代児童風俗変遷図」	個人
平成28年 7月21日	鳥類剥製標本	1 点	キジの本剥製標本	個人
平成28年 8月 1日	蘚苔類標本	1 式	東海地方を中心に国内各地で採集されたコケ植物の標本	個人
平成28年 8月 1日	植物さく葉標本	2 点	エビネ（ラン科）の標本2点	団体
平成28年 8月27日	タイマイ剥製	1 点	タイマイの本剥製	個人
平成28年 9月 9日	刀剣	2 振	太平洋戦争従軍時に所持していた太刀・刀	個人
平成28年10月12日	古文書	1式	津藩領の庄屋文書	個人
平成28年10月12日	古文書	2 点	畠地沽券状等卷子1 点、曾根郷争論申合状等軸1点	個人
平成28年11月30日	化石	2 件	三重県久居市 貝化石 1式、岐阜県可児市美濃田 葉化石 他 1式	個人
平成28年12月14日	地学資料	1 点	樺太産アンモナイト	個人

寄贈日	資 料 名	点数	内 容	寄贈者
平成28年12月14日	地学資料	1 式	骨格標本など	個人
平成28年12月16日	植物標本	1 式	鈴鹿山脈周辺で採集された植物標本	個人
平成28年12月20日	歴史資料	23 点	四日市の船問屋の豪商に伝来した書画類	個人
平成29年 1月25日	植物さく葉標本	1 点	キンラン（ラン科）の標本1点	団体
平成29年 2月24日	鳥類剥製標本	1 点	ヤマドリの本剥製	個人
平成29年 3月 2日	昆虫標本	1式	オサムシ類の昆虫標本	個人
平成29年 3月 4日	昆虫標本	4 点	双翅目昆虫の副模式標本	個人
平成29年 3月 4日	昆虫標本	1 式	昆虫の標本	個人
平成29年 3月18日	蚊帳	1 点	蚊帳（金具一式附属）	個人
平成29年 3月18日	民俗資料	3 点	行李1点、湯たんぽ1点、電気アイロン1点	個人
平成29年 3月18日	民俗資料	2 点	黒電話1点、カメラ1点	個人
平成29年 3月19日	古文書	1式	江戸時代後期に桑名藩支配下の村落で庄屋を務めた家に伝来した文書	個人
平成29年 3月19日	歴史資料	1式	江戸時代、津藩郷士であった家に伝来した古文書、器物など	個人
平成29年 3月24日	人文系参考図書	3 冊	『天皇陛下 三重県御巡幸記念写真帖』ほか	個人
平成29年 3月24日	江戸期の婦女教育用版本	1 点	『女今川』	個人
平成29年 3月24日	1インチオープンリールテープ	1 巻	三重県総合文化センター開館時の演奏公演候補のひとつであった米国セントルイスオーケストラの公演デモテープ	個人
平成29年 3月24日	軍用手票	1 点	日露戦争の戦費調達のために発行された日露戦争用軍票	個人
平成29年 3月24日	古写真	3 点	津市内で撮影された昭和前半期の写真	個人
平成29年 3月24日	須恵器片	1式	玉城町原、多気町野中で採集	個人
平成29年 3月25日	美工資料	196 件	大和絵師・服部有隆氏作品 屏風2隻、軸89点ほか	個人
平成29年 3月25日	大正12年関東大震災関連証書、総理大臣告諭	2 点	大正12年9月1日に発生した関東大震災に関連して出された証書と総理大臣告諭	個人
平成29年 3月27日	動植物標本	1式	動植物の乾燥・液浸標本	団体
平成29年 3月29日	古文書	15 点	江戸時代後期から昭和時代にかけての文書群	個人
平成29年 3月29日	昆虫標本、植物標本	2 件	昆虫標本とシダ植物標本	個人
平成29年 3月29日	甲殻類資料・標本	1式	トゲノコギリガザミ（冷凍）、マメアカイソガニ他4種（液浸標本）	個人
平成29年 3月31日	古文書	68 点	桑名藩支配下の村落で庄屋を務めた家に伝来した文書群	個人

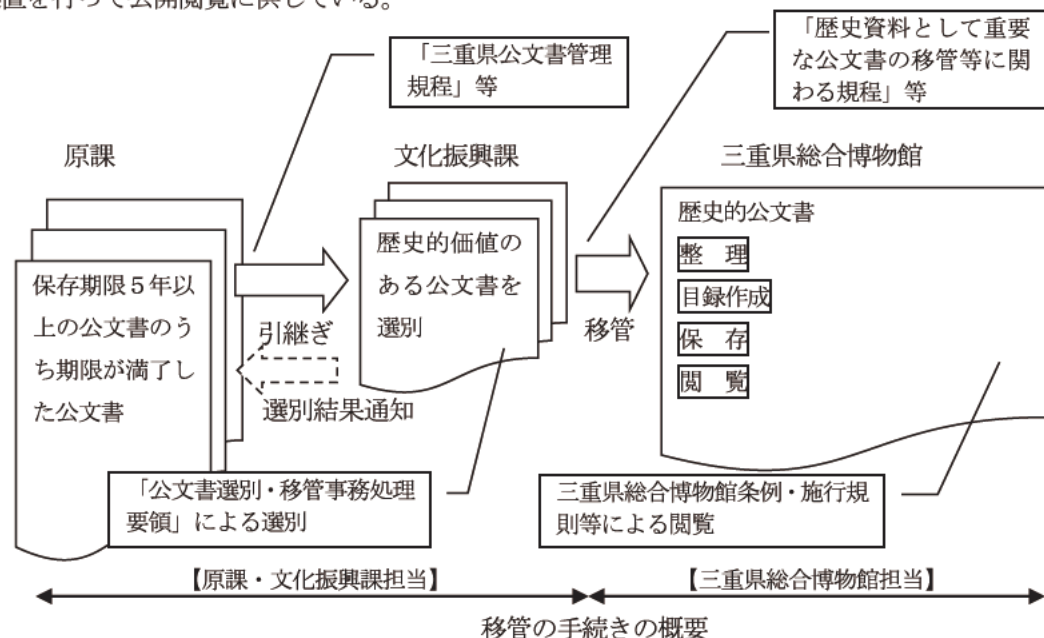
3.3 歴史的公文書の移管

1) 当館における公文書館機能

- ① 県の歴史的公文書(原課で作成された期限満了の5年以上の公文書を文化振興課で選別し、総合博物館へ移管した公文書をいう)の受入・整理・修復・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ② 行政資料などの収集・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ③ 古文書などの収集・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ④ 調査研究成果の発信(HP・研究紀要等刊行物の発刊)
 - ⑤ レファレンスへの対応
 - ⑥ 学習会・講演会・講習会等の開催
 - ⑦ 歴史的公文書等の保存・活用のための市町等との連携など
- ※③～⑥は博物館機能でもある。①②⑦が公文書館独自機能

2) 歴史的公文書の移管の概要

保存期限5年以上の公文書のうち期限が満了した公文書は、原課から環境生活部文化振興課が引き継ぎ、当館アーキビストとともに評価選別が行われる。選別された歴史的公文書は、随時当館へ移管し、整理保存処置を行って公開閲覧に供している。



3) 歴史的公文書の移管数

平成28年度に文化振興課から移管された歴史的公文書及び図面は、下記のとおりである。

戦略企画部12冊、総務部10冊、健康福祉部17冊、環境生活部12冊、県土整備部23冊、地域連携部18冊、農林水産部12冊、雇用経済部65冊、議会事務局23冊、教育委員会事務局20冊、監査委員事務局23冊、労働委員会事務局2冊、病院事業庁1冊 合計 238冊

4) 資料閲覧室の閲覧資料内訳

閲覧状況	種目	資料内容	平成28年度 閲覧者数 (人)	平成28年度 閲覧点数 (点)
閉架収蔵資料閲覧	自然系	動物・植物・鉱物その他	18	332
		考古資料／絵画・地図／刷り物／絵葉書／歴史資料／絵画・墨蹟／陶磁器／民族その他	8	51
		写真資料／映像資料	0	0
	人文系	古文書（一紙物・整理済文書群及び県史からの移管文書群／典籍類）	39	495
		歴史的公文書（行政文書・選別移管公文書／絵図・地図）	43	179
		歴史的公文書（行政刊行物）	3	20
	図書	図書（閉架図書）	46	158
	行政利用	県議会議事筆記・古文書・明治期公文書・選別公文書・マイクロフィルム	14	174
①上記資料閲覧合計			171	1,409
開架資料閲覧②			1,333	-
室内見学者③			864	-
資料閲覧室入室者数合計（①～③）			2,368	-

※1 閲覧点数データ：平成28年度より集計で閉架のもの、※2 自然系点数：標本点数多数のため数字は概略

3.4 資料保存

平成28年度資料燻蒸

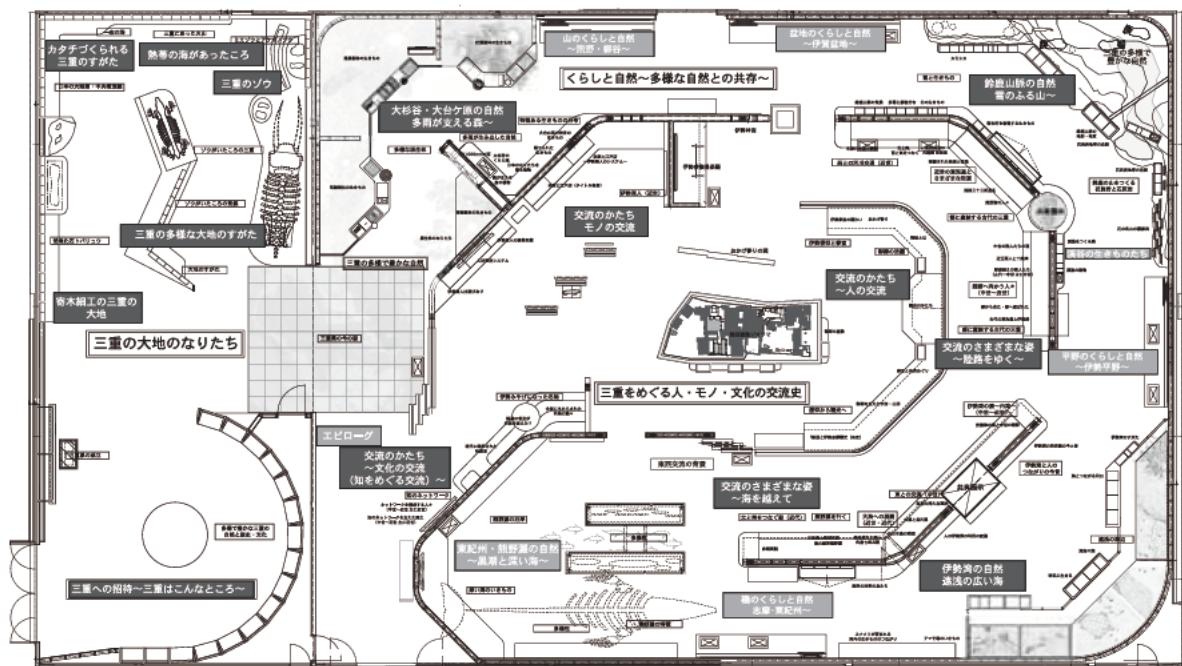
当館では収蔵庫等の定期燻蒸は原則として行わず、目視点検で虫菌害の進行が疑われる、あるいは点検自体が困難である新規収蔵資料等について、収蔵庫搬入直前に殺虫処理を行う方針をとっている。原則として二酸化炭素処理による殺虫、又は酸化エチレンによる殺虫燻蒸(0.5%)を行い、明らかにカビ被害が発生・進行している場合には酸化エチレンによる殺菌燻蒸(1%)を行う。

平成28年度には二酸化炭素処理を5回、酸化エチレンによる殺虫処理を2回行った。

4 展示

4.1 基本展示

三重は、豊かな自然に恵まれ、その自然を生かしたくらしが営まれてきた土地である。また、古くからその交通の便の良さを活かし、全国から人々が行き交ってきたことから特有の歴史と文化を築きあげてきた。「基本展示室」と名付けた常設展示では、三重県がどんなところか、三重県の多様で豊かな自然と歴史・文化が持つ多彩な魅力や特色を、360°連続する三重の美しいパノラマに包まれた展示空間の中で一体的に紹介している。まるで日本の縮図のように、南北の生物相と東西の文化が絡み合っている三重の特徴を、“三重がもつ「多様性の力」”をテーマとして、「大地のなりたち」「多様で豊かな自然」「三重をめぐる人・モノ・文化の交流史」「自然とともに生きる」の4つのコーナーで紹介している。展示をご覧いただいた方が、三重を知り、自分たちが暮らしている地域について考える場になるよう設定している。



基本展示室平面図

4.2 企画展示

4.2.1 企画展

1) 伊勢志摩サミット開催記念 第11回企画展「伊勢志摩～常世の浪の重浪よする国へ、いざNOW!～」

【会 期】 4月16日(土)～6月19日(日) <開催日数:57日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 三重県総合博物館

【協 力】 一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、公益社団法人三重県観光連盟、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構

【後 援】 伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、三重県博物館協会

【展示概要】 5月26日から27日にかけて三重県志摩市阿児町の賢島で開催されたでサミット(先進7か国首脳会議)の開催、そして伊勢志摩国立公園の指定70周年を記念し、企画開催した。そもそも伊勢志摩が、サミットの会場として選ばれたのは、そこに「日本人の精神性や伝統・文化、美しい自然、日本のふるさとの原風景」が息づいていると評価されたからである。そこで、伊勢志摩地域の魅力を、歴史的に果たしてきた役割を中心に、交流や信仰、そして観光といった観点から紹介することとした。交流に関しては、特に海上交通の要衝としての鳥羽・志摩の海を、信仰については神宮を核としながらも神仏習合の思想のもと、人々の憧れの聖地として繁栄を遂げた伊勢について、考古資料、美術工芸資料、古文書などを用いてその魅力を再確認した。また、美しく、そして豊かな里海を守り、また再生していく取組についても取り上げ、今を起点にこれからどうあるべきかについても考えた。

(主な資料) 展示資料点数 163件 580点

[国宝] 伊勢国朝熊山経ヶ峯経塚出土品(陶経筒1点、銅経筒2点、線刻阿弥陀三尊来迎鏡像等の銅鏡4面)

[重要文化財]

鉄獅嚙文金銅象嵌鍬形1点、伊勢神島祭祀遺物(銅鏡64面を含む99点)、木造雨宝童子立像、双鳳鑑、武蔵国品河湊船帳、木造妙見菩薩立像

[三重県指定有形文化財]

三重県水産図解、紙本墨書大般若経(志摩市志摩町片田)、紙本墨書大般若経(志摩市阿児町立神)、弥生土器広口壺(三津遺跡出土)、埴製枕(おじょか古墳出土)

[兵庫県指定有形文化財]

お蔭参りの図(兵庫県稲岡神社/兵庫県立歴史博物館寄託)

[伊勢市指定有形文化財]

安養寺遺跡出土木製品

[鳥羽市指定有形文化財]

九鬼嘉隆肖像

[志摩市指定有形文化財]

木造聖観音立像、木造護法神像、木造薬師如来立像及び両脇侍立像(円空作)

[南伊勢町指定有形文化財]

礪浦宮山古墳出土品

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 9,886人(うち高校生以下:5,871人) 開館日数57日間

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
記念講演会「スクリーンの中の伊勢志摩」	4月24日(日) 13:30～15:00	企画展示室	51	田中 忍 (三重映画フェスティバル実行委員会 会長)
記念講演会「伊勢志摩と修学旅行」	5月22日(日) 13:30～15:00	企画展示室	43	山本志乃 (旅の文化研究所 主任研究員)
記念講演会「豊かな伊勢志摩の環境、いまとこれから」	6月 5日(日) 13:30～15:00	企画展示室	30	国分秀樹 (三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室主任研究員)
ギャラリートーク	4月17日(日) 午前	企画展示室	18	当館職員 宇河雅之
ギャラリートーク	4月17日(日) 午後	企画展示室	21	
ギャラリートーク	5月 1日(日) 午前	企画展示室	20	
ギャラリートーク	5月 1日(日) 午後	企画展示室	25	
こども向け ギャラリートーク	5月 5日(木・祝) 午前	企画展示室	5	
こども向け ギャラリートーク	5月 5日(木・祝) 午後	企画展示室	11	
ギャラリートーク	5月21日(土) 午前	企画展示室	13	
ギャラリートーク	5月21日(土) 午後	企画展示室	15	
ギャラリートーク	6月19日(日) 午前	企画展示室	18	
ギャラリートーク	6月19日(日) 午後	企画展示室	24	
学芸員みどころガイド	5月28日(土)	企画展示室	6	当館職員 岸田早苗
	5月29日(日)	企画展示室	7	当館職員 宇河雅之
	5月31日(火)	企画展示室	5	当館職員 宇河雅之
	6月 1日(水)	企画展示室	1	当館職員 瀧川和也
	6月 2日(木)	企画展示室	2	当館職員 宇河雅之
	6月 3日(金)	企画展示室	3	当館職員 宇河雅之
	6月 4日(土)	企画展示室	6	当館職員 岸田早苗
	6月 5日(日)	企画展示室	9	当館職員 宇河雅之
	6月 7日(火)	企画展示室	3	当館職員 宇河雅之
	6月 8日(水)	企画展示室	3	当館職員 宇河雅之
	6月 9日(木)	企画展示室	4	当館職員 宇河雅之
	6月10日(金)	企画展示室	7	当館職員 宇河雅之
	6月11日(土)	企画展示室	8	当館職員 宇河雅之
	6月12日(日)	企画展示室	21	当館職員 宇河雅之
	6月14日(火)	企画展示室	7	当館職員 宇河雅之
	6月15日(水)	企画展示室	9	当館職員 宇河雅之
	6月16日(木)	企画展示室	17	当館職員 宇河雅之
	6月17日(金)	企画展示室	18	当館職員 宇河雅之
	6月18日(土)	企画展示室	23	当館職員 宇河雅之
計			452	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示資料一覧 (A4版4頁)、こども用パンフレット (A4版4頁)、英文パンフレット (A4版4頁)、展示図録(A4版224頁)

【担当】 宇河雅之・瀧川和也・北村淳一



展示風景



B2ポスター

2) 第12回企画展 大変動の地～三重の三億年・変動に生きた巨大生物たち～

【会 期】 7月2日(土)～9月4日(日) <開催日数：56日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 三重県総合博物館

【共 催】 岐阜県博物館

【協 力】 笠岡市立カブトガニ博物館、兵庫県立人と自然の博物館

【後 援】 NPO法人 地学オリンピック日本委員会、三重県博物館協会

【助 成】 公益財団法人 岡三加藤文化振興財団

【展示概要】 三重県内にみられる3億年の時の流れの中で繰り広げられてきた巨大火山の噴火や日本最大の断層である中央構造線の活動などの「地質イベント」の証拠について、岩石・鉱物を用いて紹介した。また、三重の地にかつて生息した国内最大の恐竜「トバリユウ」をはじめとした様々な生きものが生息した証拠である多数の化石を展示した。さらに県民の方々が、自分たちが生きている地域の地質を学び、大地震などの今後起こり得る大地の変動について学ぶ機会を設けた。

(各章の内容)

・プロローグ 大地の贈りもの

紀州鉱山でみつかった銅の原料となる鉱物、奈良の大仏の金メッキに使われた丹生の水銀を含む赤い鉱物をはじめ、三重でみづかり利用されてきた鉱物を紹介した。

・第1章 変動の証拠

西日本を分断する大断層“中央構造線”の両側に分布する岩石、約1500万年前の直径20～30 kmにもなる巨大火山の証拠となる岩石、当時の破局的な噴火によって堆積した厚さ400mに達する室生火砕流堆積物を展示した。

・第2章 変動に生きた巨大生物たち

いなべ市や岐阜県大垣市などでみつかった古生代ペルム紀の化石、鳥羽市でみつかった国内最大の恐竜“トバリユウ”やアンモナイトなど中生代の化石、津市でみつかった中新世の巨大ザメ“メガロドン”をはじめとした海生動物の化石、鮮新世のミエゾウやその他の動植物の化石を展示し、三重の三億年にわたる生物の歴史を紹介した。

・エピローグ 変動に生きるわたしたち

大地の下に残された断層には地震の記録があり、海の近くの地層には津波の記録が残ることを剥ぎ取り標本やボーリングコアなどで示し、過去の地震や津波、気候変動の証拠を解き明かし、未来にどんな変動が起こるか予測するための調査を紹介した。

(主な資料)

県内産の主要な鉱物、付加体の岩石、変成岩、花崗岩、中央構造線関連岩石資料、火砕流堆積物、県内産の主要な化石、美濃・丹波帯の化石群（岐阜県博物館の移動展示）、トバリユウ（部分骨）、ディプロドクス（パレオサイエンス社に委託借用・全身骨格レプリカ）、プロバクトロサウルス（全身骨格レプリカ）、メガロドン（笠岡市立カブトガニ博物館から借用・顎骨模型）、コウガゾウ（全身骨格レプリカ）、ミエゾウ明標本（下顎骨レプリカ）、段丘堆積物（レプリカ）、活断層剥ぎ取り標本、津波堆積物調査資料ほか

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 33,695人(うち高校生以下：15,576人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	7月 9日(土)	企画展示室	25	当館職員 中川良平・津村善博
MieMu セミナー 「三重の鉱物」	7月10日(日)	レクチャールーム	39	稲葉幸郎(真珠養殖業)
学芸員フリートーク 「三重の三億年」	7月16日(土)	レクチャールーム	50	当館職員 中川良平
化石さがし体験	7月17日(日)	ピロティー	26	当館職員 中川良平・津村善博
講演会「トバリユウとそのなかまたち」	7月24日(日)	レクチャールーム	40	三枝春生 (兵庫県立人と自然の博物館)
わくわくワークショップ 「トバリユウ発掘パズル」	7月30日(土)	学習交流スペース	295	当館職員 稲垣玲弥
化石さがし体験	7月31日(日)	ピロティー	26	当館職員 中川良平
ギャラリートーク	8月 6日(土)	企画展示室	20	当館職員 中川良平
化石レプリカづくり	8月11日(木・祝) 午前	実習室	69	当館職員 大西 到
化石レプリカづくり	8月11日(木・祝) 午後	実習室	61	当館職員 大西 到
石をわって三葉虫の化石や水晶を取りだそう	8月13日(土)	交流活動室	155	小野輝雄(化石研究家)
水晶さがし体験	8月17日(水)	実習室	60	小竹一之(津田小学校)
化石レプリカづくり	8月20日(土)	実習室	68	当館職員 大西 到
標本の名前を調べてみよう	8月21日(日)	レクチャールーム	79	当館職員 中川良平ほか
ギャラリートーク	8月28日(日)	企画展示室	20	当館職員 中川良平・津村善博
計			1,033	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版60頁)

【担当】 中川良平



展示風景



B2ポスター

3) 第13回 企画展 The NINJA～忍者ってナンジャ！？～

【会 期】 10月25日(火)～1月9日(月・祝)＜開催日数：62日＞

【会 場】 企画展示室(800㎡)、交流展示室(200㎡)

【主 催】 三重県総合博物館、朝日新聞社

【後 援】 外務省、文部科学省、経済産業省、観光庁、伊賀市、名張市、伊賀市教育委員会、名張市教育委員会、名張市観光協会、歴史街道推進協議会、三重県博物館協会

【特別協力】 三重大学

【協 力】 伊賀上野観光協会、尼子事務所、伊賀流忍者観光推進協議会（三重県・伊賀市・名張市・伊賀上野観光協会・名張市観光協会・三重大学）

【公 認】 日本忍者協議会

【企画協力】 日本科学未来館、フジテレビジョン

【助 成】 公益財団法人 岡田文化財団

【展示概要】 「忍者（NINJA）」は、世界で通用するクールジャパンの代表格として、ドラマやアニメで誰もが知る人気コンテンツだが、実在した忍者はいまだ謎に満ちている。近年、科学的研究によって、忍術が自然や社会に対する多様な実践的知識の蓄積であることが明らかになってきた。三重大学を中心とする専門分野の研究者や専門家が取り組んだ成果をもとに、従来とはまったく異なる科学の視点から忍者の技術や身体能力、知恵を解き明かす企画展を開催した。

主な展示として、忍者に関する様々な資料を集めた『忍者研究室』のほか、忍者の『心・技・体』をテーマとして、科学的な視点から分析した研究成果や、忍者体験ができる3つのステージなどを設けた。

【観 覧 料】 一般1,000円、大学生600円、高校生以下無料

【観覧者数】 24,222人（うち高校生以下：8,729人）

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	10月29日(土)	企画展示室	27	当館職員 太田光俊
子ども忍者衣裳体験	10月30日(日)	交流活動室	132	当館職員 太田光俊 ほか※
NINJA DAY	11月 3日(木祝)	レクチャールーム	58	山田雄司(三重大大学教授)・サミュエル・アネスリー(元伊賀市国際交流員)
講演会	11月 5日(土)	レクチャールーム	48	山田雄司(三重大大学教授)
子ども忍者衣裳体験	11月 5日(土)	交流活動室	97	※に同じ
子ども忍者衣裳体験	11月 6日(日)	交流活動室	134	※に同じ
忍者子ども向けワークショップ	11月13日(日)	レクチャールーム	87	伊賀流忍者集団・黒党
ギャラリートーク	11月19日(土)	企画展示室	12	当館職員 太田光俊
きみもNINJAになろう!	11月20日(日)	交流活動室他	508	伊賀之忍砦
NINJAトークショー	11月23日(水・祝)	レクチャールーム	40	山田雄司(三重大大学教授)・川上仁一(三重大大学特任教授)
きみもNINJAになろう!	12月 4日(日)	交流活動室他	608	伊賀之忍砦
ギャラリートーク	12月24日(土)	企画展示室	11	当館職員 太田光俊
子ども忍者衣裳体験	1月 7日(土)	交流活動室	238	※に同じ
ギャラリートーク	1月 8日(日)	企画展示室	30	当館職員 太田光俊
子ども忍者衣裳体験	1月 9日(月・祝)	交流活動室	302	※に同じ
計			2,332	

【展示概要】 みえ食旅パスポートのコラボ版として、みえの国観光大使・夢眠ねむデザインみえ食旅パスポートを伊賀流忍者観光推進協議会から発給。当館と伊賀流忍者博物館(伊賀市)、赤目四十八滝(名張市)を結ぶスタンプラリーを実施。期間は平成28年10月25日(火)～平成29年1月9日(月・祝)。

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)

【担当】 太田光俊



展示風景



B2ポスター

4) 第14回 企画展 植木等と昭和の時代

【会 期】 1月21日(土)～3月20日(月・祝)＜開催日数：51日＞

【会 場】 企画展示室(600㎡)

【主 催】 三重県総合博物館

【協 力】 株式会社渡辺プロダクション、渡辺音楽出版株式会社、比呂公一、藤元康史

【後 援】 中日新聞社、三重テレビ放送株式会社、三重県博物館協会

【展示概要】 平成29年は、三重県出身の昭和を代表するスター植木等の生誕90年、没後10年という節目の年にあたる。この記念の年に、誰もが夢を抱いて前に進んでいたエネルギーあふれた高度成長期、その象徴的な存在でもあった植木等とその時代をとりあげる。一流のミュージシャンであり、映画「無責任男」で一世を風靡した大喜劇俳優、植木等。社会的な問題に人一倍関心が深かった、あまり知られていない彼の素顔にも迫る。

(主な資料) 展示資料点数約150点

植木等講演「支離滅裂」ダイジェスト版9分30秒放映、植木等自筆スコア、植木等自筆コード進行メモほか、台本「おとなの漫画」、台本「シャボン玉ホリデー」、植木等愛用ギターほか、主演映画ポスター、台本「クレージー大作戦」、台本「クレージー黄金作戦」、第16回ブルーリボン賞大衆賞トロフィー、会社物語パンフレットほか、舞台「王将」ポスター・台本、台本「本日ただい誕生」、台本「乱」、映画「新・喜びも悲しみも幾歳月」ポスター・台本、日本アカデミー賞最優秀助演男優賞トロフィー・賞状、舞台「名古屋嫁入り物語」ポスター・台本ほか、森繁久彌から贈られた楽屋暖簾、小松政夫に贈った楽屋暖簾、愛用の書斎机、楽屋座布団、衣装行李、浴衣、勲四等旭日小綬章(1999年)、紫綬褒章(1993年)、小松政夫への手紙、植木徹誠「水の教訓」ほか、日本レコード大賞特別功労賞 楯(2007年)、日本アカデミー賞会長特別賞(2008年)、植木等及びクレージーキャッツの楽曲(レコード・レーザーディスク・CD)ほか、インタビュー映像(稲垣次郎・松任谷正隆・砂田実・大林宣彦・小松政夫・大地真央・山田昌・成岡道次・三宅裕司・所ジョージ【展示順／敬称略】)、映像展示作品(おとなの漫画、シャボン玉ホリデー、映画「ニッポン無責任時代」予告篇、アイデアルCM、植木等ショーダイジェスト版、名古屋嫁入り物語ダイジェスト版)

【観 覧 料】 一般500円、大学生300円、高校生以下無料

【観覧者数】 6,839人(うち高校生以下：2,774人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
植木等主演映画上映会 「本日ただい誕生」	1月22日(日)	三重県総合文化センター多目的ホール	292	三重県生涯学習センターとの共催
	3月18日(土)		318	
ギャラリートーク	1月21日(土)	企画展示室	47	当館職員 宇河雅之
	2月19日(日)		63	
	3月19日(日)		33	
小松政夫トークショー	2月 5日(日)	学習交流スペース	430	小松政夫 藤元康史 (司会)当館職員 瀧川和也
	3月 4日(土)			
計			1,183	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版64頁)
 【担当】 宇河雅之



展示風景



B2ポスター

4.2.2 交流展

県民・利用者のみなさんや諸団体など、さまざまな主体と連携して交流展示を行った。

1) 交流展 伊勢志摩の真珠～3000の想いをのせて～

会 期	4月15日(金)～5月8日(日)　＜開催日数：21日＞				
会 場	企画展示室(200㎡)				
主 催	三重県真珠振興協議会				
共 催	三重県総合博物館				
後 援	三重県、志摩市				
協 賛	一般社団法人　日本真珠振興会				
内 容	志摩半島の豊かで美しい里海に育まれ、伝承された匠の技により創り出される真珠。完成品になるまでには、養殖、選別や加工過程で3000回以上も人の手に触られていると言われる。真珠の魅力だけではなく、職人たちが丹精を込めたその想いも紹介した。				
主な資料	真珠に関する写真、動画、道具、真珠等（パネル、タブレット、実物）、志摩市所有の国登録有形民俗文化財登録予定の「志摩半島の生産用具及び関連資料」のうち、真珠養殖に関わるものの一部など。約300点				
観覧者数	6,318人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	備考
はじめての真珠講座		4月30日(土) 各2回	交流活動室	60	山本和佳子（覚田真珠株式会社 ブランドマネージャー、真珠の プロSA)
		5月　1日(日) 各2回			
アコヤ貝から真珠取出し体験		4月16日(土)	交流活動室	200	三重県真珠振興協議会
		4月17日(日)			
ゆるキャラ「しまこさん」来館		5月　3日(火・祝)	学習交流スペース等	随時	三重県真珠振興協議会
担　　当	岸田早苗・門口実代				



展示風景



A4チラシ（表面）

2) 交流展 新 津市誕生10周年特別展覧会 「過去から未来へ～津のあゆみ～」

会 期	9月17日(土)～10月10日(月・祝) ＜開催日数：21日＞				
会 場	企画展示室(912㎡) 交流展示室(147㎡)				
主 催	津市・津市教育委員会、三重県総合博物館				
内 容	新津市誕生10周年にあたり、原始・古代から現代に至る津市域の歴史や文化、平成18年に新たな津市が誕生するまでの変遷について、文化財をはじめとする多くの歴史資料で紹介した。 1章 津のルーツ(旧石器・縄文・弥生・古墳時代) 津市内で発見された太古のゾウ「ミエゾウ」の標本をはじめ、発掘調査等で明らかになった旧石器時代から古墳時代にかけての出土資料から、当時の様子を紹介した。 2章 古代(奈良・平安時代) 市内の遺跡や古墳から出土した資料や、荘園文書から見た古代の条里制に関わる資料等から、当時の様相をたどった。 3章 中世(鎌倉・室町時代) 津市域において北畠氏と長野氏が勢力争いをしていた時代であることから、多気北畠氏遺跡の発掘調査の成果や、市内に残る中世城館や古文書・絵図等を通して、当時の社会の様子を紹介した。 4章 近世(安土桃山・江戸時代) 戦国期から江戸時代初期の津と、藤堂氏入府以後の津藩・久居藩と紀州藩が納めた江戸時代の様子を、古文書や絵図から読み解いた。 5章 近現代(明治・大正・昭和・平成) 江戸時代200ほどあった村々が、明治22年の市町村制施行により1市2町53村となり、さらに昭和の大合併で1市6町4村となった。そして平成18年に「津市」1市となるまでの変遷を紹介した。				
主な資料	津市指定文化財 高茶屋銅鐸(津市所蔵)ほか480点				
観覧者数	8,688人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	備考
記念講座 「古墳時代のお葬式」		9月17日(土)	レクチャールーム	77	立命館大学名誉教授 和田 清吾
記念講座 「伊勢国司北畠氏と一志郡・飯高郡」		10月 1日(土)	レクチャールーム	74	皇學館大学教授 岡野 友彦
ギャラリートーク		毎土・日・祝日 (全11回)	企画展示室	計150	津市職員
計				301	
担 当	天野秀昭・瀧川和也・間瀬 創				



展示風景



A4チラシ（裏面）

3) 交流展 すばらしい三重の文化財Ⅱ

会 期	2月4日(土)～3月20日(月・祝)　＜開催日数：39日＞				
会 場	企画展示室(200㎡)				
主 催	三重県総合博物館、三重県指定文化財等所有者連絡協議会				
後 援	三重県博物館協会、三重県教育委員会、伊賀市教育委員会、桑名市教育委員会				
内 容	「交流展 すばらしい三重の文化財」は、三重県総合博物館と三重県指定文化財等所有者連絡協議会が連携し、平成27年度から継続して行っている展覧会である。三重県内の個人・団体の所有する優れた文化財の公開・活用を行い、三重県にある文化財のすばらしさを広く発信することを展覧会の第一義とする。本展覧会は「交流展 すばらしい三重の文化財」の第2回として、第1回に引き続き、博物館と文化財等所有者は共通して、過去から受け継いだ文化財を、大切に守り、また未来へ伝える役割を担っていることをテーマとした。また今回は、平成27年度に新たに三重県指定となった文化財をあわせて展示し、文化財指定制度についても紹介する機会とした。				
主な資料	[県指定]絹本着色地蔵十王図(西蓮寺)・三十六歌仙扁額(敢国神社)、太刀 銘 勢州桑名郡益田庄藤原朝臣村正作 天文十二年五月(桑名神社)・太刀 銘 勢州桑名藤原千子正重 寛文元年十二月及び同二年正月(桑名神社)、[伊賀市指定]曾我蕭白筆鳥獣人物画押絵貼屏風(西蓮寺)				
観覧者数	7,226人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	備考
ギャラリートーク		2月4日(土)	企画展示室	21	桑名市文化課 石神教親
		2月5日(日)		51	桑名市博物館 杉本 竜
		計		72	
担 当	間 渕 創・岸田早苗・杉谷政樹				



展示風景



A4チラシ（表面）

4) 交流展 三重のまちかど博物館

会 期	3月14日(火)～4月2日(日) <開催日数:16日>			
会 場	交流展示室(200㎡)			
主 催	「三重のまちかど博物館」実行委員会、三重県総合博物館			
後 援	三重県博物館協会			
内 容	三重県には約500館ものまちかど博物館があり、各館が地域の特色ある文化資産や伝統の技などを展示、公開している。今回は、「想(おもひ)」をテーマに12地域のまちかど博物館が2階交流展示室でそれぞれの地域の活動内容を紹介する。また、開催期間の土・日・祝日には、各地域のまちかど博物館の館長さんがワークショップを行いながら特色ある活動を紹介する。県民のみなさんには、この展覧会を機に“まちかど博物館”に興味をもっていただき、それぞれのまちかど博物館を直接訪ねてみるきっかけとなり、その上まちかど博物館の理解を深めてもらう機会とした。			
主な資料	各まちかど博物館の資料など			
観覧者数	2,932人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考
さをり織り体験	3月18日(土)	エントランス	28	さをり織り工房ゆう
	3月19日(日)		25	
	3月20日(月・祝)		31	
	4月1日(土)		49	
	4月2日(日)		33	
ニホンミツバチの不思議	3月18日(土)	学習交流スペース	30	瓢蜂(ひょうほう)まちかど博物館
おもしろ かえるの世界	3月18日(土)	学習交流スペース	20	世界のかえる博物館
My湯呑を作ろう	3月19日(日)	実習室	5	春夏秋冬
	3月20日(月・祝)		15	
峯サウンドオフィス演歌の館コンサート	3月19日(日)	交流活動室	19	峯サウンドオフィス演歌の館
	3月26日(日)		35	
	4月2日(日)		14	
立体書画体験	3月25日(土)	エントランス	16	木工館コンドウ
組子館(組子製作体験)	3月25日(土)	エントランス	40	伝統工芸博物館
ぬりえ 折り紙 ブリザーブドフラワー	3月26日(日)	学習交流スペース	9	大黒田まちかどびじゅつかん
小物に可愛くガラスアート	4月2日(日)	学習交流スペース	21	生活色彩「ガラスアート」
計			390	
担 当	大西 到			



展示風景



A4チラシ(表面)

4.2.3 トピック展

三重の自然や歴史・文化についてなど、話題性のある小規模な展示を当館主催で開催した。

1) トピック展 国策グラフ誌『写真週報』に見る戦争中の暮らし

会 期	7月9日(土)～8月21日(日) <開催日数：38日>
会 場	交流展示室 (200㎡)
主 催	三重県総合博物館
内 容	平成28年は、第2次世界大戦の終戦から71年目を迎える。当館が所蔵する国策グラフ誌『写真週報』や関連資料をもとに、当時の戦争の実態を明らかにし、あらためて戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える。第1章『写真週報』とはでは、戦中に発行された国策グラフ誌『写真週報』の概要を解説した。第2章戦争でくらしがかわったでは、戦中、政府は、軍需品の製造に必要な資金や金属を確保するため、国民に貯蓄や供出を求めた実態を解説した。第3章戦争は子どもたちもまきこんだでは、戦中、働き盛りの成人男性の多くが戦地に派遣されたため、国内の日常生活を支える労働力が不足し、多くの女性や子供が成人男性の仕事を引き受けたことなどを解説した。第4章空襲にそなえるでは、政府は、敵国の空襲による火災に備えるため、国民に防火活動を義務づけた結果、大規模な焼夷弾攻撃で多くの人が亡くなったことなどを解説した。第5章平和をめざしてでは、戦後の混乱期に「日本国憲法」が誕生し、それ以来、日本は、平和主義に基づき、一度も戦争をしていないことなどを解説した。
主な資料	『写真週報』など
観覧者数	14,110人
担 者	藤谷 彰・水谷憲二



展示風景



展示風景（体験コーナー）

2) トピック展 くらしの道具～いま・むかし～

会 期	1月14日(土)～3月5日(日) <開催日数：44日>
会 場	交流展示室(200㎡)
主 催	三重県総合博物館
共 催	NPO法人 大杉谷自然学校
後 援	三重県博物館協会
内 容	くらしのなかで使われてきた道具について、台所・居間など、使われる場所ごとに紹介した。NPO法人大杉谷自然学校が調査をしてきた、宮川流域の川漁や川での遊びについても焦点を当てた。社会科の授業で「昔の道具」を学習する小学生が理解を深められるように分かりやすい展示を心がけた。
主な資料	羽釜、火鉢、洗濯板、たらい、うなぎかご、炭火アイロンなど
観覧者数	12,774人
関連事業	

行事名	開催日	会場	人数	備考
ギャラリートーク	1月15日(日) 11時～	交流展示室	6	当館職員 宇河雅之 門口実代
	1月15日(日) 14時～		6	
わくわくワークショップ ～昔のおもちゃで遊ぼう～	2月 5日(日)	交流活動室	68	当館職員 門口実代 ミュージアム・パートナー 民俗グループのみなさん
わくわくワークショップ ～風呂敷包みに挑戦しよう～	2月25日(土)	交流活動室	71	当館職員 門口実代 ミュージアム・パートナー 民俗グループのみなさん
計			151	
担 当	門口実代・大西 到			



展示風景



展示風景（体験コーナー）

4.3 こども体験展示室

こども体験展示室は小さな子どもでも博物館を身近に感じ、楽しみながら学びを得られる展示室である。展示室の中は、やってみるコーナー、しらべるコーナー、つたえるコーナー、未就学児コーナーの4つのコーナーにわかれており、それぞれの場所で子どもたちが自ら展示を探してみつけ、興味をもったものをしらべ、発見したことを発表できる。この一連の流れは博物館の学芸員の仕事の調査・研究・展示発表と同じであり、その体験ができるようになっている。

平成28年度は、新春イベントとして「MieMuで酉をさがそう！」を平成29年1月4日(水)～29日(日)の期間実施。こども体験展示室内に展示している鳥に関する剥製や骨格などの資料を探してもらいイベントを行った。

1) やってみるコーナー

三重県の身近な自然や文化を海、川、山、地面、町、家という6つの場所ごとに展示している。立体的な構造であるため、実際に自然の中で生物を探しているかのように楽しみながら発見することができる。ハンズ・オン展示を取り入れており、展示物に触ってみたり、音を聞いたりすることができる。

平成28年度はトピック展示「くらしの道具～いま・むかし～」の期間中、家のおはなしの畳スペースでけん玉やヨーヨーなど昔ながらのおもちゃが体験できるコーナーを設置した。

2) しらべるコーナー

やってみるコーナーでみつけたもの、興味をもったものについて図鑑などで調べることができる。引き出しには『なにこれボックス』があり、中には体験しながら学べるキットが入っている。

平成28年度は第11回企画展「伊勢志摩～常世の浪の重浪よする国へ、いざNOW!～」の期間中、なにこれボックスのうち一部を企画展示室で展示している資料を使った内容に変更した。

3) つたえるコーナー

やってみるコーナーでみつけたこと、しらべるコーナーでわかったことを紙に書いて友達に伝えて共有することができる。展示ケースには子どもたちがみつけたものや、つくった作品などを展示し、定期

的に更新する。

4) 未就学児コーナー

未就学児でも親子で安心して博物館を楽しめるように、やわらかいクッションを使ったスペースで絵本を読むことができる。本棚の一部には中に入れる場所があり、絵本は普通のおはなしだけでなく博物館や三重に関連したものも用意している。

4.4 三重の実物図鑑

昆虫や植物、動物、伝統工芸品など三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を、図鑑のようにじっくりと間近で見ることができる展示室。

1) 自然分野

自然に関する資料は、図鑑のような分類展示を意識し、動物、植物、岩石・鉱物、化石ごとに展示している。動植物においては、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、その他貝類や甲殻類などの無脊椎動物、植物ごとにコーナーを分けて展示している。さらに剥製、樹脂封入標本、乾燥標本、樹脂含浸標本、さく葉標本といった異なる保存技術の標本を、その技術の特徴を紹介しながら展示している。化石については、化石の時代ごとに展示している。岩石については、堆積岩、火成岩、変成岩の岩石分類に、さらに川原の石は河川ごとに展示している。鉱物については、ケイ酸塩鉱物、元素鉱物など化学成分ごとに分類して展示している。

映像やグラフィック、触れる標本など、生物の生態を伝える展示手法を加えて、身近な三重の魅力を再発見できるよう展示している。

平成28年度は、常設の展示に加えて、次の取組を行った。

【脊椎動物】平成29年の干支である酉にちなみ、12月から2月にかけて、三重県内で見られる鳥類とともに、特に冬の時期に観察しやすいカモ類について、食べている物などのイラストとともに生態の紹介を行った。2月からは、次回企画展との連携展示として、カモシカや県内に生息する小型哺乳類の展示を行った。

【昆虫】平成26年度から継続実施している県民参加型事業「みんなでつくろう！ミュージアムフィールドの実物昆虫図鑑」で行った調査結果を活かし、来館者に対し身近に生息する昆虫類をタイムリーで紹介したほか、博物館と県民との共同活動をアピールした。

【貝類】「今週の貝」として、ミニ資料カード・解説を設置して紹介(随時)

【岩石】話題性のある資料について、パンフレット等を設置して紹介(随時)

寄贈を受けた資料の中から、三重県産のオパール鉱物を展示に追加した。

2) 人文分野

三重の歴史と文化に関する資料を、出土したモノ、受け継がれたモノ、継承されるワザ、愛用されたモノ、受け継いでいくキロクといった分類で展示し、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせるようにしている。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行った。

【展示一覧】

4.5 オオサンショウウオ生態展示

コーナー	展示期間	展示資料
受け継がれたモノ	5月10日(火) ～10月10日(月・祝)	耕作図巻 1巻
	10月12日(水) ～10月30日(日)	参宮宮川渡しの図 ほか
	3月22日(水) ～ 3月31日(金)	六鯨図并捕鯨具

コーナー	展示期間	展示資料
出土したモノ	5月10日（火） ～10月 4日（水）	四天王寺瓦窯跡
	10月 5日（木） ～10月30日（日）	夏見廃寺 せん仏 ほか
	1月31日（火） ～ 3月31日（金）	夏見廃寺 せん仏 ほか
継承されたワザ	5月10日（火） ～10月30日（日）	伊勢型紙
	5月10日（火） ～10月30日（日）	伊勢型紙
	3月22日（水） ～ 3月31日（金）	伊勢型紙
愛用されたモノ	5月10日（火） ～10月30日（日）	蚊帳と蠅取器・蠅取紙
	3月22日（水） ～3月31日（金）	志摩の婚礼道具
受け継いでいく キロク	5月10日（火） ～10月2日（日）	「明治天皇の行幸と神宮参拝」 関連資料4点
	10月 4日（火） ～10月30日（日）	「無料だった宮川の渡し」 関連資料4点
	1月31日（火） ～ 3月31日（金）	「大正期の文化保存運動」 関連資料3点

特集展示		
スポット展 桜に寄せて	4月 5日（火） ～ 5月 8日（日）	桜花図巻 伊勢型紙 桜の花をデザインに用いた伊勢型紙 萬古焼 腥臈釉桜唐草文 桃形湯冷 明治時代 腥臈釉桜唐草文 大盃 明治時代 木型成作色絵赤土紅葉と桜文急須 明治時代 色絵草花龍文鉢 明治時代 錆絵に白絵桜花文 水注 明治時代 色絵草花文煎茶椀 明治時代 浮世絵 東海道五十三対 石薬師 歌川国芳 東海道名所之内 四日市追分 歌川広重 東海道 石薬師 歌川広重
スポット展 高虎文書	11月 1日 ～12月25日（日）	長井家文書（藤堂勘解由家）、伊藤又五郎家文書に収められた藤堂高虎の書状を中心に紹介
特集展示 三重のトリたち	12月27日（火） ～ 1月29日（日）	鳥類の剥製標本 鳥がデザインされた銅鏡、阿漕焼、日本画 紀州藩の他藩領鷹場の廃止（明治期公文書）
スポット展 寄贈文化財関連 資料	1月31日（火） ～3月20日（月・祝）	美術工芸 県指定有形文化財 貞観五年民部省勘文案ほか （坂口茂氏旧蔵、坂口富子氏寄贈） 歴史的公文書 県指定有形文化財 三重県県庁文書のうち 考古資料 県指定有形文化財 鳥居古墳押出仏・夏見廃寺せん仏 民俗 三重県有形民俗文化財 三重県水産図解

館内の観察水槽にてオオサンショウウオのさんちゃんを飼育し生態展示を行っている。このオオサンショウウオは平成4年に名張市美旗の小波田川にて保護し、当館の前身にあたる県立博物館で飼育していたものを平成26年2月に現施設に移動し飼育している。奇数月の第2土曜日の午前11時から給餌公開を実施した。参加人数等は 5.3.1 講座 を参照。

4.6 学習交流スペース展示等

学習交流スペースは、交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペースで、交流創造エリアの諸室や展示エリアとも機能連携しながら、三重に関する興味や関心、目的に応じた県民・利用者のみなさんの学習や研究、グループ・団体等の活動と交流の場となっている。

①レファレンスカウンター

学習交流スペースの核となる場として、学芸員や担当者が常駐し、レファレンスを行っている。

②資料相談コーナー

三重の実物図鑑や資料閲覧室、書庫等を活用しながら、利用者の資料相談に対応している。

③資料閲覧室

実物資料や図書資料などを実際に見て調べたい利用者の閲覧に対応している。

④開架書架・情報コーナー

三重の自然と歴史・文化に関する書籍や資料検索端末などの情報を見ることができるコーナーである。

⑤ワークショップコーナー

来館者が気軽に参加できる多様なワークショップを実施している。

⑥くつろぎコーナー

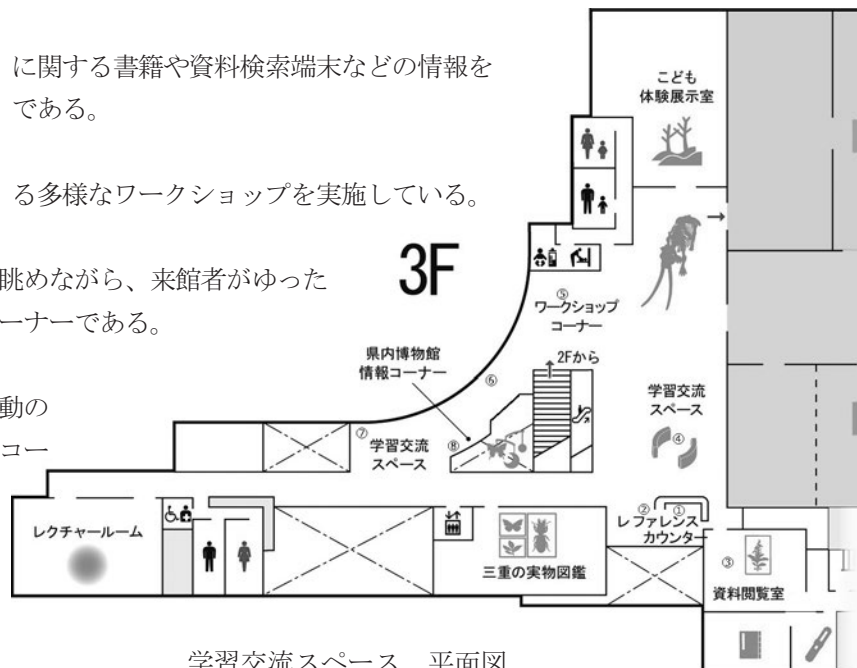
ミュージアムフィールドを眺めながら、来館者がゆったりとくつろぐことのできるコーナーである。

⑦活動コーナー

来館者がミーティングや活動の発表などを自由に利用できるコーナーである。

⑧県内博物館情報コーナー

来館者が県内博物館の情報を受発信できるコーナーである。



学習交流スペース 平面図

4.7 三重を知る1,000冊

学習交流スペースの「三重を知る1,000冊コーナー」には、三重に関連する本や各分野の学芸員が厳選した図鑑、辞典、専門書、読み物や写真集などを約1,000冊配架している。ここでは、来館者が展示を見て興味を持ったこと、身近な動植物や郷土の歴史、博物館に関することなどさまざまな興味を深めることができる。調べものに使用するほかにも、来館者の休息場所としても利用できる場所である。また、企画展示にあわせ、関連する本の展示なども行っている。

4.8 野外展示

1) ミュージアムフィールド

基礎データ 面積 ミュージアムフィールド全体 約28,400㎡

(観察の林 約18,800㎡、交流の広場 約4,370㎡、駐車場ゾーン 約5,230㎡)

(1) 観察の林

①シイの林 常緑広葉樹のツブラジイを中心とした林、林内は暗く下草も少ない。この地域では神社の森など数百年単位でまもられてきた神社の森などで見ることができる。

②アベマキの林 落葉広葉樹のアベマキを中心とした林、コナラなどが混生し、秋には紅葉しドングリ

も拾うことができる。落葉することで秋から春にかけては林内に光が差し込み明るい一方、夏には葉が茂り暗くなるなど一年の中で環境が大きく変わる。里山と呼ばれる典型的なタイプである。アベマキは戦後に人為的に植えられたものと思われる。なお、アベマキ林の一体にはヲノ坪A遺跡が所在する。

- ③アカマツの林 センター博物館整備にかかり、平成8年埋蔵文化財発掘調査(ヲノ坪B遺跡)に際して、草木が刈り取られた場所が再生した林。ススキなどの草地にアカマツ(約10年生)の混じる林である。植物の移り変わりを観察する場所としてそのままの形で活用を行っている。

三重県総合博物館の建設に際して、周辺地域でも開発等で減少している里山残存林の博物館活動での活用を目的として保存した。里山残存林であったため放置され、藪山となっていた林床の下草等を刈り取る最低限の手を加えた状態で管理している。

主な構成樹種	高木層	ツブラジイ、コナラ、アベマキ、クロガネモチ、ヤマザクラ、ヤマモモ、アカマツ、タブノキ、ハゼノキ
	亜高木層	シロダモ、カクレミノ
	低木層	ミミズバイ、ネズミモチ、ヒサカキ、アオキ
	草本	ネザサ、ベニシダ、ヤブミョウガ

(2) 交流の広場

モウソウチクの林が広がり、周辺の里山を圧迫していたため、博物館の建設に当たりこれを抜根して一部を除き駆除、そこへ国産のシバを植えて広場とした。

シバの広場の周辺には「木のずかん」と称するゾーンを設けて、屋内展示等で紹介されている三重の植生やくらしにかかわりのある樹木を植栽。また、県内産の岩石や各河川の砂利を用いた通路等を設置。

・交流の広場の植栽

ドングリのなかま	アカガシ、ウバメガシ、クヌギ、ウラジロガシ、シリブカガシ、ツクバネガシ、スダジイ、マテバジイ、ナラガシワ、カシワなど
葉になる植物	ニッケイ、キハダ、ナツメ、クコ、カリン、テンダイウヤクなど
布などを染める植物	クチナシ、シャリンバイなど
くらしの中の植物	ミツマタ、コウゾ、キリ、シナノキ、トチノキ、カキ、ザクロなど
マツやスギのなかま	スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、カヤ、イヌガヤ、コウヤマキ、イチイなど
虫があつまる植物	カラタチ、マグワ、イボタノキ、シダレヤナギなど
サクラのなかま	カンヒザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、カスミザクラ
ツツジのなかま	アカヤシオ、シロヤシオ、ヤマツツジ、ヒカゲツツジ、コアブラツツジ、ベニドウダン、サツキ、モチツツジなど

- ・県内産岩石を用いた石のベンチ
- ・県内河川礫を用いた階段洗い出し
- ・モウソウチクの残置林
- ・野外学習スペース

4.9 移動展示

三重大との先志摩地域における3年間の総合研究の成果を発表するため、三重大学との連携事業として、志摩市歴史民俗資料館にて移動展示、および関連事業を開催した。

会 期	2月18日(土)～3月19日(日)　＜開催日数：25日＞				
会 場	志摩市歴史民俗資料館				
主 催	三重県総合博物館、三重大学				
共 催	志摩市・志摩市教育委員会				
内 容	先志摩地域の自然と歴史・文化・くらしの特徴やその移り変わりについて、地元の郷蔵に保存されてきた「越賀村絵図」や古文書から、江戸時代の様子を紐解いていくほか、先志摩地域で現在も行われるイセエビ漁や海女漁、そして様々な景観などを上空や水中から撮影した動画を交えて紹介した。				
主な資料	郷蔵文書（越賀村絵図など）、地籍図、熊野家資料、化石・岩石、海女漁の道具など				
観覧者数	1,211人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	備考
展示解説会		2月18日(土) 10時～	志摩市歴史民俗資料館	12	当館職員　北村淳一
		2月18日(土) 13時～		11	
		3月11日(土) 11時～		13	
		3月11日(土) 16時30分～		18	
シンポジウム		3月11日(土)	志摩市磯部生涯学習センター 多目的ホール	106	三重大学　菅原洋一 三重大学　塚本　明 志摩市歴史民俗資料館 崎川由美子 当館職員　北村淳一 当館職員　門口実代
			計	160	
担 当	北村淳一・瀧川和也				



展示風景



展示風景

5 交流創造活動事業

5.1 事業の趣旨・目的

三重の自然と歴史・文化に関する知りたい、学びたい、調べたいなどのさまざまなニーズに対応するとともに、県民・利用者、諸団体、館の相互交流の場となることにより、新たな創造や発信へとつなげるために、閲覧レファレンス活動事業、学習支援活動事業、諸団体との交流・連携事業を展開する。

5.2 閲覧レファレンス活動事業

5.2.1 レファレンス活動

学習交流スペースの利用者に対して、レファレンスカウンターに学芸員が常駐し、三重の自然と歴史・文化、博物館利用に関する質問や疑問、相談に応じている。展示を楽しむだけでなく、さまざまな分野の専門家と日常的に出会い情報交換できる場となっている。

5.2.2 資料利用（閲覧・特別利用）

公文書館機能をもつ当館では、資料閲覧室において、歴史的公文書をはじめとする収蔵資料の閲覧に対応している。資料閲覧室には、三重の自然と歴史・文化に関する参考図書、三重県行政文書複製物（一部閉架）、三重県公報複製物（一部閉架）等が配架されており自由に閲覧可能である。収蔵庫の収蔵資料、書庫の収蔵図書の閲覧については、事前予約が基本となるが閲覧することができる。また、所定の手続きを行うことにより、収蔵資料の写真掲載や貸出等の資料特別利用についても対応を行っている。

1) 資料閲覧室の閲覧資料内訳（平成28年4月から平成29年3月まで）

閲覧状況	種目	資料内容	閲覧者数
閉架収蔵資料閲覧	自然系	動物・植物・鉱物その他	18
	人文系	考古資料/絵図・地図/刷り物/絵葉書/歴史資料/絵画・墨蹟/陶磁器/民俗その他	8
		写真資料/映像資料	0
		古文書（一紙物・整理済文書群及び県史からの移管文書群/典籍類）	39
		歴史的公文書（行政文書・選別移管公文書/絵図・地図）	43
		行政刊行物	3
	図書	図書（閉架図書）	46
	行政利用	県議会議事筆記・古文書・明治期公文書・選別公文書・マイクロフィルム	14
	上記資料合計		171
開架資料閲覧		図書・複製物（明治期公文書・三重県公報）・映像等	1,333
室内見学者			864
資料閲覧室入室者数合計			2,368

平成28年4月から平成29年3月まで

2) 資料特別利用一覧

（資料貸出）

利用資料名	申請者	目的	期間
魚類剥製/マダコ樹脂含浸標本	三重県立熊野古道センター	展示活動のための利用	6月30日～9月9日
四天王寺瓦窯跡 面違鋸歯文・珠文縁複弁八弁蓮華文軒丸瓦 ほか	鈴鹿市長	特別展「伊勢の瓦 大和の瓦」展における展示利用	9月13日～12月16日
津振子肩衣	装道礼法きもの学院 三重県認可連盟	織物への理解及び教育活動のための利用	10月18日
ミエゾウ明標本レプリカ	東海化石研究会	展示活動のための利用	1月9日～4月15日

小田隆氏 古生物復元画	岐阜県博物館	展示活動のための利用	1月31日～ 5月9日
タラソメドン全身骨格（レプリカ）	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	展示活用のための利用	2月11日～ 6月15日
御蔭参宮文政神異記/豊穰御蔭参之図/伊勢古市備前屋踊りの図 ほか	第27回全国菓子大博覧会三重実行委員会	第27回全国菓子大博覧会でのお菓子の普及を図るための利用	4月21日～ 5月14日
トリケラトプス（複製）/トバリユウ（実物及び複製）/サルタサウルス（実物）	那須塩原市那須野が原博物館	展示活動のための利用	7月8日～ 9月24日
コウガゾウ/エラスモサウルス/プロバクトロサウルス/トバリユウ（大腿骨レプリカ、椎骨レプリカ）/アンハングエラ	読売新聞大阪本社	展示活動のための利用	7月25日～ 9月10日

（掲載許可）

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
三重県水産図解	株式会社 ティービーエスネクスト	DVD「海女の里 志摩」	4月 1日
光氏磯部遊の図	NHK津放送局	NHK総合「プラタモリ 志摩」	4月 1日
水中イセエビ映像	テレビ愛知株式会社	報道部制作特番「逆転ピーブルズ」	4月 1日
東京名所 三ツ井ハウスノ図 する賀町	株式会社 スパート	まち日本橋(http://www.nihonbashi.tokyo.jp/)	4月 1日
伊勢参宮名所図会	株式会社NHKプラネット 中部支社	NHK総合「スタジオパークからこんにちは 第2部」（全国放送） ※「金とく アラフィフ女子旅 おもてなしの聖地 伊勢（2月19日放送）」を再放送」	4月 6日
辰砂	株式会社 ディアゴス ティーニ・ジャパン	『日本の神社百科』8巻	4月20日
鳥羽城之絵図	個人	歴史地震研究会誌『歴史地震』	4月20日
豊穰御蔭参之図	株式会社 エディット	株式会社ユーキャン『高卒認定試験合格指導講座 日本史テキスト』	5月 2日
豊穰御蔭参之図	株式会社 エディット	株式会社ユーキャン『高卒認定試験合格指導講座 日本史問題集』	5月 2日
伊勢・古市麻吉/伊勢古市備前屋桜花楼踊りの図/伊勢参宮名所図会/三社託宣の図	株式会社 グループ現代	NHK総合「プラタモリ 伊勢神宮」/ 「プラタモリ お伊勢参り」	5月 6日
豊穰御蔭参之図	株式会社 山川出版	『中高一貫校向け日本史（仮題）』	5月18日
ミエゾウ全身復元骨格	羽村市郷土博物館	羽村市郷土博物館 企画展コーナー	5月20日
豊穰御蔭参之図	特定非営利活動法人 著作権利等に係る教育NPO	学校管理下で無償配布する 平成28年度愛知中学校社会科入試問題	5月23日
伊州上野長田川筋域笠置迄川絵図全部三巻/伊州上野長田川筋域笠置迄川絵図上	伊賀市	『伊賀市史』 第2 巻通史編近世	5月23日
両宮撰末社順拝絵図	株式会社 テレビ朝日	テレビ朝日「お坊さんバラエティー ぶっちゃけ寺」	5月30日
丹波家文書 文会舎西洋平発兌書目	個人	同人誌『一寸』67号「岩橋教章 雑録（二）」	6月 1日
重盛家文書 天明七年仰せ出され御書附写	Studio アール	ケーブルテレビ「まほろば」	6月 2日
エディアカラ生物群レプリカ/バージェス動物群化石/三葉虫 ほか	株式会社 NHKエデュケーションナル	放送大学番組「生物の進化と多様化の科学」	6月 6日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
津御城下分間絵図/鳥羽城之絵図	株式会社 碧水社	ユーキャン『城大全』『津城』	6月 8日
三重県水産図解 鯉釣船	株式会社 集英社	『学習まんが日本の歴史』11巻	6月10日
豊穰御蔭参之図	株式会社 小学館	入試問題過去問演習・テキスト 『2016年度 西大和学園中学校』	6月14日
豊穰御蔭参之図	株式会社 小学館	『有名中学合格事典2017』（関西・中部・その他 完全ガイド） 購入者への特典サービスとして提供する、読者限定特設Webサイト内の有名中学入試問題集	6月14日
豊穰御蔭参之図	株式会社 ディアゴスティーニ・ジャパン	『日本の神社大全』15巻	6月23日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 Mak Office	「大江戸捜査網」 DVDコレクション第68号	7月 4日
ニホンカモシカ	三重県戦略企画部	「2017年版三重県民手帳」 ※三重県のシンボル（県の獣）紹介で利用	7月 8日
岩戸神楽の起頭/三重県水産図解 鯉釣之図	株式会社 ハウフルス	テレビ東京 「出役！アド街ック天国」	7月16日
小学少年双六	株式会社ベネッセコーポレーション	『平成28年度進研ゼミ小学講座 チャレンジ3年生』1月号	7月20日
伊勢国地券証一志郡川北村/伊勢国地券証一志郡須賀村/三重県下頑民暴動之事件/暴動件本支往復/暴動件決議綴/暴動日誌/暴動罹災調	Studio アール	ケーブルテレビ 「まほろば～歴史の扉～」	7月30日
カヤネズミ	株式会社 エヌ・アンド・エス企画	佼成出版社『生きものたちのわすれもの』（こども向け図書館用書籍）3巻「水辺」	8月 9日
トバリユウ	株式会社 ニュートンプレス	電子書籍版 Newton 「恐竜の時代 肉食恐竜と巨大恐竜」	8月10日
伊勢参宮名所図会（三）より恵日山観音寺のカット	岡田事務所	東海テレビ「スイッチ！」街道を 行くシリーズ内	8月10日
豊穰御蔭参之図	株式会社 ユニフォトプレスインターナショナル	千葉県立統一模試 1月配当 2016年版	8月24日
浮絵駿河町呉服屋図/東都名所駿河町之図/富士五節句睦月駿河町/三井呉服店引札/駿河町越後屋	株式会社 エルコンパス	雑誌『名古屋港』206号	9月 2日
(度会県廃合事務書類)/(度会県廃合事務書類)/(度会県廃合事務書類)/度会県廃合事務書類受継件名之部第一課/度会県廃合事務書類旧県往復編部第一課	個人	勉強会レジュメ	9月 6日
東海道分間絵図（宮から桑名）	NHK津放送局	ほっとイブニング「ぶらり旅」	9月 6日
松阪旧城絵図面・城内建物絵図面（第一課）飯高郡松阪城	松阪市教育委員会	松阪市文化財センターはこわ館出版物ほか	9月 7日
三重県の化石「ミエゾウ」写真データ	産業技術総合研究所地質調査総合センター	日本地質学会「県の石」A0版ポスターおよび地質調査総合センター公式サイト	9月28日
歌川国貞「伊勢の海士 長鮑制之図」	株式会社 淡交社	淡交新書『なぜ日本人は「のし袋」を使うのか（仮題）』	10月 6日
豊穰御蔭参之図	有限会社 山平商会出版事業部	『ポテンシャル日本史』	10月 7日
戦後津市街写真データ（太田金典撮影）	名古屋テレビ放送	ローカルニュース番組「UP!」	10月20日
三社託宣の図	株式会社 CNインターボイス	NHKワールドTV「Pride, Ise city（伊勢の誇り）（仮題）」	10月31日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
豊穰御蔭参之図	株式会社 天夢人	『週刊ビジュアル江戸三百藩』第67号	11月 4日
鳥羽竜の右大腿骨の化石写真	株式会社 G. B.	宝島社『世界に誇る！恐竜王国日本』	11月18日
三重県水産図解 蟹婦焚火ニ躰ヲ温タメ休足ノ図	株式会社 創英社	『わが国の真珠産業・真珠製作と真珠振興法』	11月21日
東海道分間絵図（宮から桑名）	株式会社 ドキュメンタリージャパン	NHK BSプレミアム「新日本風土記 渡し舟」	11月22日
岩戸神楽の起頭	株式会社 スポニチクリエイツ	ポニーキャニオン動画サイトMILOU「Mr. 都市伝説関暁夫の開運神秘の旅」	12月 4日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 ネクサス	BS TBS番組「にっぽん！歴史鑑定」	12月 5日
伊勢参宮文政神異記/伊勢参宮名所図会/広重伊勢参宮宮川の渡し/伊勢・古市麻吉/伊勢古市備前屋桜花楼踊りの図/伊勢参宮名所図会/三社託宣の図	NHK制作局	NHK総合「プラタモリ 伊勢神宮SP」	12月14日
豊穰御蔭参之図	テレビ朝日映像株式会社	テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」	12月14日
勢洲鯨取ノ図（歌川国貞）	三重県教育委員会	平成28年度教育委員会制作映像「海とともに」	12月15日
三重県下頑民暴動之図/浮絵駿河町呉服屋図/豊穰御蔭参之図	株式会社 日本入試センター	サピックス小学部 学習教材	12月16日
三重県総合博物館外観写真データ	菰野町教育委員会	『わたしたちのまち菰野町』（小学校社会科副読本）	12月28日
御蔭参宮文政神異記	公益財団法人 伊勢文化会議所	津ケーブルテレビ	12月28日
内国博物館書類勅業課/第二回内国勅業博覧会本目録	個人	公益社団法人日本文書情報マネジメント協会機関誌『IM』	1月 6日
豊穰御蔭参之図	株式会社 ベネッセコーポレーション	2017年度 中3総合学力調査 1学期	1月11日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 宝島社	宝島社『江戸の家計簿』（再販）	1月12日
クマタカ（剥製写真）	株式会社 夕刊三重新聞社	夕刊三重新聞	1月12日
三重県総合博物館外観写真/ミエゾウ全身復元骨格写真/三重の実物図鑑展示会場写真/忍者ってナンジャ展ポスター写真/明治期公文書棚写真/所蔵資料検索システム画面写真/レファレンスコーナー写真	個人	公益社団法人日本文書情報マネジメント協会機関誌『IM』3月号「三重県総合博物館の紹介」	1月16日
三重県総合博物館外観写真/ミエゾウ全身復元骨格写真/三重の実物図鑑展示会場写真/忍者ってナンジャ展ポスター写真/明治期公文書棚写真/所蔵資料検索システム画面写真/レファレンスコーナー写真	個人	丸善出版『公文書館紀行』	1月16日
手洗い器（大正）	株式会社 おとなの学校	『おとなの学校メソッド』3月号	1月27日
トバリウ大腿骨・上腕骨	NHK国際放送局	NHKワールドTV「Science View」	2月 1日
明治8年三重地号達/明治11年天甲号達/明治11年三重県公文全誌/明治17年大蔵省達/明治18年三重県乙号達/明治19年乙号達訓令/明治18年乙号達の中の通達 ほか	三重県土地家屋調査士会	『三重県の地籍』Ⅱ	2月 2日
三重県総合博物館正面写真	鳥取県立公文書館	鳥取県立公文書館展示コーナーの出版物等	2月15日

徳川家康書状 ほか	環境生活部文化振興課 県史編さん班	『三重県史』通史編近世 1	3月 2日
三重県水産図解 巻二 コナゴ図/巻三 コナゴ漁法之図	三重テレビ放送	三重テレビニュースウィズ	3月 4日
三代豊国 岩戸神楽乃起頭	株式会社 スローハンド	NHK BSプレミアム「三番叟 FORM 日本最古の舞（仮題）」	3月13日

(その他の利用)

利用資料名	申請者	目的	申請日
久居陣営之図	楠井法律事務所	調停の書証として利用	4月15日
勢州鰻取ノ図/山海名産盡伊勢鮑/伊勢の海士長鮑制ノ図	三人展	志摩市役所1階ロビーにおける海女文化のPRのためのパネル展示	4月29日
幸田皆春 竹図	個人	系譜作成のための利用	5月 9日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 ハドル	岡三証券株式会社伊勢支店における展示パネルへの使用	6月28日
駒田家文書(三重盲?院長より書状)/三重盲啞院規則/三重盲?院予算/三重盲啞の設立/柳瀬家文書印鑑(巡在盲人仕切)	日本社会事業大学	学術上の調査研究のための利用(トヨタ財団研究助成)	7月 5日
加藤家文書	国立パリ第7大学	学術上の調査研究のための利用	7月25日
三重鉄道敷設関係図面 土木課(大正5~10年)	個人	四日市市役所都市整備部主催鉄道展における展示	9月 9日
ニワトリ骨格セット(学習用)	三重大学	教育実習(三重大学教育学部付属小学校)での利用	9月20日
無脊椎動物樹脂封入標本/伊勢志摩展展示解説パネル	志摩市	伊勢志摩ロイヤルホテル・志摩市阿児アリーナでの展示	9月26日
丹波家文書/伊勢暴動聞書	津高等学校	津高等学校でのSSH活動の成果発表	11月12日
三重県水産図解 参	海の博物館	学術上の調査研究のための利用	11月15日
三重県水産図解 参 ボラ漁部分	海の博物館	海の博物館特別展示室 特別展「ボラが消えた!どこいった?~食卓の人気者だった魚はいま~」にパネル掲載	11月15日
谷氏旧蔵文書/九鬼守隆印判状/九鬼守隆書状/坂口茂氏旧蔵文書	東京大学史料編纂所	学術上の調査研究のための利用	11月16日
ミエゾウ復元画とトバリユウ復元画	個人	私的勉強のための利用	11月25日
嘉永二年伊勢御遷宮高棟別割控帳/英虞郡志島村節儉概法/現地反別取調帳(地)	個人	学術上の調査研究のための利用	12月 1日
関萬古関連資料	亀山市歴史博物館	展覧会準備に向けた調査	12月 4日
アケボノゾウ全身骨格標本/アカボノゾウ(復元)	長野県教育委員会	県指定文化財諮問・答申参考資料	2月 1日

5.3 学習支援活動事業

博物館の利用者に、三重の自然と歴史・文化や博物館の活動に対する興味・関心を持つきっかけや深める機会を提供することを目的として、講座やワークショップ、フィールドワークなどの学習支援活動を実施している。

5.3.1 講座

1) MieMuセミナー

三重の魅力を探究し、基本展示の展示内容について、より詳しく知ることができ、かつ興味が持てるように、三重の自然と歴史・文化に関する専門家として外部講師を招いて行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
東紀州を特徴づける植物たち	5月29日(日)	レクチャー ルーム	32	山本和彦(三重自然誌の会)
三重の鉱物	7月10日(日)		39	稲葉幸郎(真珠養殖業／鉱物研究家・世界新産鉱物発見者)
棟札・当番帳から見た伊賀の中世	11月27日(日)		32	笠井賢治(伊賀市総務課市史編さん係)
歴史と生きもののにぎわいにあふれる朝見の今	1月29日(日)		24	皆川明子(滋賀県立大学)
計			127	

2) 学芸員フリートーク

第4土曜日に当館の学芸員がそれぞれの専門分野について講演する講座。来館者が気軽に参加できる講座。平成28年度は全6回開催。

行事名	開催日	会場	人数	講師
“博物館”をもっと知ろう！	5月21日(土)	レクチャールーム	11	当館職員 中村千恵
三重の三億年	7月16日(土)		50	当館職員 中川良平
地獄のおはなし	8月20日(土)		48	当館職員 瀧川和也
伊勢に旅した平安王朝人たち	10月15日(土)		25	当館職員 天野秀昭
お雑煮のおはなし	12月17日(土)		31	当館職員 門口実代
みえのたべものの歴史をさぐる	2月18日(土)		33	当館職員 太田光俊
計				198

3) 基本展示スポットガイド

隔月で基本展示の1コーナーを担当学芸員が展示解説する講座。平成28年度は全6回開催。

行事名	開催日	会場	人数	講師
基本展示スポットガイド	4月 9日(土)	基本展示室	12	当館職員 大島康宏
基本展示スポットガイド	6月11日(土)		10	当館職員 門口実代
基本展示スポットガイド	8月13日(土)		25	当館職員 宇河雅之
基本展示スポットガイド	10月 8日(土)		5	当館職員 森田奈菜
基本展示スポットガイド	12月10日(土)		9	当館職員 北村淳一
基本展示スポットガイド	2月11日(土・祝)		8	当館職員 岸田早苗
計			69	

4) 館長と調べる三葉虫のひみつ

行事名	開催日	会場	人数	講師
館長と調べる三葉虫のひみつ	4月30日(土)	実習室	17	当館館長 大野照文
館長と調べる三葉虫のひみつ	5月28日(土)		11	
館長と調べる三葉虫のひみつ	6月25日(土)		25	
館長と調べる三葉虫のひみつ	7月23日(土)		23	
館長と調べる三葉虫のひみつ	8月27日(土)		25	
館長と調べる三葉虫のひみつ	9月24日(土)		10	
計			111	

5) 同定会

海や山。自宅で見つけた動物、植物、化石などの標本を持ち寄って、各分野の専門家と一緒に名前を調べるイベント。

行事名	開催日	会場	人数	講師
標本の名前を調べてみよう(同定会)	8月21日(日)	レクチャールーム	79	当館職員、外部講師 ※詳細は以下のとおり

※講師 [植物]当館職員 森田奈菜 [昆虫]三重昆虫談話会 河北 均、当館職員 大島康宏
 [貝類]当館職員 中野 環 [脊椎動物]当館職員 北村淳一 田村香里
 [岩石・鉱物]当館職員 津村善博 [化石]当館職員 中川良平

6) 古文書調査法研修講座

古文書の調査法や解説について、5回連続して行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
研修講座①	6月25日(土)	レクチャールーム	8	当館職員
研修講座②	8月28日(日)		8	藤谷 彰 山本梨加
研修講座③	10月30日(日)		8	三重県環境生活部文化振興課
研修講座④	12月18日(日)		8	県史編さん班職員
研修講座⑤	2月25日(土)		7	小林 秀 石原佳樹
計			39	

7) さんちゃんのお食事会

館内で飼育しているオオサンショウウオの給餌を公開し、観察する講座。奇数月第2土曜日に実施

行事名	開催日	会場	人数	講師
さんちゃんのお食事会	5月14日(土)	オオサンショウウオ 観察水槽前	65	当館職員 北村淳一
	7月 9日(土)		82	
	9月10日(土)		41	
	11月12日(土)		55	
	1月14日(土)		56	
	3月11日(土)		35	
計			334	

8) わくわくワークショップ

1ヶ月に1回程度実施する自由参加型の講座。奇数月第4土曜日には、ミュージアム・パートナーのおもしろ博物館グループが担当

行事名	開催日	会場	人数	講師
浮世絵ぬりえ	4月23日(土)	学 習 交 流 ス ペ ース	14	当館職員 稲垣玲弥
ゆらゆらチョウチョを作ろう	5月28日(土)		11	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
葉っぱのこすりだし図鑑をつくろう	6月25日(土)		85	当館職員 稲垣玲弥
恐竜のウォッチ型リストバンドを作 ろう	7月23日(土)		85	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
オリジナル昆虫をつくろう	8月27日(土)		51	当館職員 稲垣玲弥
ゆらゆらチョウチョを作ろう	9月24日(土)		89	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
ドングリ図鑑をつくろう	10月29日(土)		60	当館職員 稲垣玲弥
ポリ袋で忍者に変身！	11月26日(土)		57	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
まつぼっくりでクリスマスツリーをつ くろう	12月17日(土)	80	当館職員 稲垣玲弥	
折り紙で干支を作ろう	1月28日(土)	こども体験 展示室	32	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
伊勢型紙でポストカードをつくろう	2月25日(土)	学 習 交 流 ス ペ ース	54	当館職員 稲垣玲弥
さくらの風車をつくろう	3月25日(土)		40	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
計			658	

9) おとなのためのコケ講座

コケについての座学とともに、ミュージアムフィールドで採集したコケを顕微鏡で観察し、同定方法などを学ぶ講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
おとなのためのコケ講座	11月 6日(日)	実習室ミュージアムフィールド	10	当館職員 森田奈菜

10) 正月かざりづくり体験

ミュージアム・パートナーおもしろ博物館づくりグループとの連携イベントで、なわをなうところからしめ縄状の正月かざりをつくる体験講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
正月かざりをつくろう	12月18日(日)	交流活動室	15	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ 当館職員 門口実代

5.3.2 フィールドワーク

1) 親子で標本づくりにチャレンジ！

ミュージアムフィールドで昆虫や植物の観察・採集を行い、実際に標本をつくる体験講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
親子で標本づくりにチャレンジ！	8月14日(日) 8月20日(土)	ミュージアムフィールド および実習室	43	当館職員 大島康宏

2) さがしてみよう！磯の生物

熊野灘沿岸の磯にすむ生物の観察

行事名	開催日	会場	人数	講師
さがしてみよう！磯の生物	9月16日(土)	志摩市志摩町片田	中止	当館職員 中野 環 当館職員 水谷憲二

3) 文化財探訪

学芸員と一緒に、県内の文化財を訪ね歩く行事

行事名	開催日	会場	人数	講師
文化財探訪	11月 3日(木・祝)	津市美杉町多気	中止	当館職員 瀧川和也

4) 阿波層群の化石をたずねて

行事名	開催日	会場	人数	講師
阿波層群の化石をたずねて	11月27日(日)	伊賀市下阿波	中止	当館職員 中川良平 当館職員 津村善博

5) 宮川の石を調べよう

行事名	開催日	会場	人数	講師
宮川の石を調べよう	12月11日(日)	多気郡大台町久豆	15	当館職員 中川良平 当館職員 津村善博

6) 身近な冬鳥を観察しよう

鳥類の剥製を館内でじっくり観察してから、博物館周辺の野外で鳥類を観察する自然観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
身近な冬鳥を観察しよう	12月17日(土)	標本作製室および博物館周辺の池	14	平井正志(日本野鳥の会三重) 当館職員 北村淳一
身近な冬鳥を観察しよう	3月 5日(日)	標本作製室および博物館周辺の池	27	平井正志(日本野鳥の会三重) 当館職員 北村淳一

5.3.3 学習支援冊子・マップ

博物館の展示や資料、活動に関する情報を発信するために、博物館情報誌「みえんしす」を刊行した。

・三重県総合博物館情報誌「みえんしす」(第11号～第16号)

11号(6月1日発行) 特集 まもなくはじまる!第12回企画展「大変動の地」

12号(8月2日発行) 特集 新 津市誕生10周年記念特別展覧会 過去から未来へ～津のあゆみ～

13号(9月20日発行) 特集 秋の企画展 忍者ってナンジャ!? The NINJA

14号(12月13日発行) 特集 植木等と昭和の時代

15号(1月17日発行) 特集 冬の展覧会情報

16号(2月8日発行) 特集 きて・みて・さわって カモシカパラダイス

5.3.4 人材育成支援活動

1) 博物館学芸員実習

各大学における「博物館学芸員資格」の必須科目である「博物館実習」を希望する学生の受け入れを行った。

①Aコース

[実習生] 三重大学(3名)、京都女子大学(3名)、皇學館大学、奈良女子大学、都留文科大学、宮崎大学、東洋英和女学院大学、愛知淑徳大学、中京大学、岐阜女子大学、南九州大学、東京農業大学(各1名)

日 程	概 要
8月17日(水)	・ガイダンス、博物館の概要、総合博物館のおもしろさ、館内見学 ・保存科学入門、博物館学入門、課題発表会
8月18日(木)	・歴史資料の取り扱い・骨格標本の作製
8月19日(金)	・民俗資料の取り扱い・撮影・文書の目録作成
8月20日(土)	・公文書整理作業・化石レプリカづくり補助
8月21日(日)	・「同定会」 補助

※都留文科大学の学生1名は、上記に加えて、8月24日(水)～28日(日)に図書資料の整理、地学資料の整理、わくわくワークショップの補助、くらしの道具展の体験資料づくりなど、合計10日間の実習を行った。

②Bコース (三重大学との相互協定による連携事業として実施)

[実習生] 三重大学(2名)

日 程	概 要
7月30日(土)	・M祭ワークショップ補助
11月 3日(木・祝)	・忍者展の概要説明、展示の構成などの議論
11月10日(木)	・忍者展補助、来客対応についての議論
11月17日(木)	・忍者展補助
11月24日(木)	・忍者展補助

5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業

博物館活動の基本的な活動の視点である「協創」と「連携」に基づき、他機関・諸団体との交流と連携を深め、新たな創造と発信の機会とするために、連携のための協議、連携・協力による講演会や各種ワークショップ、展示、博物館の活用等を実施した。

5.4.1 学校

1) 遠足・社会見学等の利用

平成28年度の学校利用については幼稚園(所)30園、小学校125校、中学校21校、高等学校21校、特別支援学校41校の計238校であった。また、地域別の利用状況については、北勢地区36校、中勢地区13校、南勢地区36校、伊賀地区18校、東紀州地区9校、県外2校であった。また、小学校3年生で学ぶ「昔

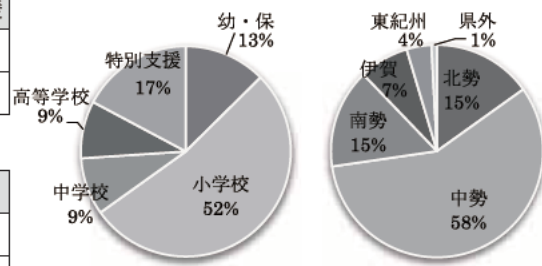
のくらし」の学習時期に合わせてトピック展示「くらしの道具」を開催し、会期中に展示見学のために来館した小学校11校に、学芸員が道具の使用体験を交えた解説対応を行った。

	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
実数	30	125	21	21	41
割合(%)	12.6	52.5	8.8	8.8	17.2

校種別の利用数

	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	県外
実数	36	137	36	18	9	2
割合(%)	15.1	57.5	15.1	7.5	3.7	0.8

地域別の利用校数



2) 教職員研修

博物館と学校教育との連携の観点から、教職員の方々に博物館の活動や施設等について知っていただき、学校教育における博物館活用を促進するために講師派遣、教員研修（個人・団体）の受入を行った。

<総合教育センター講座>

8月19日(金) 地学研修 講師派遣 (地学研修)

<教員研修>

教員研修 (社会体験実習)

参加人数 13名

期間 8月10日(水)～8月26日(金) 一人あたり2日間

3) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業への協力

- ・三重県立津高等学校のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業 SSH探求活動として6名の学芸員が講座を担当した。

太田 光俊 (歴史) 実施日 7月27日(水)

中川 良平 (化石) 実施日 7月28日(木)

津村 善博 (岩石) 実施日 8月4日(木)

藤谷 彰 (歴史) 実施日 8月4日(木)

門口 実代 (民俗) 実施日 8月5日(金)

大島 康宏 (昆虫) 実施日 8月12日(金)

4) 職場体験

平成28度については、試行的な取組として、合計5校の受入れを行った。

- ・三重県立みえ夢学園高等学校2年生 3名 (7月29日(金)～7月31日(日))
- ・津市立南ヶ丘中学校2年生 3名 (9月7日(水)～9月9日(金))
- ・津市立朝陽中学校2年生 3名 (9月13日(火)～9月15日(金))
- ・津市立西郊中学校2年生 3名 (9月14日(水)～9月16日(金))

5) 学校への資料貸出

県立盲学校の文化祭で高等部普通科の展示「手でみる博物館」の開催にあたり、教育資料27点の貸出を行った。(11月12日(土))

6) 基本展示室ワークシートの作成

学校団体向けにより博物館を活用してもらうために低学年向けのワークシートを作成。運用を開始した。

5.4.2 大学

1) 三重大学

三重大学とは、平成26年2月に締結した「三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協定」に基づき、三重の自然と歴史・文化などのかけがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携事業

(1) 共同研究

- ・志摩市志摩半島における総合的な地域調査

志摩市志摩町を中心とする先志摩半島地域を対象とする総合調査。3か年事業（平成26～28年度）の最終年度にあたる本年度は、志摩において移動展示を実施した（Ⅱ4.9参照）。

- ・学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発（平成25～29年度）

(2) 博物館実習

- ・Aコース（8月17日（水）～8月21日（日））学生 3名受入
- ・Bコース（平成28年度の内5日間）学生 9名受入

(4) 博物館学芸員養成課程授業

〔授業担当〕

- ・生物資源学部の学芸員養成課程授業科目 「博物館資料論」「博物館資料保存論」

講義の一部を当館職員中川良平・大島康宏が担当

〔授業協力〕

- ・人文学部博物館実習 ①バックヤード等の施設見学（6月1日（水））、②保存環境に関する 施設・設備見学（6月15日（水））、③歴史資料の資料取扱の研修（7月6日（水））
- ・教育学部博物館概論 博物館見学（6月19日（日））

②連絡推進会議

三重大学博学連携推進室 加納哲、吉岡基、菅原洋一、山田康彦、塚本明、前川敦子

三重県総合博物館 大野照文、松井一明、小川知佐子、天野秀昭、宇河雅之、中野環、北村淳一

- ・第1回 開催日 4月19日（火） 場 所 会議室
内 容 ・先志摩半島の総合調査・報告会・移動展示について
・博学連携シンポジウムについて
・学芸員実習について など
- ・第2回 開催日 7月26日（月） 場 所 レクチャールーム
内 容 ・「文化交流ゾーン」について
- ・第3回 開催日 9月3日（火） 場 所 三重大学附属図書館
内 容 ・先志摩半島の総合調査・移動展示について
・博学連携シンポジウムについて
・次年度の学芸員実習について など

2) 皇學館大学

皇學館大学とは、平成25年2月に締結した「三重県総合博物館と皇學館大学との相互協力協定」に基づき、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探求・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携内容

(1) 共同研究

- ・皇學館大学 佐川記念神道博物館の所蔵資料を用いた調査・研究
神道博物館所蔵の鏡鑑類コレクションの科学的分析などの共同研究。

(2) 博物館実習

- ・Aコース（8月17日（水）～8月21日（日）） 学生 1名受入

(3) 博物館学芸員養成課程授業

- ・学芸員養成課程授業科目：「博物館資料保存論」「博物館資料論」
講義の一部を当館職員間刈創、岸田早苗が担当

(4) 授業などでの施設利用

- ・参拝見学にともなう見学（10月5日（水））

(5) 学生育成にかかわる事業

- ・当館資料を用いた古文書整理体験（平成29年2月28日（火）～3月2日（木）、レクチャールーム）

②連絡推進会議

皇學館大学研究開発推進センター 岡野友彦、岡田芳幸、中松豊、大平和典、前田和宏、山村智彦、
森正樹、大井恵子

三重県総合博物館 岸田早苗、瀧川和也、北村淳一、中村千恵

- ・第1回 開催日 10月1日（木） 場 所 皇學館大学佐川記念神道博物館 会議室

内 容 ・連携・協力事項（協定第2条）について

総合博物館資料を用いた学生育成の調査等、神道博物館所蔵資料の共同研究、
学芸員養成課程授業への協力など

- ・第2回 開催日 平成29年3月9日（木） 場 所 会議室

内 容 ・連携・協力事項（協定第2条）について

古文書調査補助（学生育成）、神道博物館所蔵資料の共同研究、学芸員養成課程
授業への協力、皇學館大学理科教育担当教員と博物館学芸員の連携に向けて、
博物館業務への皇學館大学学生参画について など

5.4.3 博物館

三重県内には登録博物館19館、博物館相当施設3館及び類似施設82館あり、相互に情報交換や企画展等での資料貸借などの相互協力を行っている。県内博物館の52機関69施設が加盟する三重県博物館協会の事務局が当館に置かれていることから、県内博物館との全体的な連携は主に同協会事業を兼ねて行っている。県外の博物館との関係では、全国組織である日本博物館協会、同近畿支部、全国科学博物館協議会、全国歴史民俗系博物館協議会に加盟している。また、岐阜県博物館との連携事業を実施した。

1) 三重県博物館協会

三重県博物館協会は、昭和48年に三重県内の博物館園等の相互連携を密にし、博物館事業等の普及発展を図り、三重県の文化の進展に寄与することを目的として設立され、平成28年度には県内博物館の52機関69施設が加盟している。当館館長が理事に選任され、また、当館が協会事務局を引き受けている。

(1) 研修事業

「博物館協会会員館のネットワーク強化」、「研修機会の充実」のために次の研修を各博物館施設と協力して実施。

1) 会員館スキルアップ研修

①技術研修（梱包研修）

文化財の梱包方法や取扱いについて実習し、会員館園職員の文化財取扱い技術の向上を図るために、技術研修（梱包研修）を実施。

開催日：平成29年1月25日（水）
会 場：朝日町歴史博物館2F 視聴覚室
内 容：①博物館資料の梱包方法
②テグス等による資料展示方法
講 師：日本通運株式会社三重支店職員
出席者：22名

2) 会員館ネットワーク強化事業

①情報交換会

ネットワークの強化を目的として、総会後に会員の活動状況や抱える課題について情報交換を行った。

日 時：6月29日（水）（総会終了後）

場 所：皇學館大学佐川記念神道博物館

(2) 三重県博物館協会教育普及事業【公開講座】ミュージアム・トーク みえものがたり

三重県博物館協会会員や博物館関係者が、日頃の研究成果や活動成果を一般に公表し、意見交換を行う機会とし、協会の諸活動の普及や充実に努めることを目的に実施しました。

開催日：11月23日（水・祝）

会 場：松阪市産業振興センター 3階研修ホール

内 容：講 演「細部に秘められた謎 ～ジュエリーの図像解釈学入門～」

講 師：ミキモト真珠島真珠博物館 館長 松月清郎さん

参加者：35名

(3) 博物館関係情報共有事業

日本博物館協会が主催する第64回全国博物館大会（群馬県高崎市）へ会員館園職員1名を派遣しました。（報告については平成29年度総会後に実施予定）

また、6月29日総会終了後に、研修報告会として、平成27年11月の第63回全国博物館大会（広島県呉市）に参加した本居宣長記念館学芸員井田ももさんから、大会の状況について報告を行い、情報の共有を図った。

(4) 三重県博物館協会広報PR事業

1) 県内外への発信活動

三重テラス（東京都日本橋）に、冊子「三重県博物館協会40周年記念 三重の博物館」を置き、県外でのPRを図りました。

(5) 東海三県博物館研究交流会（第41回）

日 時：12月2日（金）

会 場：四日市市立博物館

テーマ：「ミュージアムへ行こう！」…魅力的な誘客とは

ーミュージアムがもつ可能性を考えようー

主 催：岐阜県博物館協会・愛知県博物館協会・三重県博物館協会

内 容：①事例報告

三重県の事例発表「博物館の再発見～そらんぼ四日市として～」

四日市市立博物館 廣瀬 毅

四日市公害と環境未来館 大杉邦明

愛知県の事例発表「名古屋市博物館における外部連携の試み」

名古屋市博物館 藤井康隆

岐阜県の事例発表「多治見市モザイクタイルミュージアム 誘客から交流へ」

②グループセッション

事例発表者を囲み、3班に分かれてグループ討議

③会場施設見学（自由見学）

プラネタリウム「スペースミュージアム―秋」、時空街道（常設）、企画展、四日市
公害と環境未来館

参加者：研究交流会55名（愛知16名、岐阜7名、三重32名）、情報交換会29名

(6) 災害発生時の相互協力事業

1) 台風などの災害発生時のメールでの情報調査

県教育委員会社会教育・文化財保護課、県文化振興課県史編さん班、三重県博物館協会事務局
で、情報集約と相互共有を行いました。

※ 4月1日（三重県南東沖地震）、9月7日（台風13号）、9月20日（台風16号）、
11月19日（和歌山県南部地震）

2) 災害対応の物資備蓄

昨年度に続き、災害対応物資の追加備蓄を行いました。

さらし、エアキャップ、ダンボール箱、ブルーシート（大・中・小）、ロープ、ハケ、大型ポ
リ袋、雑巾、バケツなど

2) 岐阜県博物館との連携

平成26年5月14日に三重県総合博物館で開催された岐阜県と三重県の二県知事懇談会で交わされた岐
阜県博物館との相互連携の合意に基づき、平成27年度に引き続き、岐阜県博物館と講演会と体験ワーク
ショップ講師の相互派遣などの連携事業を実施した。

行事名	開催日	会場	人数	講師
講演会「日本の鳥学黎明 期に活躍した動物採集家 ～山階芳麿を支えた折居 彪二郎～」	10月23日（日）	三重県総合博物館 レクチャールーム	26	説田健一 （岐阜県博物館 学芸員）
講演会「関ヶ原合戦と美 濃」	10月29日（土）	三重県総合博物館 レクチャールーム	59	山田昭彦 （岐阜県博物館 学芸員）
体験ワークショップ「化 石クリーニングと化石レ プリカ作り（三葉虫とア ンモナイト）」	10月30日（日）	三重県総合博物館 実習室	70	岐阜県博物館 教育普及係
講演会「100年で虫はこ れだけ変わる！」	10月16日（日）	岐阜県博物館	28	当館職員 大島康宏
講演会「藤堂高虎の家臣 団形成と領国経営」	11月 6日（日）	岐阜県博物館	65	当館職員 藤谷彰
体験ワークショップ「自 然をモチーフとした工作 体験（オオサンショウウ オの紙工作）」	11月 3日（木・祝）	岐阜県博物館	152	三重県総合博物館ミュージ アム・パートナー おもしろ 博物館グループ ※担当当館職員 中村千恵
計			400	

5.4.4 文化交流ゾーン

三重県では、三重県総合文化センター（三重県文化会館・三重県生涯学習センター・三重県男女共同参画センター・三重県立図書館）、当館及び県立美術館を含む地域を文化交流ゾーンと捉え、全体としての魅力を高めることで、より多くの人が訪れ、さまざまな文化に接し、感性を高めることができる場の形成をめざしている。

このため、文化交流ゾーン各館に斎宮歴史博物館を加えた県立文化施設では、各館長による文化交流ゾーン関係館長会議、また、その実務レベルの文化交流ゾーン関係施設課長等会議を毎月定期的に開催し、連携強化を図っている。会議では、各館の運営や事業に関する情報の交換・共有をはじめ、文化交流ゾーンの利用促進に向けた全体広報、社会見学の受入や企画展・講座・イベントなどかわる連携について協議を行い、個々の連携事業の実施につなげている。また、特に、隣接する三重県総合文化センターとは事務連絡会議、駐車場会議を開催し、相互の円滑な日常的運営に努めている。

1) 総合文化センター

7月30日（土）に三重県総合文化センターで開催されたM祭の一会場として、下記の事業を連携して実施した。

・トバリユ発掘パズル 会場：学習交流スペース 参加人数：295名

2) 県立図書館

企画展の開催に合わせ、相互利用の促進を図るための取組を行った。主に、図書館から博物館へ来館する人の流れを生み出すことを意図して、図書館内での企画展に関するPR展示と関連図書の展示などを行った。

《実施内容》

- | | |
|---------------------|----------|
| ・第11回企画展「伊勢志摩」 | 図書館内PR展示 |
| ・第12回企画展「大変動の地」 | 図書館内PR展示 |
| ・第13回企画展「The NINJA」 | 図書館内PR展示 |
| ・第14回企画展「植木等と昭和の時代」 | 図書館内PR展示 |

3) 県立美術館、斎宮歴史博物館

5.4.5 国県市町など

1) 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク（みえ歴史ネット）

県・市町・関係諸機関が連携し、地域の歴史的文化的資産の保存と活用を図ることを目的とし、平成23年6月、県内25市町32機関と県の3機関が加入して「三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク」が発足したが、平成28年度現在、26市町30機関、県3機関が加入している。平成28年度は、2回の会議と研修会を実施した。また、第42回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国（三重）大会及び研修会への参加要請を行い、みえ歴史ネットの研修会として位置づけた。さらに、所在確認調査を終えた川越町で、個人及び組織の現況確認調査を実施した。

第1回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議

開催日：9月9日（金）

会場：三重県総合博物館 レクチャールーム

主な内容：今年度の取り組み、三重県総合文化センター（フレンテみえ）を会場として開催される第42回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国（三重）大会への協力・参加要請を行った。

第2回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議及び技術講習会

開催日：平成29年2月24日（金）

会場：三重県総合博物館 レクチャールーム及び実習室

第1部 みえ歴史ネット会議

主な内容：第1回会議以降の進捗状況等確認。現況確認調査の報告などを行った。

第2部 修復方法実習

テーマ：「古文書等資料修復方法実習」

講師：早稲田大学文学部学術院非常勤講師、元国立公文書館職員 有友 至

主な内容：紙資料の保存についての講義、和紙資料・洋紙資料の補修実習の実技実習を行う。

現況確認調査

開催日：平成29年2月15日（水）、17日（金）

調査先：川越町内個人宅及び川越町

マニュアルにしたがって、資料の保存場所、状態等の確認を行った。担当者が、所蔵者との日程調整等を行っていたこともあり、調査は円滑に進んだ。

2) 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国（三重）大会及び研修会

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会が主催で、全国大会及び研修会を開催し、当県では研修会及び、大会テーマの一部を担当した。日時：11月10日（木）～11日（金） 参加人数229名

開催場所：三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」及び三重県総合博物館

3) 公文書館関係

公文書館関係機関開催の会議等へ参加した。

全国公文書館長会議 開催日：6月9日（木）～10日（金） 於：東京都

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国（三重）大会及び研修会

開催日：11月10日（木）～11日（金） 於：三重県津市

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）近畿部会総会

開催日：6月14日（火） 於：京都市

東海北陸地区公文書等保存利用事務協議会

開催日：11月17日（木） 於：福井市

4) 文化財保存についての地域協力

地域にある文化財の保存・活用への協力は当館の使命としており、文化財の保存や修復方法に関する問い合わせへの回答・助言を行うとともに、必要に応じて当館の保存科学担当者が環境調査や資料分析を行った。

主な内容としては、収蔵施設等の施設設備や文化財防災に関する助言・講演、温度/湿度・化学物質・生物被害等についての測定と管理についての助言及び、X線透過撮影や蛍光X線による文化財の分析であり、平成28年度は次の対応を行った。

環境調査及び文化財調査の対応件数 8件

環境管理についての助言等の件数 19件

5.4.6 その他の諸機関・諸団体

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県総務部 総務課	「県民の日」記念事業 県政140周年記念イベント	4月16日(土)	レクチャールーム他	谷口裕信氏(皇學館大学准教授)による講演会「未来へつなぐ三重県誕生ヒストリア」、ダマシエク由美子氏(キャボット・マイクロエレクトロニクス・コーポレーション グローバル・オペレーションズ&クオリティ 副社長)・太田光俊(当館職員)によるパネルディスカッション。	120
伊勢志摩サミット 三重県民会議	伊勢志摩サミット応援企画「竹あかりワークショップ」	4月16日(土)	実習室	伊勢志摩サミット応援企画の竹をつかった工作教室。	40
三重県農林水産部 みどり共生推進課	野生生物保護啓発ポスターコンクール作品展示会	5月10日(火)～24日(火)	学習交流スペース	コンクールの入選作42点を展示。	—
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座	5月28日(土)	レクチャールーム	貝發憲治氏(三重クモ談話会事務局長)による「驚きのクモの世界～野外観察編～」	22
日本労働組合連合会三重県連合会	原爆パネル展	6月1日(水)～19日(日)	学習交流スペース	原爆パネルの展示。	—
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座	6月11日(土)	レクチャールーム	渡辺守氏(三重大学名誉教授)による「生態学シリーズ『動物の行動』」	24
高田高等学校	高田高校科学部実験講座	7月22日(金)・24日(日)	実習室	科学部生徒による「巨大シャボン玉」の実験体験。	260
三重県総合文化センター	M祭プログラムで作成した作品の展示	7月31日(日)～9月4日(日)	学習交流スペース	造形作家竹田尚史+榊原由依「ナナがいる天空に浮かぶ無人島に上陸しよう」の作品展示。	—
三重県総合文化センター	M祭プログラムで作成した作品の展示	8月5日(金)～9月4日(日)	学習交流スペース	イラストレーター本城まい子さんお絵かきツアー作品展示。	—
中部電力	電気実験教室	8月13日(土)	実習室	子どもを対象とする電気に関する実験教室。	親子144
三重県真珠振興協議会・三重県(農林水産部フードイノベーション課)	夏休み親子真珠教室	8月21日(日)	交流活動室	真珠の魅力を紹介する講座。	80
三重県教育委員会、三重県社会教育委員連絡協議会	社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」イベント	8月24日(水)	エントランスホール・学習交流スペース	県内の大学等に通う学生が地域で実践している社会教育について情報発信するイベント。会場は当館と三重県総合文化センター。	117
三重県林業研究所	研究成果報告会	8月26日(金)	レクチャールーム	研究成果の報告会。	43
三重県水産研究所	「三重県水産研修所」ってどんなところ?	8月28日(日)	実習室	県のさかなイセエビ等の研究成果の紹介にあわせ、顕微鏡等を使った観察、クイズラリーなど。	417
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座	9月10日(土)	レクチャールーム	渡辺守氏(三重大学名誉教授)による「生態学シリーズ『動物の行動』②「母と子」	27
読売新聞津支局	第60回日本学生科学賞三重県展	10月5日(水)～10日(月・祝)	レクチャールーム	日本学生科学賞三重県展の入選作品の展示。	—
三重県農林水産部(農林水産技師女子会プロジェクト)	みえの郷土料理を作ろう!知ろう!楽しもう!～みえの郷土料理クッキング～	10月29日(土)	実習室	みえの郷土料理について広く知っていただくための、みえの郷土料理クッキングイベント。	58

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
雇用経済部国際戦略課	伊勢志摩サミットで記念植樹された「神宮スギ」の定植式	11月27日(土)	ミュージアムフィールド	ミュージアムフィールドに「神宮スギ」の定植を行った。	—
三重県職員研修センター	ブラッシュアップ研修「三重を知る」	12月1日(金)	レクチャールーム・ミュージアムフィールド	県職員対象の研修（三重の自然、忍者）。	55
雇用経済部国際戦略課	首脳会議用円卓・椅子の展示	11月27日(土)～12月25日(日)	学習交流スペース	伊勢志摩サミットで使用された首脳会議用円卓・椅子の展示。	6,587
三重県木材協同組合連合会、三重県木材青壮年団連合会	第33回三重県児童・生徒木工工作コンクール 入賞作品展示	12月2日(金)～12月16日(金)	学習交流スペース	児童生徒のコンクール入賞作品を展示。	—
三重県下水道公社・三重県下水道課	第29回下水道ポスターコンクール	12月6日(火)～12月16日(金)	エントランスホール	下水道をテーマとしたポスターの受賞作品展示。	—
雇用経済部伊勢志摩サミット推進局	尾鷲ヒノキを使った木工教室	12月11日(日)	実習室	尾鷲ヒノキを使った自分だけのメダルと万年カレンダーを作る木工教室を開催した。	41
三重県営業本部	竹あかり制作体験ワークショップ	12月18日(日)	実習室	伊勢志摩サミットで会場を彩り、配偶者プログラムで首脳夫人も制作体験された竹あかりのワークショップ。	130
三重県障がい者芸術文化祭実行委員会事務局（公益社団法人三重県障害者団体連合会）	三重県障がい者芸術文化祭作品展	12月20日(火)～25日(日)	学習交流スペース	同文化祭の受賞作品（絵画・写真、書道、版画、彫刻、陶芸、手芸、工芸、貼絵・デザイン等）の展示。	—
尾鷲林政推進協議会	森のめぐみ、森と人との交流～伊勢志摩サミットフェスティバル	12月25日(日)	学習交流スペース	速水亨氏（速水林業）、ミス日本みどりの女神を招き、尾鷲ヒノキと日本の森のすばらしさなどを学ぶ機会を提供した。	30
県教育委員会高校教育課	三重県総合学科教育研究大会	12月27日(火)	レクチャールーム	総合学科のある各県立高校生徒による取組みなどの発表、館内見学などを行った。	72
三重県環境情報学習センター	三重県地球温暖化帽子啓発ポスターコンクールの入賞作品展示	1月11日(水)～28日(土)	学習交流スペース	小中学生による、地球温暖化に関するポスターコンクールの入賞作品を展示。	—
三重県教育委員会小中学校教育課	「ふるさと三重かるた」大会	1月14日(土)	レクチャールーム	県内の保育所・幼稚園・認定こども園の幼児・小学校児童によるカルタ競技など。	48
三重生物教育会	第64回三重生物研究発表会	2月11日(土)	レクチャールーム	県内の小中高校生が理科学習・クラブ活動の成果を発表	約40
中部電力	電気ポスターの展示	2月23日(木)～3月8日(水)	交流展示室前	県内の児童の入賞作品55点の展示。	—
三重県真珠振興協議会・三重県（農林水産部フードイノベーション課）	はじめての真珠講座	3月5日(日)	交流活動室	真珠の歴史、真珠はどのようにできるのか、種類、質、セルフケアとメンテナンスの方法などを解説。	55

[みえ出前トーク]

依頼元	開催日時	会場	概要	人数	担当
津市立観音寺保育園	12月10日(土)	津市立観音寺保育園	親子で博物館を楽しもう！	70	中村
計				70	

5.5 他機関・団体への協力（職員の諸団体への協力活動）

他機関や団体から依頼を受けて各種委員や講師依頼等を受けて実施した講演や講座について学芸員ごとに講演、講座などの内容（テーマ）、依頼元、開催場所、実施日について記載した。

5.5.1 委員、講師等の依頼

大野照文（三重県総合博物館館長）

[賞]

京都市教育功労者

[委員等]

- 1 京都大学名誉教授
- 2 三重県博物館協会 理事
- 3 京都府 社会教育委員
- 4 京都大学と京都府教育委員会との連携事業検討委員会 委員
- 5 京都市立堀川高等学校 学術顧問
- 6 京都市立日吉ヶ丘高等学校 学術顧問
- 7 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 運営諮問会議委員
- 8 福井県立恐竜博物館 博物館協議会委員
- 9 兵庫県立尼崎小田高等学校 SSH運営指導委員
- 10 愛媛県文化事業 外部専門家
- 11 隠岐ユネスコ世界ジオパーク海士町拠点施設整備計画策定委員会 委員長
- 12 島根県隠岐郡海士町歴史文化基本構想検討委員会 委員長
- 13 国際教育学会 理事
- 14 公益財団法人 益富地学会館 理事
- 15 公益財団法人 体質研究会 理事

[大学講師]

- 1 放送大学「博物館概論」担当講師（平成27年3月31日～平成28年3月31日）
- 2 福井県立大学 非常勤講師
- 3 放送大学京都学習センター 非常勤講師

[講師等]

- 1 三重テレビ放送『とってもワクドキ』、「とってもきらびと」出演 三重テレビ（4月11日）
- 2 「さわって学ぼう！三葉虫化石ワークショップ」講師 大阪市立自然史博物館（5月22日）
- 3 SSH講演会「最古動物化石を求めて世界探検」講演 津高校体育館（6月24日）
- 4 「触察模型を活用した二枚貝の生態の学習 ～視覚障害者とともに進めた教材開発の経緯と、科学ヘジャンプにおける実践～」 視覚障害児のための科学ヘジャンプ地域版フォーラム2016 京都府立盲学校花ノ坊校地
- 5 岡原新聞（6月26日）「鈴木英敬知事の直球対談」インタビュー 三重県庁（6月30日）
- 6 「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」 講師 京都府綴喜郡宇治田原町立田原小学校（7月6日）
- 7 出前授業「三葉虫を調べよう」講師 EAS鈴鹿校（7月22日）
- 8 法人設立 25 周年記念式典講演『益富地学会館で育った50年』講師 ブライトンホテル京都（7月24日）
- 9 出前授業「三葉虫を調べよう」講師 ニッケン学園（7月25日）
- 10 京都府総合教育センター平成28年度小学校教員理科研修講師 京都大学総合博物館（7月29日）
- 11 京都造形大学教員免許状更新講習『コミュニケーション・スキルアップの3日間講師』、ワークショップ「貝体新書—おとなが学ぶ二枚貝—」講師 京都造形大学（7月31日）
- 12 「三葉虫と、三葉虫の生きていた時代」講師 紋別市立博物館（8月1日）

- 13 ART COMMUNICATION IN SHIMANE みるみるの会・隠岐郡教育研究会造形部会 『夏季研修会 IN 隠岐』
子ども対象研修「古生物の化石からよく考えてみよう」講師 島根県隠岐郡隠岐の島町立西郷小学校
(8月5日)
- 14 ART COMMUNICATION IN SHIMANE みるみるの会・隠岐郡教育研究会造形部会 『夏季研修会 IN 隠岐』
教育担当者対象研修「二枚貝の世界」講師 隠岐郡海士町菱浦公民館 (8月6日)
- 15 夏休み！成羽美術館物語「君も化石博士！枝の不整合 - 謎解きの半世紀の物語」講師 高梁市立成羽美
術館 (8月11日)
- 16 三重県総合博物館主催平成28年度博物館実習「博物館のおもしろさ」講師 三重県総合博物館(8月17日)
- 17 いなべFM の 石原まさたかの痛快！風雲ラジオ 出演 いなべFM (8月19日、8月26日)
- 18 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働による人材育成事業(2) (文化庁・平成28年度地域の核となる美
術館・歴史博物館支援事業) 教員対象ナビゲーター・トレーニング (第三回) ワークショップ「三葉
虫」講師 愛媛県総合科学博物館 (8月25日)
- 19 ZTV金曜お昼は生放送 出演 三重県総合博物館 (9月2日)
- 20 三重テレビ特別番組「高校生の地学最前線—国際地学オリンピックに賭ける夢」コメント出演 三重県
総合博物館 (9月2日収録、10月5日放送)
- 21 国際教育学会(ISE)公開シンポジウム「教育を科学する」 パネル・ディスカッション「子育て・教育
が育てる成人の能力」パネリスト 京都大学時計台記念館国際交流ホールI (9月3日)
- 22 第6回ミュージアム・エデュケーター研修 教育プログラム及び講義「貝体新書：おとなが学ぶ二枚貝」
講師、ディスカッションにおける質疑応答講師 東京都美術館 (9月8日)
- 23 京都市立堀川高等学校「探究基礎研究発表会」指導 京都市立堀川高等学校本館 (9月17日)
- 24 愛知サイエンスフェスティバル2016 サイエンストーク「二枚貝についての学習教室「貝体新書」講師
三菱住友銀行MSBCパーク栄 (9月29日)
- 26 第4期ボランティアスタッフ研修生対象ワークショップ 講師 (10月25日)
- 27 出前授業「大地のつくりと変化」講師 京都府宇治田原町田原小学校 (10月31日)
- 28 「集まれクレーアレーサミットin Mie2016」第3部ディスカッション コーディネーター 三重大学三翠
ホール (11月5日)
- 29 2016 University Museum & ICOM-ICOFOM/ASPAC Joint Conference “Museum, Culture and Science”
招待講演 National Cheng Kung University, Taiwan (11月8日)
- 30 いなべFM の 石原まさたかの痛快！風雲ラジオ 出演 いなべFM (11月11日)
- 31 「館長と調べる三葉虫のひみつ！～古生代生物のナゾに迫ろう～」講師 三重県立みえこどもの城 (11
月16日)
- 32 みえミュージアムセミナー番外編 講演会「博物館で探る、人類の好奇心の始まり」講師 三重県生涯
学習センター (11月26日)
- 33 京都SKYシニア大学 講義および対談「実験で過去を推理する～考古学から古生物学まで～」講師 京
都大学時計台記念ホール (11月29日)
- 34 出前授業「三葉虫を調べよう」講師 向日市立第四小学校 (12月1日)
- 35 出前授業「三葉虫を調べよう」講師 津市立北立誠小学校 (12月8日)
- 36 放送大学京都学習センター 面接授業「古生物学入門」講師 三重県総合博物館 (12月10日～11日)
- 37 READYインタビュー第9回 出演 エフエム三重 (12月13日)
- 38 文化庁教育ミュージアム・マネジメント研修 プログラム体験・講義Ⅶ【教育事業】『「間違い」で深
める大人の学習教室『貝体新書』 講師 東京国立博物館附属黒田記念館セミナー室 (12月16日)
- 39 視覚障害児童・生徒のための科学ヘジャンプin東京2016 ワークショップ「サワッテ ミル カイ」
講師 筑波大学附属視覚特別支援学校 (12月18日)

40 出前授業「三葉虫を調べよう」講師 尾鷲市立尾鷲小学校（12月19日）

中野環（主幹・課長代理・学芸員）

[委員等]

1 河川水辺の国勢調査アドバイザー，国土交通省 三重河川事務所

2 三重県生物多様性保全検討委員会委員，三重県農林水産部

[講師等]

1 水生生物の総合学習（主催：津市立片田小学校）（6月8日）

2 生きものの名前を調べてみよう ～「標本」をつくってみませんか～，しまこどもセンター・三重県環境保全事業団（8月7日）

3 ぼくら生き物調査隊 採って調べて形にしよう！ 三重県環境保全事業団（8月6日）

4 南伊勢町教育振興会研修会，南伊勢町教育振興会（8月9日）

5 南島中学校体験学習，南伊勢町立南島中学校（平成29年1月21日）

瀧川和也（主幹・課長代理・学芸員）

[委員等]

1 四日市市文化財保護審議会 委員

2 鈴鹿市文化財調査会 委員

3 亀山市文化財保護審議会 委員

4 津市文化財保護審議会 委員

5 伊賀市文化財保護審議会 委員

宇河雅之（主幹・課長代理・学芸員）

[講師等]

1 初年次ゼミ，皇學館大学（5月18日）

2 昔のくらし，津市立南立誠小学校（2月8日）

藤谷彰（主幹・学芸員）

[委員等]

1 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会・研修委員会委員

[講師等]

1 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会・研修委員会委員

[講師等]

1 川越町古文書講座，川越町あいあいセンター（5月27日，6月16日，7月12日，8月18日，9月15日の5回）

2 国立公文書館アーカイブズ研修Ⅰ（主催：独立行政法人国立公文書館）（9月1日）

3 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会大会テーマ研修会報告（11月10日）

北村淳一（主査・学芸員）

[委員等]

1 木曽川水系イタセンバラ保護増殖事業検討会アドバイザー及びガイドライン作成部会委員
（環境省中部地方環境事務所）

2 利根川下流部自然再生モニタリング委員会委員（国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所）
（環境省中部地方環境事務所）

3 櫛田川自然再生推進会議委員（国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所）

4 農業農村整備事業環境アドバイザー協議会委員（三重県農林水産部農業基盤整備課）

5 祓川環境保全全体会議座長

6 祓川環境美化推進協議会推進委員

- 7 希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- 8 実行委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
- 9 亀山市ネコギギ保護指導委員, 亀山市教育委員会

[講師等]

- 1 総合学習（水生生物調査）, 松阪市立下御糸小学校（6月3日）
- 2 生き物放流会, 松阪市立朝見小学校（5月31日）
- 3 校外学習, 松阪市立漕代小学校（7月1日）
- 4 生物救出, 松阪市立朝見小学校（9月2日）

間瀬創（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 文化財保存修復学会災害対策調査部会拡大委員

[講演等]

- 1 「博物館における資料保存」博物館実習, 三重県総合博物館（8月17日）
- 2 「博物館における資料保存」皇学館大学学芸員課程博物館資料保存論学外講義, 三重県総合博物館（10月23日）

大島康宏（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 日本鱗翅学会自然保護委員
- 2 日本蝶類学会学術委員
- 3 栃木県立博物館調査研究協力員
- 4 蜻蛉研究会編集委員
- 5 実行委員, 自然史レガシー継承・発信実行委員会
- 6 希少野生動植物種保存推進員（環境省）

[講師等]

- 1 「エンゼルの森 昆虫観察会」講師, 森永製菓株式会社主催（7月16日）
- 2 「第1回AGFブレンディの森環境教室・昆虫標本づくりにチャレンジ!」講師, 味の素AGF株式会社主催（10月10日）

太田光俊（主査・学芸員）

[講師等]

- 1 「県政140周年記念イベント」パネリスト, 三重県総務部総務課（4月16日）
- 2 「古文書解読いろは講座」鳥羽市立図書館（11月18日・12月16日・平成29年1月20日・2月17日・3月17日）
- 3 「ゲスト卓話中世安濃津の話」津北ロータリークラブ（5月19日）
- 4 「江戸時代の伊勢参宮と食」三重歴史研究会（5月29日）
- 5 「藤堂藩と仏教寺院」有造館ゼミナール（6月10日）
- 6 「「忍者」の実像について」三重県職員研修センター（12月1日）

門口実代（主任・学芸員）

[講師等]

- 1 文化教養講座「食から見た三重の歴史・文化」, 朝日町歴史博物館（11月12日）

森田奈菜（主任・学芸員）

[委員等]

- 1 希少野生動植物種保存推進員（環境省）

中村千恵（学芸員）

[講師等]

- 1 みえ出前トーク「親子で博物館を楽しもう!」, 観音寺保育園 (12月10日)
- 2 文化庁ミュージアム・エデュケーター研修 1期・2期フォローアップ研修「三重県総合博物館の概要と取組」, 三重県総合博物館 (平成29年2月25日)

津村善博 (嘱託学芸員)

[委員等]

- 1 三重県環境影響評価委員, 三重県環境生活部 (平成29年3月29日から3年間)
- 2 下水道処理建設に関するアドバイザー, 三重県中勢流域下水道事務所 (4月25日～平成29年3月31日)
- 3 鈴鹿亀山道路環境調査アドバイザー, 三重県県土整備部
- 4 津市文化財保護審議会委員
- 5 松阪市文化財保護審議会委員
- 6 丹生水銀調査委員

水谷憲二 (嘱託学芸員)

[講師等]

- 1 「藤堂藩11代藩主高猷とその時代 (1) —弘化～文久期の対外・国防問題—」有造館ゼミナール、於：アスト津4階研修室A (12月9日)

6 企業との連携

6.1 事業の趣旨・目的

博物館活動の基本的な活動の視点の一つである多様な主体との連携を進めるにあたり、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている企業・団体との交流と連携に取り組んでいる。金銭的な支援だけでなく、新たな創造と発信の機会とするために、講演会や各種ワークショップ、パネル展示等を共催して実施している。

- ・寄附 企画展示の充実や、展示・収蔵資料の保存や修繕など、博物館の活動全般に対する金銭的な支援
- ・企業パートナーシップ 一定額を会費として支払うことにより、博物館の利用に関する各種の特典を受けられる。
- ・コーポレーション・デー 任意の日在一定額の協賛をすることで、その日の来館者全員の基本展示観覧料が無料になり、合わせて企業PRなどができる。

6.2 パートナー企業数 (平成29年3月末) ※重複あり

- ・寄附支援企業 84社
- ・企業パートナーシップ会員 147社

6.3 連携事業

1) コーポレーション・デー

企 業 名	実施日	主なイベント
株式会社ケーブルコモンネット三重	6月19日(日)	キャラクター、ふしぎ実験教室、ぬり絵の展示、子どもテレビ局アナウンサー体験等
株式会社松阪鉄工所、協力会社2社 〔創業100周年記念〕	9月 4日(日)	会社のあゆみ100周年（創業当初～現代写真展）、製品紹介と工具使用の体験コーナー、ミニ新幹線、津うキャラのゴーチちゃん登場等
“みえ交通安全・環境フェスタ2016” 国土交通省中部運輸局三重運輸支局 一般社団法人三重県自動車会議所公益 社団法人三重県バス協会 他3社	9月24日(土)	バスの絵表彰式と受賞作品展示（33点）、 未来のクルマ・エコカー大集合、衝突 安全ブレーキ、お絵かきバス、パトカー や白バイ展示、自転車シュミレーター 等
中京テレビ放送株式会社	10月 2日(日)	“大徳さんのステージショー”大徳さん 体操、大徳さんじゃんけん大会、クイ ズラリー等
イセット株式会社	2月25日(土)	防犯対策相談コーナー、鈴鹿アンリミ テッドFC選手の「ボールを使わないか んたんトレーニング教室」、クイズラリー 等
株式会社百五銀行	3月 5日(日)	「金融・通貨の昔と今」、「すばらしき” みえ”」バックナンバー配布、ストラッ クアウト、クイズラリー等

※コーポレーション・デー：多くの方に博物館に親しんでいただくきっかけとして、企業等の協賛により、特定の日の基本展示観覧料を無料化。協賛企業等は、チラシの配布など自らの広報活動を実施できる制度。

2) 展示

展 示 名	展 示 名	企業の協力内容
三重県真珠振興協議会	伊勢志摩の真珠～3000の想 いをのせて～	日本の真珠養殖産業の紹介、アコヤ貝 真珠取り出し体験、真珠製品の展示
公益社団法人三重県バス 協会	バスの絵展示	バスのぬり絵作品展示
株式会社津松菱	ダンボールの遊園地	ミエゾウのパネル展示、企画展の割引
公益社団法人三重県バス 協会	バスの絵入選作品(33点)展 示	バスの絵入選作品(33点)の審査・表彰 式と受賞作品展示
読売新聞社中部支社	第60回日本学生科学賞県展 入選作品展	日本学生科学賞県展の表彰式と受賞作 品展示
中部電力株式会社三重支 店	電気ポスター・作品の展示	入選作品の展示
公益財団法人三重県下水 道公社	第29回下水道ポスターコン クール作品の展示	入選作品（22点）の展示

3) イベント

企業・団体名	内容
中部電力株式会社、三重県バス 協会、津市簡易郵便局等	MieMuにおいて、ワークショップやパネル展示を実施 ※電気実験教室、ポスター展、お絵かきハガキ等の協力
株式会社FFC三重（フューチャー・ファーム・ コミュニティー三重）設立準備委員会	食用花（エディブルフラワー）の企画・展示・試食
公益社団法人三重県バス協会	“MieMuの日”2周年記念行事にお絵かきバスの開催 バスに直接絵を描く、運転席で制服を着用し写真撮影
味の素ゼネラルフーズ株式会社 (AGF)	鈴鹿馬子唄会館に「ブレンディの森・森づくり活動」の展示 スペースの開設、森に生息する赤トンボなど昆虫標本の展示
森永製菓株式会社	伊賀・エンゼルの森“自然塾”自然体験をはじめ歴史・生活 文化体験、自然観察会

4) 館長懇談会の開催（10月18日（火））

毎年1回、寄附賛助会員・企業パートナーシップ会員をMieMuに招待し、館長の講話や、会員企業同士の名刺交換会や、学芸員との交流会を開催。

館長講話テーマ：「思い込み・見過ごし・対話下手」は克服できるかー人類進化史からの視点ー

出席数：21社・3団体（計28名）と学芸員・職員10名

5) 外部講話

企業・団体名	講話日	講話内容（テーマ）
三重県環境保全事業団	1月23日（月）	博物館でさぐる人の知恵の進化
松阪商工会議所	3月27日（月）	地域創成ー未来を担う人材育成を目指して

6) ショップ関係

内 容
MieMuオリジナル商品（木工製品、パン、あられ等）を開発、ショップで販売。
「ニンジャ百貨店」をショップで開催：忍者ペンシル、ハンカチ、クリアファイル、手帳等の文具と、ナップサック、公式ブック及び忍者オリジナルお菓子（4種類）の販売。

7) その他

県外や海外からの来客を案内、及びホテル宿泊とMieMu観覧券のセット販売や、社内用ポスター・チラシ、割引券等の配架など。



100周年記念行事
（工具組立の体験コーナー）



ブレンディの森・森づくり活動

7 利用者との協創

7.1 事業の趣旨・目的

三重県総合博物館の基本的な活動の視点である「県民・利用者との協創」に基づく取組として、旧県立博物館時代の「サポートスタッフ」を発展的に継承し、開館とともに活動を開始した「三重県総合博物館ミュージアム・パートナー」の活動への支援、平成27年度から展開する「ボランティア」活動を継続して行った。

7.2 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー

旧県立博物館時代の平成18年度に結成され新博物館整備活動にもかかわった「サポートスタッフ」を母体に、博物館とともに活動し、支える外部団体として「ミュージアム・パートナー」が発足した。当館学芸員が活動を支援し、独自の講座・観察会を実施し、三重の自然と歴史・文化について調査・観察、発信する活動を行っている。また、サポートスタッフ時代から様々な分野で活動していたグループ活動を引き継ぎ、6グループが活動を行っている。

1) 会員数 154組 255名 （平成29年3月31日現在）

2) 主な活動内容

- ・会員を対象とする講座、フィールドワーク等の事業を実施
- ・会報を発行
- ・博物館活動への参加・協力、博物館との連携によるワークショップ等の実施
- ・仲間とともに興味・関心を深めることができるグループ活動（歴史、民俗、生きもの、染織、おもしろ博物館、ユニバーサルミュージアムの6グループ）
- ・総会（年1回）、事務局会議（月1回）、役員会（会長が招集）、グループ代表者会議を開催

3) 活動内容

- ・学芸員ミニ講座

第1回「初心者のための昆虫写真撮影講座」 講師：当館職員 大島康宏

日時 6月26日（日）13:30～15:00

場所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参加 20名

第2回「東紀州地質さんぽ」 講師：当館職員 津村善博

日時 9月3日（日）13:30～15:00

場所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参加 13名

第3回「古文書読みに初挑戦！」 講師：当館職員 藤谷彰

日時 12月11日（日）13:30～15:00

場所 三重県総合博物館 3階 レクチャールーム

参加 11名

第4回「悲運の勝者、津藩主藤堂高猷の幕末維新」当館職員 水谷憲二

日時 平成29年3月26日（日）13:30～15:00

場所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参加 15名

- ・こだわり講座

ミュージアム・パートナー会員が講演を行う講座で、ミュージアム・パートナー内での活動のみに限定せず、個人での活動などについても紹介する。

第1回「小笠原領と豪商伊達家」 講師：清水重久

日時 5月15日（日）13:30～

場所 三重県総合博物館3階レクチャールーム

参加 20名

第2回「藍の生葉のたたき染」（染織グループ） 講師：染織グループ

日時 8月7日（日） 10:00～12:00

場所 三重県総合博物館2階実習室及びミュージアムフィールド（実習室に集合）

参加 14名

第3回「古地図が語る 軽便鉄道・廃線地域のいまむかし」 講師：木下辻松

日時 11月13日（日）13:30～

場所 三重県総合博物館2階交流活動室

参加 13名

第4回「昔のくらしの思い出を語ろう～地域回想法って何？」 講師：UMグループ

日時 平成29年2月26日（日） 13:30～

場所 三重県総合博物館2階 交流活動室

参加 5名

・初心者のための博物館資料取扱講座

博物館での資料の扱い方について、当館の学芸員が講師となって行う講座

自然系資料（小型脊椎動物化石） 講師：当館職員 中川良平

日時 7月29日（金） 13:30～

場所 三重県総合博物館2階実習室

参加 5名

人文系資料（軸装資料） 講師：当館職員 岸田早苗

日時 11月26日（土） 13:30～

場所 三重県総合博物館3階資料閲覧室（和室）

参加 4名

博物館学芸員などが講師を行い、館外での観察会事業

・自然史系学芸員と行く、伊勢湾島嶼の自然「春」、「夏」、「秋」、「冬」

場所 鳥羽市

第1回「春」

日時 4月24日（日） 9:00～15:00

参加 21名

第2回「夏」

日時 7月3日（日） 9:15～15:00

参加17名

第3回「秋」

日時 10月15日（日） 9:15～15:00

参加 11名

第4回「冬」

日時 2月7日（日） 9:15～15:00

※雨天のため中止

・まちあるき歴史ウォーク、伊勢街道を歩く

第1回 「四日市市の巻」

日時 12月3日（土） 10:00～15:00

場所 四日市市

参加 17名

第2回「鈴鹿神戸の巻」

日時 平成29年3月18日（土） 10:00～15:00

場所 鈴鹿市

参加 17名

・その他フィールドワーク

「松名瀬干潟のいきもの観察会」

日時 6月5日（日） 10:00～12:00

場所 松阪市松名瀬海岸

参加 ※雨天のため中止

「朝明溪谷で鉱物さがし」

日時 11月20日（日） 10:30～14:00

場所 菰野町内

参加 21名

「熊野層群の化石をたずねて」

日時 平成29年1月15日（日）13:30～15:00

場所 熊野市

参加 ※雪のため中止

・博物館めぐり

県内外の博物館を訪れ、バックヤードを含め見学

「四日市市立博物館 四日市公害と環境未来館」

日時 9月4日（日）12:45～16:00

場所 四日市市内

参加 7名

・バックヤードツアー

第1回「博物館の裏側を見てみよう」 案内：当館職員 中村千恵

日時 5月3日（火・祝）13:30～

場所 三重県総合博物館バックヤード

参加 参加者が集まらず中止

第2回「博物館の裏側を見てみよう」 案内：当館職員 中村千恵

日時 10月9日（日）13:30～

場所 三重県総合博物館バックヤード

参加 9名

・ナイトミュージアム～夜の博物館を歩いてみよう～ 案内：当館職員 中村千恵

日時 7月23日（土）19:00～

場所 三重県総合博物館内

参加 20名

・企画展内覧会

ミュージアム・パートナーを対象とする企画展内覧会を実施

勢志摩サミット開催記念第11回企画展「伊勢志摩～常世の浪の重浪よする国へ、いざNOW！～」

日時 4月15日（金）16:00～

参加 17名

第12回企画展「大変動の地～三重の三億年・変動に生きた巨大生物たち～」

日時 7月1日（金）16:00～

参加 27名

第13回企画展「The NINJA～忍者ってナンジャ！？～」

日時 10月24日（月）16:00～

参加 20名

第14回企画展「植木等と昭和の時代」

日時 平成29年1月20日（金）16:00～

参加 20名

・ミュージアム・パートナー発表会「こんなんしとるんやに2017」

ミュージアム・パートナーが今年度行った活動について発表、展示する行事。

日時 平成29年3月11日（土）・12日（日） 各9:00～17:00

場所 エントランスホール、レクチャールーム、実習室、交流活動室、
学習交流スペース

参加 693名（11日）、1,204名（12日）、計1,897名

・平成28年度総会

日時 4月3日（日）13:30～

場所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

・会議等

運営委員会（年間2回程度開催）

開催日 10月22日（土）、2月25日（土）

事務局会議（原則毎月第2土曜日開催）

開催日 4月9日（土）、5月14日（土）、6月11日（土）、7月9日（土）、8月11日（土）、9月10日（土）、
10月8日（土）、11月2日（土）、12月10日（土）、1月14日（土）、2月11日（土）、3月25日（土）

定期発送作業（原則第4木曜日実施）

開催日 4月28日（木）、5月26日（木）、6月23日（木）、7月28日（木）、8月25日（木）、9月22日（金）、
10月27日（木）、11月24日（木）、12月22日（木）、1月26日（木）、2月23日（木）、3月23日（木）

グループ代表者会議（年4回開催）

開催日 6月11日（土）、9月10日（土）、12月10日（土）、3月25日（土）

こなんしとるんやに実行委員会

開催日 9月17日（土）、10月9日（日）、11月12日（土）、12月17日（土）、1月14日（土）、2月4日（土）、
2月26日（日）、3月4日（土）

・グループ活動

<ミュージアム・パートナー事務局>

ミュージアム・パートナーの活動や企画と情報発信に取り組むグループである。主に第2土曜日に定期会議を開催し、会の運営や事業計画、通信の発行などを主な活動として、ミュージアム・パートナー主催行事の準備、運営、および通信への事業報告などを行った。

<ユニバーサル・ミュージアムグループ>

ワークショップや実践的な活動を通じて、障がいをお持ちの方とともに博物館を楽しむための方法について考えている。平成28年度は特に博物館資料を用いた地域回想法の実施について検討を行うとともに、先駆的な取組を行っている機関の研究会等にも参加し、その可能性探った。

また、目の不自由な方に博物館の魅力を伝える取組も継続的に行った。館内で開催したワークショップでは、晴眼者にアイマスクを付けてもらい、手の感覚や嗅覚の他、色や触れないものについては形状など、「言葉」で補う情報が視覚に障がいをお持ちの方にとっていかに重要であるかを紹介した。

<民俗グループ>

毎月第1土曜日に例会、第2金曜日に農具班の例会をおこなった。例会では、県内の各地域に残る伊勢講について、各自が聞き取り調査をした成果を持ち寄り、グループ内で共有した。農具班の活動では、旧上野農業高校から寄贈された農具を調査し、年度末には報告書『伊賀の農具たち―旧上野農業高校所蔵資料解説―』を刊行した。また、トピック展「くらしの道具～いま・むかし～」の関連行事としておこなった風呂敷と昔の遊びのワークショップにも携わった。

<おもしろ博物館グループ>

博物館で子どもから大人まで楽しむことができる体験学習やモノづくり教室の企画や運営を行うグループである。平成28年度の主な活動は、毎月第4土曜日午前中に活動打合せを行い、奇数月の第4土曜日午後には土日ワークショップとして簡単な工作教室等を実施した。館外での活動としては、7月には県総合文化センターで行われるM祭!での「ウォッチ型リストバンドをつくろう」や、11月には岐阜県博物館との交流企画において、「ゆらゆらチョウチョ」などを実施した。年末には恒例となっている「正月かざりづくり」を行った。

<生きものグループ>

月に1回ペースで水生生物調査を行った。三重県農林水産部主催の祓川生態系維持回復事業への参加、銚子川での魚類調査をはじめ、初めて南伊勢町や四日市市でも調査を行った。また専門家を講師としてお招きし、両生類（主にタゴガエル）や水生昆虫の調査も同時に行った。夏には志摩市にて一泊二日の合宿を行い、磯の生物を採集した。悪天候の日には博物館で液浸標本作りや資料整理を行った。

<歴史グループ>

毎月第1土曜日に、輪読会を開催した。特に伊藤又五郎家文書の輪読を行い、各自の古文書読解能力の向上をはかった。毎週木曜日は文書整理の会を開催した。ここでは、白子伊達家文書を中心とした未整理資料の整理を進めつつ、古文書読解能力及び、目録作成能力の向上を図り、あわせて館蔵資料の整備にも資するように活動した。その成果を、ミュージアム・パートナー全体のイベントにて伊藤又五郎文書を中心に展示を行い示した。

<染織グループ>

かつて伊勢木綿、松阪木綿と呼ばれ全国的に有名であった三重県の織物や藍染めなどについて、多くの方に知っていただくことをめざしている。博物館の里山で藍などを栽培し、それを用いた染色に力を入れている。また、育てた藍の種を希望者に配布する活動や、「染める」や「織る」という現代では馴染みの薄い作業を身近に感じてもらうため、体験講座を開催している。メンバー各々が自分の研究や興味を深め、グループ内で発表しあうことや、染めの実験も予定している。

※この他にも、グループ活動一環として博物館資料の整理等（歴史グループによる古文書整理、民俗グループによる民俗資料整理など）に取り組んでもらっている。

7.3 ボランティア

1) 募集開始の経緯

旧県立博物館で平成18年度から活動を開始したサポートスタッフ活動は、博物館を舞台として利用者の興味関心の自己実現を目指す活動であったが、その後、博物館で何らかの活動をしたいが、特に興味関心など専門的な活動の場は求めている利用者から、ボランティア活動を望む声が多く寄せられた。これを受けて、サポートスタッフが発展的に改称したミュージアム・パートナーと、ボランティアとの活動内容の整理を行ったうえで、平成26年度末にボランティアの募集を行い、平成27年度・28年度と継続して活動を行った。

2) ボランティアの活動内容

「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし、県民のみなさんとの「協創」の一環として「みえむボランティア」を募集し、博物館のスタッフとして職員とともに博物館活動を支える活動を行う。

具体的には、以下の3つのグループに分かれてボランティア活動を行った。

- ・来館者対応ボランティア 18名（年度当初の登録人数）
- ・ミュージアムフィールドボランティア 10名（年度当初の登録人数）
- ・保存環境ボランティア 15名（年度当初の登録人数）

3) 各グループの活動状況

<来館者対応ボランティア>

・活動内容

来館者の案内（展示室・飲食場所・トイレ・ロッカー・交通手段など）
ミエゾウ・オオサンショウウオのさんちゃん・実物図鑑ルームなどの案内
学校見学の際の対応
ワークショップ・講座などの補助
チラシ・ポスターなどの配布協力

企画展「大変動の地」・「The NINJA」の体験コーナーの補助
 <ミュージアムフィールドボランティア>

・活動内容

ミュージアムフィールドの除草作業や植栽管理作業を月1回の頻度で実施している。今年度はおもに、竹林の整備作業を行なった。

<保存環境ボランティア>

・活動内容

IPMの一環として夏季を中心に計4回、粘着トラップの設置・回収と実体顕微鏡下で文化財害虫の観察・計数を行った。

8 広報

8.1 新聞・テレビ・ラジオ

1) 新聞

平成28年度における新聞への掲載実績は、231件であった。

特に、企画展では、新聞社と共催として連携し、誌面にて関連資料や話題提供の連載を実施できた。また、企画展「忍者ってナンジャ!？」では、主催の新聞社と連携し、広告面の他、記事としても何度か紹介され、効果的な広報となった。

2) テレビ

平成28年度におけるテレビでの報道実績は、57件であった。

学芸員の展示準備に密着した特集が放送されるなど、ニュースのみに限らず様々な形で情報発信することができた。

3) ラジオ

平成28年度におけるラジオでの報道実績は、26件であった。

8.2 雑誌

1) 雑誌・フリーペーパー

平成28年度の掲載実績は、雑誌が18件、フリーペーパーが36件の計54件であった。

津市近郊の情報を扱うフリーペーパーでは、定期的に情報を掲載していただける関係ができており、今後も継続していく。また読者プレゼントとして、各企画展の招待券を提供する場合もあった。

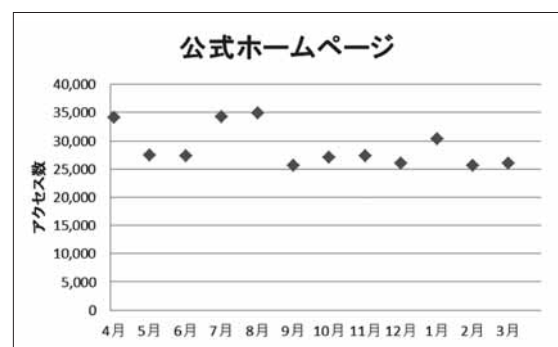
2) 社内報等その他の発行物

社内報や業界誌など、その他の発行物への掲載実績は、2件であった。新しい施設ということで、従業員の方や、地域の産業界の方に対して当館の施設を紹介することができた。

8.3 ホームページ

1) 月間アクセス数

月	アクセス数 (単位：回)	月	アクセス数 (単位：回)
4月	34,163	10月	26,995
5月	27,412	11月	27,373
6月	27,297	12月	26,046
7月	34,260	1月	30,325
8月	34,917	2月	25,609
9月	25,627	3月	25,981

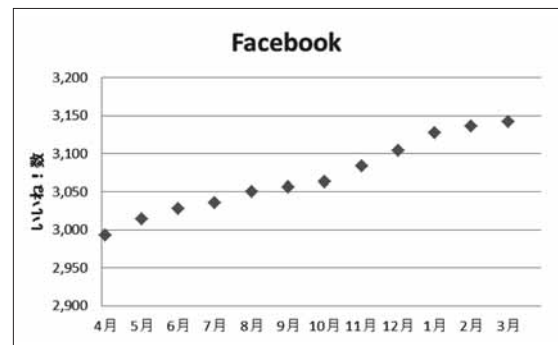


8.4 Facebook・Twitter

当館では、博物館を身近に感じより親しんでいただくことを目的として、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）のうちFacebookとTwitterの運用を行っている。

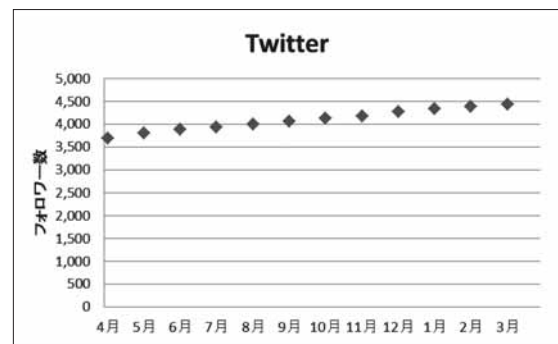
1) Facebook 月間の「いいね！」数

月	いいね！数	月	いいね！数
4月	2,933	10月	3,063
5月	3,014	11月	3,083
6月	3,028	12月	3,104
7月	3,036	1月	3,127
8月	3,050	2月	3,136
9月	3,056	3月	3,142



2) Twitter 月間のフォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4月	3,695	10月	4,124
5月	3,798	11月	4,184
6月	3,877	12月	4,266
7月	3,934	1月	4,330
8月	4,005	2月	4,383
9月	4,055	3月	4,439



9 博物館の評価

9.1 評価のしくみ

三重県総合博物館の活動を県民・利用者の方々と、「ともに考え、活動し、成長させていく」ため、最も重要な基盤となるのが「博物館マネジメント」である。

三重県総合博物館では、「博物館マネジメント」として、毎年の活動と運営を「計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)」のサイクルとして展開していく評価と改善のしくみを構築している。

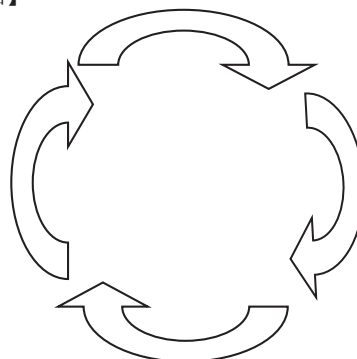
【博物館マネジメントのイメージ図】

④改善(Act) 段階

- ・ みんなでつくる博物館会議
- ・ 三重県総合博物館協議会で以下の意見をいただく
 - (1) 前年度の評価結果
 - (2) 本年度の取組報告
 - (3) 次年度の年次計画

③評価(Check) 段階

- (1) 館職員による自己点検内部評価 (4月)
- (2) 館内部評価委員会での内部評価 (5月)
- (3) 三重県総合博物館協議会評価部会での外部評価 (6月)



①計画(Plan) 段階

- ・ 戦略目標と戦術 (3年間)
- ・ 年次計画 (1年間)

② 実施(Do) 段階

- ・ 戦略目標と戦術に基づき、年次計画を実施

1) 計画段階

- ① 短期計画（3年間）：「三重県総合博物館協議会」や「みんなでつくる博物館会議」などに意見を求めながら、短期（3年間）の戦略目標と戦術を作成、公表する。戦略計画は3年間、重点的に目的をもって取り組む戦略目標、戦略目標達成のために具体的に取り組む戦術を決め、戦略や戦術の成果を評価する指標とその目標値を定める。
- ② 年次計画：短期計画のプロセスと同様に、1年間の事業計画を作成し、概要は、「三重県総合博物館年報」に掲載して公表する。

2) 施策段階

実施にあたっては、来館者アンケートを分析し、利用者による評価を集約する。
利用者数、満足度など、博物館の状況を表す数値データなども集計する。

3) 評価段階

実施段階で得たアンケート等のデータを活用し、段階的に①自己点検評価、②内部評価、③外部評価を組み合わせた総合評価を行う。

- ①自己点検評価：前年度の戦略と戦術に基づいて実施された活動と運営について、各活動と運営を担当した職員が成果指標のデータ分析を行い、活動と運営の成果について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う（4月）。
- ②内部評価：館職員による内部評価委員会を設置し、自己点検評価者とともに、各事業について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う（5月）。
- ③外部評価：内部評価委員会でまとめた事実確認と評価、改善点を元に、外部評価として設置した三重県総合博物館協議会の評価部会（委員5名）が、前年度の活動と運営の成果について評価をし、改善点を付す（6月）。

また、事業を日常的に確認し改善するために、内部において毎日朝夕2回の「日常点検報告会（5分）」と定期および臨時の戦略会議をもつ。定期戦略会議としては、第1休館日に全職員による「MieMuミーティング（1時間）」と館常勤職員による「運営ミーティング（3時間）」を開催している。また、毎週初めに課長代理以上の職員による「トップミーティング（2時間）」を開催している。

【評価と改善のしくみの構築】

先行事例を調査し、自己評価と外部評価（県民・利用者参加型の評価を含む）を効果的に取り入れ、目標・指標の設定から事実確認、評価、改善策の打ち出しまで一連の制度の構築に向けて県民のみなさんや博物館評価を専門とする外部有識者とともに検討している。

4) 改善段階

前年度の活動と運営に対する評価結果と本年度の取組について、来館者アンケートとみんなでつくる博物館会議および三重県総合博物館協議会などでいただいた意見を参考に、次年度の年次計画や次期3年間の戦略目標や戦術を構築させていく。

9.2 平成28年度の戦略目標と戦術の評価結果

平成28年度の評価結果は、次の日程で実施した。館職員の自己点検内部評価は、平成29年4月中に各戦略と戦術の担当者が評価シートをまとめた。内部評価委員会は平成29年5月11日（木）、5月12日（金）、5月17日（水）、5月23日（火）に実施し、外部評価は平成29年8月16日（水）に三重県総合博物館協議会評価部会を実施した。評価結果の概要は以下のとおりであり、各戦略目標と戦術の詳細な評価結果については、巻末の事業成果一覧に掲載した。

①内部評価結果（概要）

・総合博物館として自然と歴史・文化まで様々なテーマの展覧会を計10本開催することで、展示テーマに応じて新規来館者を獲得するとともに、年間を通じてリピーターも確保することができた。年度を追

うごとに、リピーターの割合が増えていることから、当館の活動に理解と共感を示していただける方の存在を証明できると考える。展示観覧者アンケートからは、お子様から高齢者の方まで幅広い世代にご覧いただき、満足度の4段階評価のうち、最も高い「満足」が約49%以上（「やや満足」を合わせると80%以上）を占めていることが確認できた。また、広報・営業活動により、中勢地域を中心にMieMuの認知度（77%）を高めるとともに、企業パートナーシップ会員との連携事業や、長期会員を増やすことができた。

- ・一方で、平成27年度と比較して本数は減ったものの（平成27年度14本）依然として展覧会数は多く（企画展示5本、交流展示3本、トピック展示2本）、多くの経営資源を配分せざるを得ない結果となった。また、コーポレーション・デーをはじめ多様な主体との連携事業についても積極的に取り組んできたが、博物館活動全体から見ると展示・交流事業の割合が大きくなり、資料収集や調査研究の割合が少なく、長期的な活動に支障を来す恐れがある。会議の開催見直し（運営ミーティングの廃止）等、活動の効率化を図り経営資源の再配分を行おうと試みたが十分ではなかった。

- ・平成27年度の評価結果を受けて、一部事業の内容変更（みんなでつくる博物館会議）や、平成29年度からの組織体制の変更を行い、より効果的に博物館活動を行えるよう改善した。だが、前年度の評価士によるレポートにもある通り、PDCAサイクルのアクションについて、短期的かつ担当レベルで可能なものに偏る傾向があり、組織全体として業務を管理することが課題である。

②外部評価結果（概要）

- ・企画展では、「大変動の地」や「忍者」で多くの来館者を獲得するとともに、知名度の高い「植木等」を開催することで、総観覧者数で前年度を上回り（115%）、展覧会毎の平均年齢でも21歳?52歳と幅広い層を獲得できたことは、前年度よりも本数を減らしたことと合わせ、おおいに評価できる。

- ・基本展示では、開館三年目にもかかわらず観覧者数が前年度比89%であったことは、リピーターの割合が増加（41%⇒52%）したことに支えられたと考えられ、「何度も利用してもらう」という目標は達成できたと判断できる。今後、繰返し訪れても陳腐化を感じさせない、計画的な展示更新や解説機会、学校向けプログラムのさらなる充実を期待したい。

- ・広報活動に関しては、引続きマスコミ向けの情報提供や、展示風景を伝える動画を使ったSNSでの発信など、積極的に取り組んでいることが評価できる一方で、今後は、SNSなどではより多くの職員が係わることで、専門性を活かした情報発信の強化や充実を期待したい。

- ・県民や利用者の参画については、引続き企業とは、コーポレーションデーの実施（6回、最多入館者4,692人／日）とともに、活動資金の確保（72百万円）でも、他の公立館にはないすぐれた実績を残している。企業パートナーのうち「5年コース」が切替えを迎えること、ミュージアムパートナーの自立化、さらには「博物館会議」や「こども会議」の機能継承などの課題について、早急に検討・対策を進められたい。

- ・展示環境や資料の保全・保護については、一部で虫の発生が見られたことは残念であるが、資料に影響なく食い止めることができたことは、日頃の点検と専門職による適切な対応の賜物と言える。また、相談窓口を通じて、全県的な支援活動ができたことは、公立機関として評価できる。

- ・開館以来、成果の乏しかった地元と連携した総合研究について、今年度はまず、現地調査、移動展示、シンポジウムの開催と、目に見える大きな成果が上がったことを評価したい。今後は、単年度に偏ることなく、地道でも毎年、着実な成果を上げることを期待したい。

<総括>

平成28年度については、昨年度の「優れた点とともに改善すべき点も「継承」した」、また、「企画展の本数過多や、地域での調査が引き続き低調である」との指摘に対し、確実な改善ができたことをまず、評価したい。その上で、なお、「戦術3」の学校利用促進のための館内プログラムの充実が図られなかったこと、および、「戦術14」の地域づくりへの貢献の一環とした小中学校向け調査カードの配布が実現

できなかったことは、3カ年とも同じ結果であったことを含め、大きな反省材料である。ぜひ今後、しっかり原因究明を行い、必要に応じて計画や目標を見直すことを求めたい。

平成28年度の戦略と戦術の合計評定点は、それぞれ22/24と57/68となり、単純に百分比に換算すれば、平成28年度の戦略は92%、戦術は84%と非常に高い。さらに、経年変化に注目すれば、戦略の合計については、平成26年度から28年度にかけて15⇒16⇒22、戦術についても48⇒52⇒57と推移し、確実に上がって来たことが見て取れる。これは、年を追うごとに改善が進んだこと、特に平成28年度で顕著なことを示している。しかし、3年続けて低い評価にとどまっている戦術があることは看過できず、改善にはまず、根本原因の徹底的な調査が必要である。また、今回、一気に評価点数が向上した戦略5およびそれを構成する戦術14・16については、調査研究の「成果の有無」を判断指標としたため、成果に至る途上では評価点数が得られない。そのため、今年度の結果だけを見て、単純に一喜一憂できないことにも留意しなければならない。いずれにせよ、総点数が増加し、平成28年度の戦略6（評価制度を活用して事業を選択）の評定点が上がったことは、館における改善の努力が実ったことはもとより、この評価システムが一定の機能・役割を果たした結果と考えたい。そう言うものの当館には未だ、先に記した改善の進まない事項や、それ以外にも、開館の前提とした運営費目標が達成できていないことや、職員間での業務量の偏りが見られるなど、課題は残っている。引き続き、本評価制度が有効に機能し、適正な目標設定、原因究明から改善策の策定、PDCAサイクルの循環が実現することで、利用者サービスの向上が図られ、県民の期待に応える博物館となるため、現場と設置者が一体となって不断の努力をされることを期待する。

9.3 みんなでつくる博物館会議

1) みんなでつくる博物館会議

目 的

「みんなでつくる博物館会議」は、県民・利用者のみなさんが楽しくMieMuに参加することで博物館づくりに参画することを目的としている。

日 時 平成29年2月4日（土）13時30分から16時30分まで

場 所 三重県総合博物館 レクチャールーム

参加人数 5名

内 容 利用者の皆さんとMieMuの館内を探検して、普段は見逃しているような面白いポイントや、お気に入りの展示などの「見どころ」を発見して探検マップを考えた。

マップを完成させた後は、それぞれのマップについてお気に入りの展示などをお互いに話し合った。完成したマップについては、開催翌日の2月5日（日）から2月19日（日）まで学習交流スペースに展示し、来館者にも広くごらんいただいた。

2) こども会議

目 的

「こども会議」は、子どもたちが博物館づくりへの参画のしくみの一つとなるよう、平成24年度から試行的に毎年開催してきた。子どもたちにとって、魅力的な博物館とはどのようなものか、大人も交えてMieMuのあり方について話し合う機会を設けることを目的としている。

日 時 平成28年8月7日（日） 13時30分から16時30分まで

場 所 三重県総合博物館（MieMu）レクチャールーム

参加人数 20名

内 容 当館学芸員にグループでインタビューし、博物館の仕事や学芸員の役割について対話を通じて理解を深めながら、学芸員と一緒にやってみたいことについて話し合った。

9.4 アンケート結果概要

1) 目的

博物館利用者の意見と要望、ニーズ、満足度、与えた影響を把握しながら、今後の施設利用や接遇、展示活動、交流創造活動、広報のあり方などを検討・改善し、利用しやすく地域の役に立つ博物館づくりを進めるために来館者アンケートを実施している。さらに、ビジョンや戦略目標、戦術における毎年の達成度を評価するためのデータ収集も目的としている。

2) 実施方法

展示観覧者に対してのアンケートは、基本展示室、企画展示室、交流展示室の各展示室出口付近に机と椅子を置き、アンケート記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のアンケート用紙と鉛筆及びアンケート回収箱を置き、展示観覧者が自由にアンケートに記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。入館者に対してのアンケートは、学習交流スペースに机と椅子を置き、ご意見記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のご意見記入用紙と鉛筆及びご意見回収箱を置き、来館者が自由にご意見を記入していただけるようにして、開館中毎日実施した。交流創造活動参加者に関してのアンケートは、事業実施前に配布資料とともにアンケートを配布し、事業終了時に記入いただくことで収集した。

3) 項目

アンケートは、基本展示用、各企画展示用、ご意見記入用、交流創造活動の4種類あり、それぞれ大人用と子ども用を用意した。展示については、①興味を引く資料の有無とその内容、②改善点の有無とその内容、③展示から新たな考えを得たかとその内容、④展示の満足度、⑤展示を知った媒体、を聞いた。さらに、MieMuについても、①MieMuの来館回数、②MieMuを一言で表すと、③ご意見・ご要望、を聞いた。アンケート記入者の属性については、①性、②年齢、③居住地、④今日を除いてミュージアムを訪れた回数、を聞いた。ご意見記入用については、まずご意見・ご要望を聞き、アンケート記入者の属性及び、MieMuを知った媒体、MieMuの満足度を聞いた。

1) 基本展示アンケート

アンケートにご協力ください。アンケートのデータは、博物館運営に関する改善活動や研究以外の目的では使用いたしません。

A ご覧になった展示についてお尋ねします。

(1) ご覧になった展示に関して、次の質問について具体的なご意見などがありましたら、ご記入ください。
また、**改善すべき点**にもお書きください。

- ・興味をひく資料、印象に残った展示コーナーがありましたか。
①いいえ ②はい (内容:)
- ・改善すべき展示内容や展示方法がありましたか。
①いいえ ②はい (内容:)
- ・展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。
①いいえ ②はい (内容:)

(2) ご覧になった展示に満足しましたか。 **○を1つ**おつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

(3) この展示をなにでお知りになりましたか。 **複数するものすべてに○**をおつけください。

①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「果敢だより」、
⑦館の公式ホームページ、⑧そのほかのホームページ・ブログ、
⑨館のTwitterやFacebook、⑩そのほかのTwitterやFacebook、
⑪家族、人から聞いて、⑫その他 ()

B 三重県総合博物館 MieMu についてお尋ねします。

(1) 三重県総合博物館 MieMu の展示を観るのは、今何回目ですか。 **○を1つ**おつけください。
①はじめて、②2回目、③3回目、④4回目以上

(2) MieMu をひとことであらわすと、どんな言葉がふさわしいですか。
三重県総合博物館 MieMu は、_____です。

(3) MieMu についてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

C あなた自身 (回答者ご本人) のことをお尋ねします。もしよろしければ、ご回答ください。

() 内の該当する項目に **○を1つ**おつけください。また、_____にはご記入ください。

(1) 性別 () (2) 年齢 _____歳

(3) 居住地 (①津市内: _____市 ②三重県内: _____市 ③三重県外: _____都道府県)

(4) 今日を除いて過去1年間で何回、「ミュージアム」を訪れましたか。
(①0回、②1回、③2回、④3回、⑤4回以上)

* 「ミュージアム」とは、MieMuなどの博物館のほか、美術館、科学館、動物園、水族館、資料館などを指します。
裏面もご協力ください。

アンケート用紙表

基本展示室で印象に残った展示と改善すべき展示の場所と内容を記入してください。
※場所はおおよそでも構いませんし、内容だけの記入でも構いません。

※地図上の名前は大雑把なイメージです

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙裏

4) 傾向

平成28年度の展示アンケート回答枚数は、基本展示637枚、企画展示4,282枚であった。なお、企画展示は企画展の他、交流展、トピック展を合わせた数である。展示観覧者に対する回答率は、2.2%であった。

【アンケート回答者の属性】

【男女比】基本展示と企画展示の1年間の合計で、女性57.6%、男性42.4%であった（図1）。

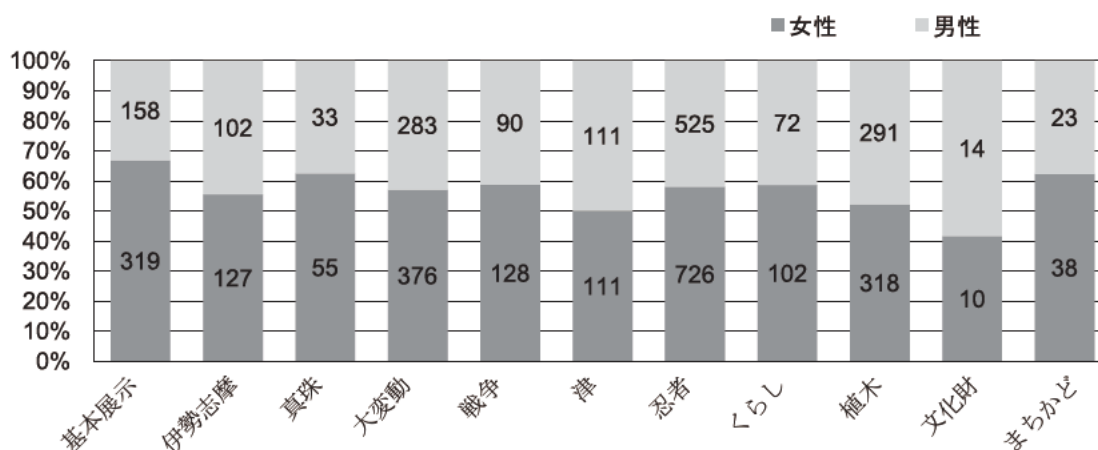


図1. 各展示観覧者の男女比

【各展示観覧者の年齢層】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、12歳までが42.6%、13-19歳が5.2%、20-34歳が11.1%、35-49歳が18.5%、50歳以上が22.6%で、小学生以下が約40%であった。なお各展示での年齢層は、「大変動」、「戦争」「忍者」「くらし」展で小学生以下が約50%と高く、「植木」「まちかど博物館」では50歳以上が約60%と高い傾向にあった。（図2）。

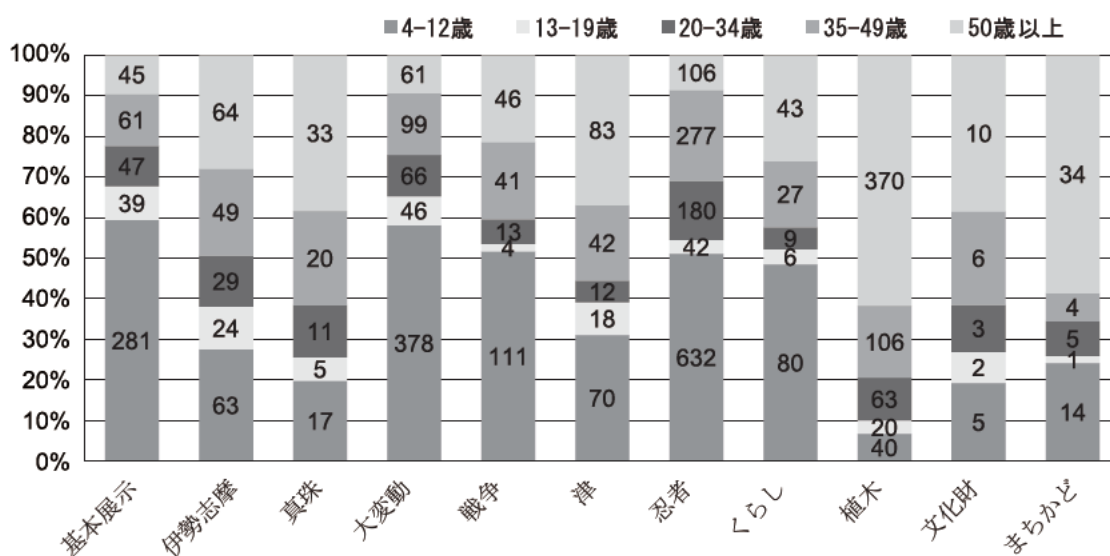


図2. 各展示観覧者の年齢層（グラフ内の数字は展示観覧者数）

【各展示観覧者の居住地】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、津市が39.8%、松阪・紀勢地域が9.2%、北勢地域が20.9%、伊賀地域が2.4%、伊勢志摩地域が8.1%、東紀州が1.1%、県外が18.5%であった。全国的にも知名度のある「忍者」と「植木」は県外が20%以上だった。一方、「津」「くらし」「まちかど博物館」については津市が50%以上だった（図3）。

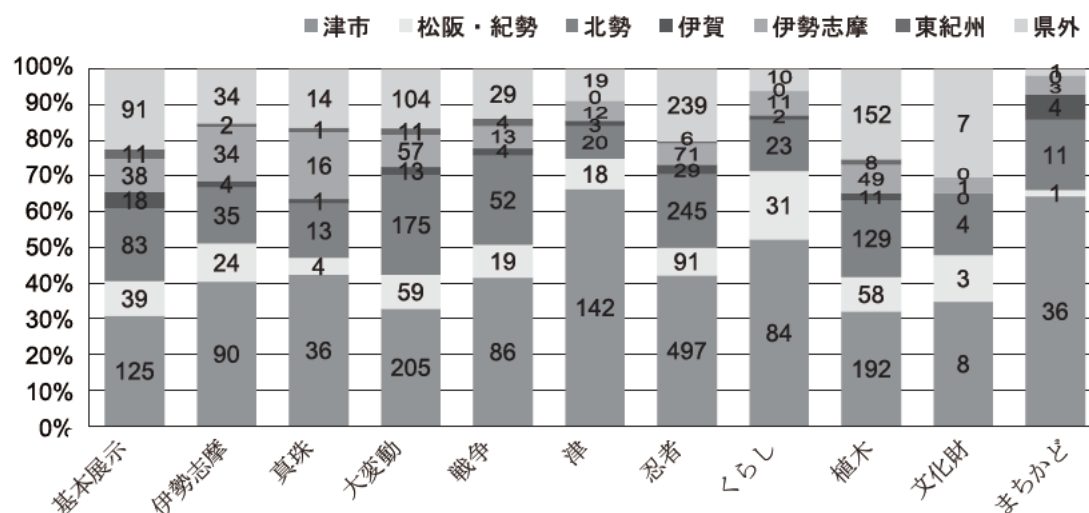
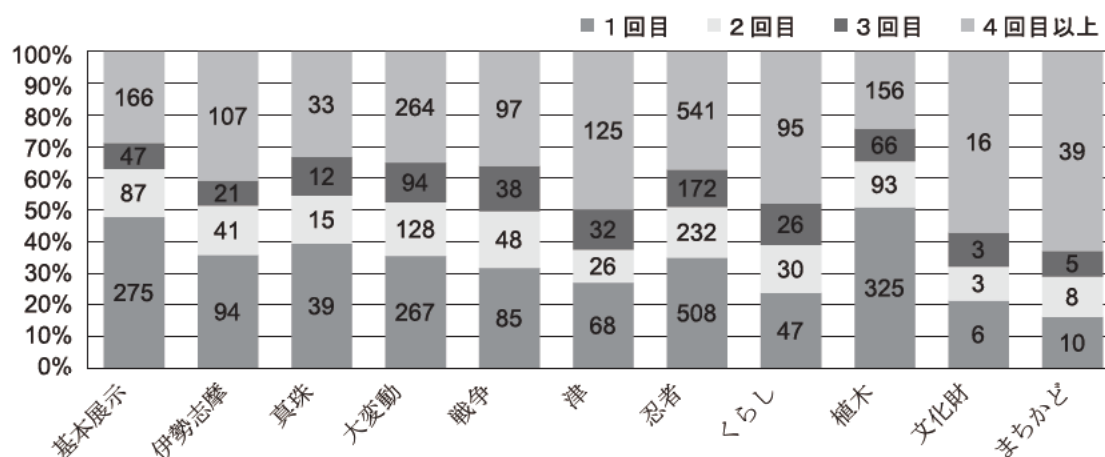


図3. 各展示観覧者の居住地（グラフ内の数字は展示観覧者数）

【MieMuの来館回数】

1回（初めて）割合が、「植木」で50%以上と高かった。全体的にリピーターの割合が多くなってきており、その中でも「伊勢志摩」「津」「くらし」「文化財」「まちかど博物館」はリピーターの割合が40%以上と高かった（図4）。

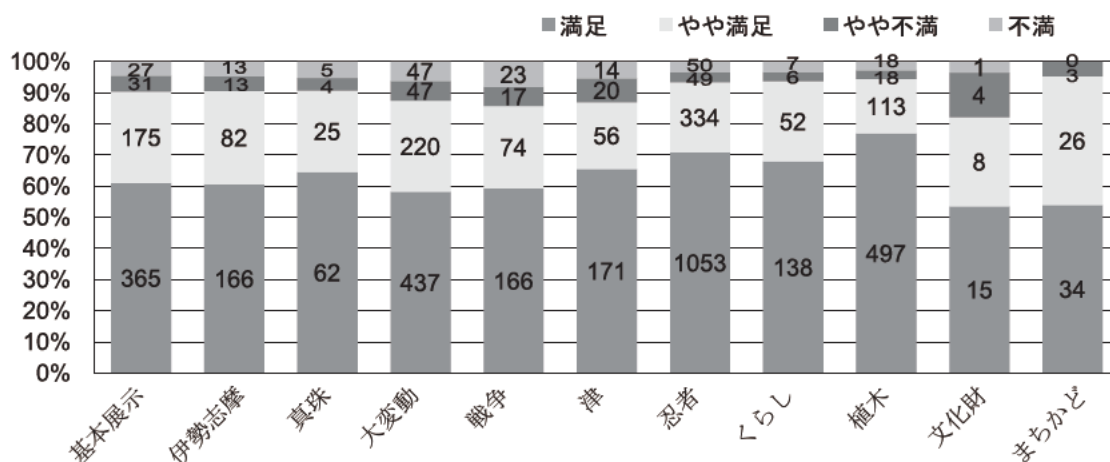


【ミュージアム（博物館、美術館、科学館、動植物園、水族館、資料館など）をよく利用するかを尋ねる1年間のミュージアム訪問回数】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、ほとんど利用しない1回以下が47.5%で、よく利用する4回以上が約30.2%であった。

【展示に対する満足度】

基本展示において、「満足」の割合は約60%で、「どちらかという満足」が29.4%であった（図5）。企画展示は、「満足」が50-75%で、「どちらかという満足」を合わせるとどの企画展も満足が80%を超えた。自由記述のご意見や指摘等については、日々改善に努めている。



【観覧動機となった媒体】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、ポスターが30.4%、チラシが26.4%、口コミが21.8%で他と比べて高い。次に、館のホームページが12.1%、新聞が11.2%、テレビが8.8%であった。その他が約17%で、「小学校の社会見学で来たから」「前回来て楽しかったから」などの記載があった。

【MieMuについてのご意見】

展示観覧者・入館者アンケートから、MieMuの印象、全体のご意見・ご要望を聞いている。「こども体験展示室」や「飲食休憩スペース」、「来館者のマナー」などについて意見をいただいた。これらの意見については毎日確認し、日々改善に努めている。

Ⅲ 資料

1 条例・規則

1.1 三重県総合博物館条例

三重県総合博物館条例

公布 平成二十五年六月二十八日

施行 平成二十六年四月 十九日

改正 平成二十六年三月二七日三重県条例第五七号

平成二十九年三月二八日三重県条例第三〇号

〔注〕平成二九年三月二八日三重県条例第三〇号による改正は、平成三十年四月一日から施行につき、本文には直接改正を加えないで、改正文を点線で囲って、附則の末尾に登載した。

（設置）

第一条 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産を保全し、継承し、及び次代へ生かすとともに、地域社会を支える人づくり及び個性豊かで活力ある地域づくりに貢献するため、博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第十八条の規定に基づき、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）を津市に設置する。

（事業）

第二条 博物館においては、次の事業を行う。

- 一 博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び一般の利用に供すること。
- 二 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての調査研究を行うこと。
- 三 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての講演会、観察会、見学会等を行うこと。
- 四 公文書館法（昭和六十二年法律第百十五号）の趣旨にのっとり、県が保有していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を博物館資料として保存し、展示し、及び一般の利用に供するとともに、これに関連する調査研究を行うこと。
- 五 前各号に掲げるもののほか、三重県教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業を行うこと。

（休館日）

第三条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は別に休館日を定めることができる。

- 一 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に定める休日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の最初の休日でない日）
- 二 十二月二十九日から翌年の一月三日までの日

（開館時間等）

第四条 博物館の開館時間（第三項において「開館時間」という。）は、午前九時から午後七時までとする。ただし、入館できる時間（第三項において「入館時間」という。）は、午後六時三十分までとする。

2 博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）を利用することができる時間（次項において「利用時間」という。）は、別表第一のとおりとする。

3 教育委員会は、必要があると認めるときは、開館時間、入館時間及び利用時間を変更することができる。

（指示）

第五条 館長は、博物館資料又は施設等の保全、館内の秩序維持その他博物館の管理上必要があると認める

ときは、展示された博物館資料の観覧者（第七条の手續をした者をいう。以下「観覧者」という。）、博物館資料の利用者（第八条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）、施設等の利用者（第九条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）その他の関係者に対し必要な指示をすることができる。

（入館の制限）

第六条 館館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、又は退館を命じることができる。

- 一 めいてい者等他人に危害又は迷惑を及ぼすおそれのある者
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれのある者
- 三 前二号に掲げる者のほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかった者

（観覧の手續）

第七条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、教育委員会規則の定めるところにより、観覧の手續をしなければならない。

（博物館資料の閲覧等の許可）

第八条 博物館資料の閲覧、撮影等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

（施設等の利用の許可）

第九条 施設等を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

（許可の条件等）

第十条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前二条の許可を与えないものとする。

- 一 公益を害し、又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれがあるとき。
- 三 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第二条第二号に規定する暴力団をいう。次条第三号において同じ。）の利益になると認められるとき。
- 四 博物館の事業の実施に支障を来すおそれがあるとき。

2 教育委員会は、博物館資料に個人に関する情報その他の教育委員会規則で定める情報が記録されている場合には、第八条の許可を与えないことができる。

3 教育委員会は、前二条の許可に博物館の管理上必要な条件を付けることができる。

（許可の取消し）

第十一条 教育委員会は、博物館資料の利用者又は施設等の利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第八条若しくは第九条の許可を取り消し、又は博物館資料の閲覧、撮影等若しくは施設等の利用を中止させることができる。

- 一 偽りその他不正の行為により許可を受けたとき。
- 二 許可を受けた目的に反して博物館資料の閲覧、撮影等を行い、又は施設等を利用したとき。
- 三 暴力団の利益になると認められるとき。
- 四 前条第三項の規定により付けられた条件に違反したとき。
- 五 前各号に掲げるもののほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかったとき。

（観覧料）

第十二条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、別表第二に定める額の観覧料を納付しなければならない。

2 前項の観覧料は、前納しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限り

でない。

(使用料)

第十三条 博物館資料の利用者又は施設等の利用者は、別表第三に定める額の使用料を納付しなければならない。

2 前項の使用料は、第八条又は第九条の許可の際に納付しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(博物館協議会)

第十四条 博物館法第二十条第一項の規定に基づき、博物館に三重県総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第十五条 協議会は、委員十五人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 前三号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

3 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

5 第一項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満としないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

(会長及び副会長)

第十六条 協議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第十七条 協議会の会議(以下この条において「会議」という。)は、会長が招集し、議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(罰則)

第十八条 次の各号のいずれかに該当する者は、五万円以下の過料に処する。

- 一 第五条の指示に従わなかった者
- 二 第六条の規定による入館の拒否又は退館の命令に従わなかった者
- 三 第七条の手続をしないで入館し、展示された博物館資料を観覧した者
- 四 第八条の許可を受けずに博物館資料の閲覧、撮影等を行った者
- 五 第九条の許可を受けずに施設等を利用した者
- 六 第十一条の規定による許可の取消し又は中止処分に従わなかった者

(他の条例との関係)

第十九条 この条例に定めるもののほか、三重県公債権の徴収に関する条例(昭和三十九年三重県条例第十三号)に定める事項については、その定めるところによる。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(委任)

第二十条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則又は教育委員会規則で定

める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成二十六年五月十八日までの間において規則で定める日から施行する。（平成二十六年二月三重県規則第三号で、同二十六年四月十九日から施行）ただし、附則第三項の規定は公布の日から、附則第四項の規定は同年四月一日から施行する。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

（三重県立博物館条例の廃止）

2 三重県立博物館条例（昭和三十九年三重県条例第四十九号）は、廃止する。

（準備行為）

3 この条例の施行に関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても行うことができる。

（観覧料の納付の特例）

4 平成二十六年四月一日から附則第一項本文に規定する規則で定める日の前日までの間において、知事は、別表第二に規定する観覧料であつて企画展示及び特別企画展示に係るものに限り、第十二条の規定の例により納付させることができる。

追加〔平成二六年条例五七号〕

附 則（平成二十六年三月二十七日三重県条例第五十七号）

この条例は、三重県総合博物館条例の施行の日から施行する。ただし、附則第一項の改正規定及び附則に一項を加える改正規定は、公布の日から施行する。

附 則（平成二十九年三月二十八日三重県条例第三十号）

1 この条例は、平成三十年四月一日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

2 この条例による改正後の三重県総合博物館条例（以下「新条例」という。）第三条第一項の規定による指定及びそれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、新条例の規定の例により行うことができる。

注 平成三〇年四月一日から施行

三重県総合博物館条例の一部を改正する条例

平成二十九年三月二十八日

三重県条例第三十号

三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号）の一部を次のように改正する。

第二十条を第三十三条とし、第十九条を第三十二条とする。

第十八条第一号中「第五条」を「第十五条」に改め、同条第二号中「第六条」を「第十六条」に改め、同条第三号中「第七条」を「第十七条」に改め、同条第四号中「第八条」を「第十八条」に改め、同条第五号中「第九条」を「第十九条」に改め、同条第六号中「第十一条」を「第二十一条」に改め、同条を第三十一条とする。

第十七条を第三十条とし、第十四条から第十六条までを十三条ずつ繰り下げる。

第十三条第二項中「第八条」を「第十八条」に、「第九条」を「第十九条」に改め、同条を第二十三条とし、同条の次に次の三条を加える。

（原状回復義務）

第二十四条 指定管理者は、指定の期間が満了したとき、又は法第二百四十四条の二第十一項の規定により

指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じられたときは、その管理を行わなくなった施設等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

（損害賠償義務）

第二十五条 指定管理者は、故意又は過失により施設等を損壊し、又は滅失したときは、それによって生じた損害を県に賠償しなければならない。

（秘密保持義務）

第二十六条 指定管理者の役員及び職員並びにこれらの者であった者は、博物館の管理の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

第十二条を第二十二条とする。

第十一条中「第八条」を「第十八条」に、「第九条」を「第十九条」に改め、同条第五号中「第五条」を「第十五条」に改め、同条を第二十一条とする。

第十条第二項中「第八条」を「第十八条」に改め、同条を第二十条とする。

第九条を第十九条とし、第八条を第十八条とし、第七条を第十七条とする。

第六条第三号中「第五条」を「前条」に改め、同条を第十六条とする。

第五条中「第七条」を「第十七条」に、「第八条」を「第十八条」に、「第十一条」を「第二十一条」に、「第十三条」を「第二十三条」に、「第九条」を「第十九条」に改め、同条を第十五条とする。

第四条第二項中「博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）」を「施設等」に改め、同条を第十四条とする。

第三条を第十三条とし、第二条の次に次の十条を加える。

（指定管理者による管理）

第三条 博物館の管理は、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号。以下「法」という。）第二百四十四条の二第三項の規定により、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）にこれを行わせる。

2 議会の議員、知事、副知事並びに法第百八十条の五第一項及び第二項に規定する委員会の委員（教育委員会にあっては、教育長及び委員）又は委員は、主として博物館の管理を行う指定管理者の無限責任社員、取締役、執行役若しくは監査役又はこれらに準ずべき者、支配人及び清算人（以下この項において「役員等」という。）たることができない。ただし、議会の議員以外の者が、県が資本金、基本金その他これらに準ずるものの二分の一以上を出資している指定管理者の役員等になる場合は、この限りでない。

（指定管理者が行う業務の範囲）

第四条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

一 博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理及び修繕に関する業務

二 前号に掲げるもののほか、博物館の管理に関する業務のうち、教育委員会が必要と認める業務

（指定管理者の指定の申請）

第五条 指定管理者の指定を受けようとするものは、次に掲げる書類を添えて、教育委員会が別に定めるところにより、教育委員会に申請しなければならない。

一 博物館の事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

（指定管理者の指定）

第六条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準によりその申請を審査しなければならない。

一 事業計画の内容が、県民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること。

三 事業計画の内容が、博物館の効用を最大限発揮できるものであり、県民サービスの向上を図ることができるものであること。

四 事業計画の内容が、施設等の管理に係る経費の縮減を図るものであること。

五 指定を受けようとするものが、事業計画に沿った管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基礎を有していること。

２ 教育委員会は、前項の規定により審査した結果、博物館を最も効果的に管理することができると認めたものを、議会の議決を経て指定管理者として指定する。

（選定委員会）

第七条 教育委員会は、前条第一項の審査を適正に行うため、教育委員会の附属機関として、指定管理者の選定に関する委員会（以下この条において「選定委員会」という。）を置く。

２ 選定委員会は、教育委員会の諮問に応じ、次の事項について調査審議する。

一 審査基準及び配点表の作成に関する事項

二 指定管理者の指定を受けようとするものから提出される事業計画書等の審査に関する事項

三 その他指定管理者の選定を行うに当たって必要な事項

３ 選定委員会は、委員五人以上十人以内で組織し、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

４ 委員は、博物館の管理に関し優れた識見を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

５ 委員の任期は、任命の日から前条第二項の規定により指定管理者を指定する日までとする。

６ 前各項に定めるもののほか、選定委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（指定等の告示）

第八条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

一 第六条第二項の規定により指定管理者を指定したとき。

二 法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

（協定の締結）

第九条 教育委員会は、指定管理者と次に掲げる事項を定めた協定を締結するものとする。

一 博物館の管理に関する事項

二 次条に規定する事業報告書に関する事項

三 法第二百四十四条の二第十一項に規定する指定の取消し及び管理の業務の停止に関する事項

四 管理の業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項

五 県が支払うべき管理費用に関する事項

六 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

（事業報告書の作成及び提出）

第十条 指定管理者は、毎年度終了後二月以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して二月以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

一 博物館の管理の業務の実施状況及び利用状況

二 博物館の管理の業務に係る経費の収支状況

三 前二号に掲げるもののほか、博物館の管理の業務の実態を把握するために必要な事項

（業務状況の聴取等）

第十一条 教育委員会は、博物館の管理の適正を期するため、指定管理者に対して、その管理の業務又は経

理の状況に関し毎年度一回又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地について調査し、又は必要な指示をすることができる。

（教育委員会による管理）

第十二条 教育委員会は、法第二百四十四条の二第十一項の規定により指定を取り消し、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき、又は指定管理者が天災その他の事由により管理の業務の全部若しくは一部を行うことが困難となった場合において必要があると認めるときは、管理の業務の全部又は一部を自ら行うものとする。

別表第一中「第四条」を「第十四条」に改める。

別表第二中「第十二条」を「第二十二條」に改める。

別表第三中「第十三条」を「第二十三條」に改める。

別表第一（第四条関係）

区分	利用時間
基本展示室 企画展示室 交流展示室	午前九時から午後五時まで
交流活動室 こども体験展示室 実習室 資料閲覧室 三重の実物図鑑 レクチャールーム レファレンスカウンター	午前九時から午後七時まで

別表第二（第十二条関係）

区分	観覧料			
	基本展示		企画展示及び特別企 画展示	年間パスポート券 による観覧
	個人	団体		
小学生、中学生、高校生 及びこれらに準ずる者	—	—	展示等を行うのに要 する費用を勘案して その都度知事が定め る額	—
大学生及びこれに準ずる者	三〇〇円	二四〇円		一、〇二〇円
一般	五一〇円	四〇〇円		一、六四〇円

備考

一 基本展示の団体の欄に掲げる額は、観覧者が二十人以上の団体を構成している場合の当該構成員（団体の引率者を含む。）一人当たりの観覧料をいう。

二 特別企画展示とは、教育委員会が定める特別な企画による展示をいう。

三 年間パスポート券とは、交付を受けた日から起算して一年を経過する日までの間において、基本展示及び企画展示を観覧することができる券をいう。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

別表第三（第十三条関係）

区分	使用料
博物館資料	一回につき、一点五、一四〇円以下の範囲内において知事が定める額
交流展示室	一時間につき一、九四〇円
レクチャールーム	一時間につき一、七二〇円

備考 使用時間に一時間未満の端数があるときは、その端数は一時間とする。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

1.2 三重県総合博物館条例施行規則

三重県教育委員会規則第二号
三重県総合博物館条例施行規則

公布：平成二十六年三月十七日

施行：平成二十六年四月十九日

(趣旨)

第一条 この規則は、三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(用語)

第二条 この規則における用語の意義は、条例で使用する用語の例による。

(入館者の遵守事項)

第三条 博物館へ入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 触ることのできる表示のある博物館資料を除き、博物館資料に触れないこと。
- 二 展示室、資料閲覧室で鉛筆以外のものを使用しないこと。
- 三 撮影できない表示のある博物館資料の撮影をしないこと。
- 四 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- 五 その他、係員の指示に従うこと。

(博物館資料の閲覧等の許可の申請)

第四条 条例第八条の規定により博物館資料の閲覧の許可を得ようとする者は、閲覧の形態に応じて、閲覧利用申請書（第一号様式その一からその三まで）をそれぞれ館長に提出しなければならない。

2 条例第八条の規定により、博物館資料の撮影等の特別利用の許可を得ようとする者は、特別利用申請書（第二号様式）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項を許可したときは、博物館資料特別利用許可書（第三号様式）を交付するものとする。

4 博物館資料の利用者は、善良なる管理者の注意をもって利用しなければならない。

(施設等利用の許可の申請)

第五条 条例第九条の規定により施設等の利用の許可を得ようとする者は、施設等利用許可申請書（第四号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項を許可したときは、施設等利用許可書（第五号様式）を交付するものとする。

3 施設等の利用期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、これを延長することができる。

(施設等の変更の禁止)

第六条 施設等の利用者は、博物館の施設等に変更を加え、又は特別の施設等を設けてはならない。ただし、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(利用の廃止又は中止)

第七条 施設等の利用者は、博物館の施設等の利用を廃止又は中止しようとするときは、施設等利用廃止（中止）届（第六号様式）をあらかじめ館長に提出しなければならない。

(利用者の遵守事項)

第八条 施設等の利用者は、次の各号に掲げる事項を守るとともに、善良なる管理者の注意をもって施設等を利用しなければならない。

- 一 営利行為を行わないこと。ただし、図録等の販売で館長の承認を受けたものは除く。
- 二 施設等の適正な管理及び火災防止に努めること。
- 三 その他、係員の指示に従うこと。

(資料の貸出)

第九条 博物館は、博物館資料を貸し出すことができない。ただし、当該博物館資料が学術上の調査研究又は教育の普及のために使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると認められるときは、博物館の運営に支障をきたさない範囲において、次の各号に掲げるものに対して貸し出すことができる。

- 一 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二条第一項の規定による博物館及び同法第二十九条の規定による博物館に相当する施設
 - 二 三重県内の官公署
 - 三 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校
 - 四 その他館長が適当と認めるもの
- 2 前項ただし書の規定により、博物館資料の貸出しを受けようとする者は、資料貸出許可申請書（第七号様式）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該博物館資料が博物館に寄託された資料（以下「寄託資料」という。）であるときは、当該寄託をした者（以下「寄託者」という。）の承諾書を添付しなければならない。
- 3 館長は、前項の許可をしたときは、資料貸出許可書（第八号様式）を交付するものとする。
- 4 第二項の許可を受けた者（以下「借受人」という。）は、当該貸出しに伴う一切の費用を負担しなければならない。
- 5 博物館資料の貸出期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、この限りでない。
- 6 借受人は、善良なる管理者の注意をもって博物館資料を利用しなければならない。

(弁償の義務)

第十条 入館者、施設等の利用者及び借受人が故意又は過失により、博物館資料若しくは施設等を汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第十一条 博物館に資料を寄贈及び寄託しようとする者は、資料寄贈（寄託）申請書（第九号様式）を館長に提出し、その承諾を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の承諾をしたときは、資料受領書（第十号様式）を交付するものとする。
- 3 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。
- 4 博物館は、寄託資料が火災等やむを得ない事由により汚損し、破損し、又は亡失した場合には、その責めを負わない。
- 5 博物館が、寄託者の申出により、寄託資料の返還を行うときは、資料受領書と引き換えに行うものとする。

(歴史資料として重要な公文書の受入れ)

第十二条 博物館は、条例第二条第四号に掲げる県が保有していた歴史資料として重要な公文書等を受け入れるものとする。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十六年四月十九日から施行する。
(三重県立博物館条例施行規則の廃止)
- 2 三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）は、廃止する。
(三重県教育委員会教育長事務専決規則の一部改正)
- 3 三重県教育委員会教育長事務専決規則（昭和三十一年三重県教育委員会規則十五号）の一部を次のよう

に改正する。

別表中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(三重県教育委員会事務局組織規則の一部改正)

- 4 三重県教育委員会事務局組織規則（昭和四十三年三重県教育委員会規則六号）の一部を次のように改正する。

第十六条第一項第十二号中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則の一部改正)

- 5 知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則（平成二十年三重県教育委員会規則第二号）の一部を次のように改正する。

第二条第二項中「三重県立博物館」を「三重県総合博物館」に改め、「三重県立博物館条例（昭和三十九年三重県条例第四十九号）及び三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）の改正及び廃止に関する事務」を「次に掲げる事務」に改め、「三重県立博物館条例第五条及び第七条」を「三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号）第五条及び第六条並びに三重県総合博物館条例施行規則（平成二十六年三重県教育委員会規則第二号）第四条から第九条及び第十一条」に改め、同項の次に次の各号を加える。

一 三重県総合博物館条例及び三重県総合博物館条例施行規則の改正及び廃止に関すること。

二 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二十一条及び三重県総合博物館条例第十五条第二項の規定に基づく博物館協議会委員の任免及び委嘱又は解嘱に関すること。

施行規則各種申請様式

第1号様式その1

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(当日 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成	年	月	日
申請者	利用証番号	氏 名		
	住 所			
	電 話	電話(携帯)		
	E-mail			
閲覧希望日 (予約を要し、 ない方はご記入く ださい)	第一希望日	平成	年	月 日
	第二希望日	平成	年	月 日
	第三希望日	平成	年	月 日
	その他			
撮影の有無	有 / 無	※下記をご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の器材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成	年	月	日
閲覧日	平成	年	月	日
担 当				
備 考				

第1号様式その2

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(予約 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成	年	月	日
申請者	利用証番号	氏 名		
	住 所			
	電 話	電話(携帯)		
	E-mail			
閲覧希望日	第一希望日	平成	年	月 日
	第二希望日	平成	年	月 日
	第三希望日	平成	年	月 日
	その他			
撮影の有無	有 / 無	※下記をご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の器材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成	年	月	日
閲覧日	平成	年	月	日
担 当				
備 考				

第1号様式その3

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(県が保有していた歴史資料として重要な公文書等 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成	年	月	日
申請者	利用証番号	氏 名		
	住 所			
	電 話	電話(携帯)		
	E-mail			
撮影の有無	有 / 無	※下記(3)をご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(1) 文書に含まれる個人情報等、公開できない情報についての内容審査のため、閲覧までに2週間を要した期間を要します。
(2) 内容審査が終わった後、博物館から閲覧日程について連絡いたします。
(3) 三脚・フラッシュ等の器材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成	年	月	日
閲覧日	平成	年	月	日
担 当				
備 考				

(第2号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館特別利用申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名
電 話

印

三重県総合博物館条例施行規則第4条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他 ()																
内 容	(1) 閲覧 (実物・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (稿等) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他 ()																
利用期間 (発行予定日、放映予定日・期間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日 () : ～ 平成 年 月 日 () :																
利用場所 (印刷物・放映等では 掲載順・要約順など)																	
利用資料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料番号</th> <th>資料名</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	資料番号	資料名	数量	備考												
資料番号	資料名	数量	備考														
担 当 者	電話																
備 考																	

● 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
(1) 善良なる管理者の注意をもって利用します。
(2) 施設、備品等の汚損、破損及び火災防止に注意します。
(3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
(4) 利用時間を遵守します。
(5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮します。
(6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
(7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
● 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または失ったときは、その修理または補填に要する費用を負担いたします。
● 画像等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。

(第3号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料特別利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった資料の利用は、下記のとおり許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他 ()																
内 容	(1) 複製 (実物・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (複製) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他 ()																
利用期間 (発行予定日、放映予 定日・時間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日 () : ～平成 年 月 日 () :																
利用場所 (出版物・放映等では 掲載紙・番組名など)																	
利用資料	<table><tr><th>資料番号</th><th>資料名</th><th>数量</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	資料番号	資料名	数量	備考												
資料番号	資料名	数量	備考														
担 当 者	電話																
備 考																	

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 善良なる管理者の注意をもって利用すること。
 - (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意すること。
 - (3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けること。
 - (4) 利用時間を遵守すること。
 - (5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮すること。
 - (6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しないこと。デジタルデータの利用の場
合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従うこと。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理また
は補正に要する費用を負担すること。
- 資料等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部送付すること。

(第4号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可申請書

三重県総合博物館長 宛て
申請者 住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第5条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
	利用者数			
備 考				

(1) 図覧会等で施設を使用するときは、展示資料の一覧を添付すること。

(2) 設備等を設置するときは、概要を確認できる図面を添付すること。

(第5号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった施設等の利用は、下記のとおり許可します。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
	利用者数			
備 考				
利 用 料	円			

(第6号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用廃止（中止）届

三重県総合博物館長 宛て
住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第7条の規定に基づき、下記の事由により博物館の施設等の利用
を廃止（中止）したいので届け出ます。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
廃止（中止） 事由及び期日	(事由) 中止・廃止			
備 考				

(第7号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名
電 話

印

三重県総合博物館条例施行規則第9条の規定に基づき、下記について申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) その他 ()
貸出期間 (展示の場合は、展示 期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :
利用場所 (保管・展示場所)	
貸出資料	資料番号 資料名 数量 備考
取扱責任者	電話
輸送方法	
備 考	

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 資料等について善良なる管理者の注意をもって利用します。
 - (2) 施設、物品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
 - (3) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (4) 貸出期間を遵守します。
 - (5) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
 - (6) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補充に要する費用を負担いたします。
- 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。
- 展覧会等で利用する場合、観覧会開催要項、展示会場、保管場所、警備体制、消防計画、職員体制、公開承認施設資格の有無等の資料を添付いたします。

(第8号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可書

(申請者) 種

三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった博物館資料の貸出は、下記の条件の下に許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) その他 ()
貸出期間 (展示の場合は、展示 期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :
利用場所 (保管・展示場所)	
貸出資料	資料番号 資料名 数量 備考
取扱責任者	電話
輸送方法	
備 考	

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 貸出を受けた者 (以下「借受人」という。)は、貸出を受けた資料 (以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。
 - (2) 貸出に伴う一切の費用は、借受人が負担すること。
 - (3) 借受人は貸出資料を故意又は過失により、汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担すること。
 - (4) 借受人は、貸出資料を本書記載事項以外の目的、内容に使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (5) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (6) 貸出期間を遵守すること。
 - (7) その他、利用に際しては当博物館職員の指示に従うこと。
 - (8) 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈すること。

(第9号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館資料寄贈 (寄託) 申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名
電 話

印

三重県総合博物館条例施行規則第11条の規定に基づき、下記のとおり、資料を寄贈 (寄託) したいので申請します。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		

寄託の場合、寄託期間
平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

(第10号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料受領書

種

三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の寄贈 (寄託) は、下記のとおり、受領しました。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		

寄託の場合、寄託期間
平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

1.3 三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱

三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱

平成二十六年四月十九日

(設置)

第1条 三重県総合博物館協議会（以下「協議会」という。）に、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）の活動と運営に対して評価を実施するための三重県総合博物館協議会評価部会（以下「部会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 部会は、博物館の前年度の活動と運営の成果に対して、調査審議して評価を下し、その結果を協議会に報告する。

(組織)

第3条 部会は、協議会委員2名及びその他の有識者3名で構成する。

2 部会委員のうち、協議会委員については互選で選出し、その他の有識者については協議会の了承を得て、館長が委嘱する。

3 部会委員の任期は、協議会委員と同じとする。

4 部会委員は、再任されることができる。

5 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

6 部会長は、部会の会務を総理する。

7 副部会長は、副部会長を補佐し、部会長に事故あるときはその職務を代理し、部会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第4条 会議は、部会長が招集し、議長となる。

2 部会長は、必要があると認めるときは、会議に部会委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

3 会議は、非公開とする。

(庶務)

第5条 部会の庶務は、博物館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要綱は、平成26年 9月 5日から施行する。

1.4 観覧料免除要項

三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館観覧料減免要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和39年三重県条例第13号）第3条の規定に基づき三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館（以下「博物館等」という。）の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「観覧料」とは、次に掲げるものをいう。

(1) 三重県立美術館条例（昭和57年三重県条例第1号。次条第1項第1号において「美術館条例」という。）

第12条に規定する観覧料

(2) 斎宮歴史博物館条例（平成元年三重県条例第6号。次条第1項第1号において「斎宮条例」という。）

第11条に規定する観覧料

(3) 三重県総合博物館条例（平成25年三重県条例第64号。以下「博物館条例」という。）第12条に規定する観覧料

(減免の対象)

第3条 観覧料の免除を受けることのできる者は、次に掲げる者とする。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて、美術館条例別表第1に掲げる企画展、斎宮条例別表第1に掲げる特別展、企画展その他特別な催物並びに博物館条例別表第2に掲げる企画展示及び特別企画展示を観覧する県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童及び生徒

(2) 教育課程に基づく教育活動として観覧する県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童及び生徒を引率する者

(3) 県内に設置されている児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設の在籍者で当該施設の職員に引率されて観覧する児童及び当該児童の引率者

(4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者

(5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者

(6) 知的障がい者と判定された者に対して公的機関が発行する療育手帳又は療育手帳に代わる証明書の交付を受けている者

(7) 前各号に該当する者のうち介護を要する者の介護を行う者。ただし、原則として対象者1人につき1人に限る。

2 前項に定めるもののほか、知事は、特に必要と認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

(減免の手続)

第4条 前条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、博物館等観覧料免除申請書兼承認書（様式第1号。以下「申請書」という。）に必要な事項を記載して博物館等の館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、同項第4号から第7号までに掲げる者が観覧料の免除を受けようとする場合には、同号に掲げる者であることを証する書類又は手帳の提示等をもって申請書の提出に代えることができる。

2 博物館等の館長は、申請書に基づく承認をしたときは、当該申請書にその旨を記して申請者に交付するものとする。

3 前条第2項の規定による観覧料の減免に関し必要な事項は、知事が別に定める。

(免除の手続の特例)

第5条 博物館等の館長は、前条第1項の規定による申請書の提出については、博物館等の館長が別に定めるところにより、博物館等の館長の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下この条において同じ。）と、申請をしようとするものの使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用して行わせることができる。

2 前項の規定により行われた提出は、同項の電子計算機に備えられたファイルへの記録がされた時に、博物館等の館長に到達したものとみなす。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。ただし、三重県総合博物館に係る規定は、博物館条例の施行の日から施行する。

（三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱の廃止）

2 三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱（平成20年三重県告示第199号。次項において「旧告示」という。）は、廃止する。

（経過措置）

3 この告示の施行前に旧告示の相当規定による免除についてなされた手続は、この告示に規定する免除についてなされた手続とみなす。

様式第1号（第4条関係）

博物館等観覧料免除申請書兼承認書

年 月 日

三重県総合博物館長 様

団 体 名
代 表 者 名
住 所

下記のとおり観覧料の免除を受けたいので申請します。

記

博物館等の名称	三重県総合博物館
免除申請の理由	
在 館 時 間	年 月 日() 時から 時まで
入 館 人 員	
引率代表者名	電話番号 FAX番号
備 考	

（注意）インターネットやファックスでも受け付けます。

上記の申請に対して、承認します。

年 月 日

三重県総合博物館長

2 事業成果一覧

● 入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	27	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	309
入館者数(人)	15,989	14,577	13,938	25,795	43,853	21,590	17,056	21,250	17,217	19,637	12,823	17,181	240,906
1 日平均(人)	615.0	539.9	536.1	955.4	1686.7	830.4	656.0	817.3	717.4	818.2	534.3	636.3	779.6

● 展示観覧者数

(1) 基本展示観覧者数

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数（日）		26	27	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	309
有料観覧者	基本展示単独券利用	677	627	490	348	504	978	684	387	355	454	411	771	6,686
	セット券利用	342	989	416	2,880	4,513	191	308	1,206	1,203	1,687	813	723	15,271
	年間パスポ ート利用	234	283	256	699	726	311	246	325	312	405	274	297	4,368
	（小計）（人）	1,253	1,899	1,162	3,927	5,743	1,480	1,238	1,918	1,870	2,546	1,498	1,791	26,325
無料観覧者	高校生以下	1,133	916	1,366	4,543	7,527	2,987	1,228	2,721	2,570	2,558	1,195	1,449	30,193
	学校利用	701	824	722	259	238	1,620	2,772	1,728	730	346	748	171	10,859
	視察/招待	130	220	275	289	706	144	189	288	306	389	141	229	3,306
	障がい者及び付添	249	310	199	440	551	171	186	275	409	391	351	339	3,871
	キャンパスメンバ ーズ	70	162	75	190	145	53	69	328	185	258	86	81	1,702
	その他（※1）	525	0	959	0	0	2,370	457	787	0	0	667	574	6,339
	（小計）（人）	2,808	2,432	3,596	5,721	9,167	7,345	4,901	6,127	4,200	3,942	3,188	2,843	56,270
	合計（人）	4,061	4,331	4,758	9,648	14,910	8,825	6,139	8,045	6,070	6,488	4,686	4,634	82,595
1 日平均（人）		156.2	160.4	183.0	357.3	573.5	339.4	236.1	309.4	252.9	270.3	195.3	171.6	267.3

(2) 企画展示観覧者数

展示名		第11回企画展 伊勢志摩	第12回企画展 大変動の地	第13回企画展 The NINJA	第14回企画展 植木等と 昭和の時代	27年度 合計
開催期間		H28.4.16 ～H28.6.19	H28.7.2 ～H28.9.4	H28.10.25 ～H29.1.9	H29.1.21 ～H29.3.20	
開館日数（日）		57	56	62	51	226
有料観覧者	企画展示単独券利用	894	4,119	5,133	3,292	13,438
	セット券利用	1,747	7,584	4,092	1,848	15,271
	年間パスポ ート利用	1,374	2,938	3,146	1,374	8,832
	（小計）（人）	4,015	14,641	12,371	6,514	37,541
無料観覧者	高校生以下	1,821	15,576	13,855	1,768	33,020
	学校利用	1,991	497	3,693	1,152	7,333
	視察/招待	1,069	1,608	2,007	1,148	5,832
	障がい者及び付添	697	1,026	985	910	3,618
	キャンパスメンバ ーズ	293	347	654	314	1,608
	その他（※1）	0	0	0	0	1,831
	（小計）（人）	5,871	19,054	21,194	5,292	51,411
合計（人）		9,886	33,695	33,565	11,806	88,952
1 日平均（人）		173.4	601.7	541.4	231.5	393.6

(3) 交流展示・トピック展示観覧者数

展示名	伊勢志摩の 真珠	「写真週報」に 見る戦争中の 暮らし	津のあゆみ	くらしの道具	三重の 文化財Ⅱ	三重のまちかど 博物館	合計
開催期間	H28.4.15 ～H28.5.8	H28.7.9 ～H28.8.21	H28.9.17 ～H28.10.10	H29.1.14 ～H29.3.5	H29.2.4 ～H29.3.20	H29.3.14 ～H29.3.20	
開催日数(日)	22	38	21	44	39	16	180
観覧者数(無料)(人)	6,318	14,110	8,688	12,779	7,226	2,932	52,053
1日平均(人)	287.2	371.3	413.7	290.4	185.3	183.3	289.2

(※1) 県民の日記念イベントの日、コーポレーション・デー、関西文化の日など

● こども体験展示室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	27	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	309
利用者数(人)	5,408	5,726	4,941	10,082	15,298	7,448	5,618	6,245	6,009	6,337	4,212	5,355	82,679
1日平均(人)	208.0	212.1	190.0	373.4	588.4	286.5	216.1	240.2	250.4	264.0	175.5	198.3	267.6

● 資料閲覧室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	27	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	309
入室者数(人)	115	164	198	237	261	200	230	459	157	105	121	120	2,368
1日平均(人)	4.4	6.1	7.6	8.8	10.0	7.7	8.8	17.7	6.5	4.4	5.0	4.4	7.7
閲覧者数(人)	71	115	86	156	173	106	162	296	114	43	90	73	1,485
1日平均(人)	2.7	4.3	3.3	5.8	6.7	4.1	6.2	11.4	4.8	1.8	3.8	2.7	4.8

戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標		評価結果		外部評価	外部評価	外部評価	外部評価						
		アウटकーム（成果）	戦略を評価するための指標	達成度	戦略					アウットアウト（産出量）	アウटकーム（成果）		短期的（定性）	内部評価	評価結果
											短期的（定量）	短期的（定性）			
「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	3	参画者数 (295名、1447団体) 平成27年度 269名、21社 平成28年度 262名、20社	・個人や企業からも、多くの参画者を得ることが出来た。 ・特に企業との連携では、イベントの開催だけでなく、資金援助（経営支援）でも、高い成果を上げている。 ・一方で、事業の位置づけや実施方法を見直す必要があるものもある。	9	活動への企業・参画者の参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します	ミュージアム・パートナーへの交流回数（244回） 平成27年度 226回 平成28年度 294回	参画者数（270名） 平成27年度 255名 平成28年度 230名	参画者への交流に対する満足度（7）（33%） 平成27年度 35% 平成28年度 30%	・引続き、自主運営型、自主運営型に合わせた事務的支援、活動における専門的支援、ともに十分であると考え、各活動における専門的支援を行っている。	外部評価	・自主運営型に合わせた事務的支援、活動における専門的支援、ともに十分であると考え、各活動における専門的支援を行っている。	外部評価	・自主運営型に合わせた事務的支援、活動における専門的支援、ともに十分であると考え、各活動における専門的支援を行っている。	外部評価	
	3	参画者数 (295名、1447団体) 平成27年度 269名、21社 平成28年度 262名、20社	・個人や企業からも、多くの参画者を得ることが出来た。 ・特に企業との連携では、イベントの開催だけでなく、資金援助（経営支援）でも、高い成果を上げている。 ・一方で、事業の位置づけや実施方法を見直す必要があるものもある。	10	活動への企業の参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します	協賛事業数（24件）14社7団体 平成27年度 19社21社 平成28年度 25件20社	協賛金額 (71,830千円)※累計 平成27年度 71,580千円 平成28年度 71,470千円	企業の連携事業への満足度（7）（83%） 平成27年度 85% 平成28年度 70%	・企業とは、24件もの連携事業を実施することができた。 ・企業・パートナーシップについては5年間の長期会費が増加しており、多くの企業にM・e・Mの価値を認めていただけています。 ・社員特典をPRし、各社員の家族等にもM・e・Mの魅力を知ってもらう必要がある。	内部評価	・企業とは、24件もの連携事業を実施することができた。 ・企業・パートナーシップについては5年間の長期会費が増加しており、多くの企業にM・e・Mの価値を認めていただけています。 ・社員特典をPRし、各社員の家族等にもM・e・Mの魅力を知ってもらう必要がある。	評価結果	・企業とは、24件もの連携事業を実施することができた。 ・企業・パートナーシップについては5年間の長期会費が増加しており、多くの企業にM・e・Mの価値を認めていただけています。 ・社員特典をPRし、各社員の家族等にもM・e・Mの魅力を知ってもらう必要がある。	外部評価	
	3	参画者数 (295名、1447団体) 平成27年度 269名、21社 平成28年度 262名、20社	・個人や企業からも、多くの参画者を得ることが出来た。 ・特に企業との連携では、イベントの開催だけでなく、資金援助（経営支援）でも、高い成果を上げている。 ・一方で、事業の位置づけや実施方法を見直す必要があるものもある。	11	経営への参画促進のために、みんなであつくる博物館会議を行います	みんなであつくる博物館会議 (分科会も含め)の実施回数 平成27年度 2回 平成28年度 2回	参加者数（こども会議20名、みんなであつくる博物館会議参加者5名） 平成27年度（こども会議17名、みんなであつくる博物館会議参加者5名） 平成28年度（こども会議14名、みんなであつくる博物館会議参加者5名） アンケート（来館者・ボランティア）103名 ミュージアム・パートナーとの意見交換15名 平成28年度 32名	参加者の満足度（7）（65%）こども会議のみ 平成27年度 93% 平成28年度 31%	・こども会議については、開催時期やテーマを改善し、効果的に実施することが出た。 ・みんなであつくる博物館会議は、開催から前年度までの意見をいただく仕組みとして一定の役割を果たしたと考えられる。 ・今後、同会議に代わって利用者の意見を取り入れる機会や仕組みを考える必要がある。	内部評価	・こども会議については、開催時期やテーマを改善し、効果的に実施することが出た。 ・みんなであつくる博物館会議は、開催から前年度までの意見をいただく仕組みとして一定の役割を果たしたと考えられる。 ・今後、同会議に代わって利用者の意見を取り入れる機会や仕組みを考える必要がある。	評価結果	・こども会議については、開催時期やテーマを改善し、効果的に実施することが出た。 ・みんなであつくる博物館会議は、開催から前年度までの意見をいただく仕組みとして一定の役割を果たしたと考えられる。 ・今後、同会議に代わって利用者の意見を取り入れる機会や仕組みを考える必要がある。	外部評価	
博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	4	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	12	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	内部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	
	4	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	12	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	内部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	
	4	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	12	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	地域・文化財等の保存・保全方法の改善を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	内部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価
博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	12	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	内部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	
	4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	12	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	内部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	
	4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	12	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できる資料の活用を図る	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	内部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価	・「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への関係・利用者の参画を促進します	外部評価

戦略目標	戦略を評価するための指標		評価結果	外部評価	戦略		現状	アウトカム（成果）		アウトカム（成果）		外部評価	外部評価	外部評価を基に 取組の方向と改善点
	測定値	現状			短期的（定量）	短期的（定性）		短期的（定量）	短期的（定性）					
地域にある資源の学 術的価値づけとその 意識を伝えるために、 地域をめぐりに意識を 喚起すること（中） あるような（中）の めた特定の地域の 総合的な研究に対象 を絞って集中的に取 り組む	5	2	1	研究成果の認知度（7） 移動展示観覧回数 1,111名 平成27年度 実施せず 平成28年度 実施せず	14	調査カード配布数（0回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	1	調査カード回収数 平成27年度 12名 平成28年度 12名	調査成果の満足度（7） 調査会実施回数（2回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	調査カード回収率（7） 調査会実施回数（2回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	・ 調査カードの配布ができたこと から、参加者が増え、調査 結果が向上した。 ・ 当初からやりかたが、次期調査 では、調査に合わせた内容を検討する。 ・ 調査カードの配布ができたこと から、参加者が増え、調査 結果が向上した。 ・ 当初からやりかたが、次期調査 では、調査に合わせた内容を検討する。	・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。	参加型調査の推進 という本来の目的 に達していない。 ・ 調査の内容を向上 して引き取り取り 組む。	
	5	2	1	研究成果の認知度（7） 移動展示観覧回数 1,111名 平成27年度 実施せず 平成28年度 実施せず	15	調査カード配布数（0回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	2	調査カード回収数 平成27年度 12名 平成28年度 12名	調査成果の満足度（7） 調査会実施回数（2回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	調査カード回収率（7） 調査会実施回数（2回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。	・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を実施し、参加者 を増やすことができた。		
経営資源を効果的に 配分するために、評 価制度を活用して事 業を推進します	6	2	1	各事業のコスト・パフォーマンスの改善（定性） （評価なしでユー）	16	研究成果の発表を伝えるため に、調査会や公開講座、シン ポジウムを開催します	2	シンポジウム開催回数（2回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	シンポジウム参加者数 （2名） 平成27年度 12名 平成28年度 12名	シンポジウム満足度（7） シンポジウム満足度（7）	・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。	・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。	・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ シンポジウムを開催し、参加者 を増やすことができた。	
	6	2	1	各事業のコスト・パフォーマンスの改善（定性） （評価なしでユー）	17	事業を日常的に推進し改善す るために、定例および臨時の 調査会を開催します	3	調査会開催回数（2回） 平成27年度 0回 平成28年度 0回	調査会参加者数 （2名） 平成27年度 12名 平成28年度 12名	調査会満足度（7） 調査会満足度（7）	・ 調査会を開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を開催し、参加者 を増やすことができた。	・ 調査会を開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を開催し、参加者 を増やすことができた。 ・ 調査会を開催し、参加者 を増やすことができた。		

※（7）はアンケートによるデータ収集

三重県総合博物館 年報 通巻3号（平成28年度）

Mie Prefectural Museum Annual Report No.3

平成30年3月 発行

編集・発行 三重県総合博物館（MieMu）

〒514-0061三重県津市一身田上津部田3060

電話 059-228-2283

FAX 059-229-8310

印刷 共立印刷株式会社

Copyright © 2018 by Mie Prefectural Museum

